

CE9.14 Cisco TelePresence ユーザーガイド SX10、SX20



目次

このユーザ ガイドの内容

ビデオ会議：概要	
ホーム画面	4
リモート制御 (I)	5
リモート制御 (II)	6
ビデオ通話	
連絡先リストからのコールの発信	8
コールの前に連絡先を編集する	9
帯域を編集して発信する	10
名前、番号、または IP アドレスを使用したコールの配置	11
既存のコールへの参加者の追加	12
会議から参加者を切断する	13
コールを受信	14
通話中に追加の着信を受ける	15
継続中のコールを転送する	16
画面のレイアウトを変更する	17
会議中のスピーカーの固定	18
[応答不可] を有効にする	19
スタンバイを有効にする	20
すべてのコールを転送する	21
最近の通話のコール詳細検索	22

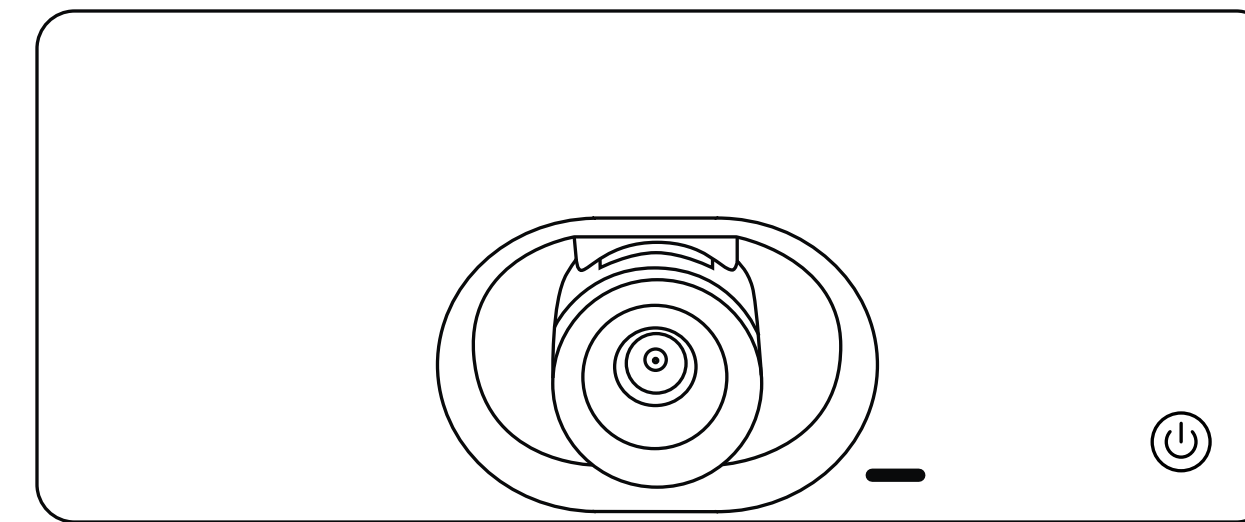
インテリジェント近接通信	
Cisco 近接通信の超音波信号	24
コンテンツ共有	
プレゼンテーションの開始と中止	26
通話中にプレゼンテーションレイアウトを変更する	27
ミーティングのスケジュール	
ミーティングのスケジュールに参加する	29
コンタクト	
非通話時に [お気に入り] に追加する	31
通話中に [お気に入り] に追加する	32
カメラ制御 (Camera Control)	
カメラ設定の表示(ローカル カメラ)	34
遠端カメラ制御	35
自画面 PiP の移動	36
カメラをオンまたはオフにする	37
設定	
アクセス設定	39

格納ファイルのすべてのエントリは、対応記事に移動するためのアクティブハイパーリンクです。

チャプター間を移動するには、サイドバーのアイコンをクリックする方法もあります。

注: このユーザガイドで説明されている機能の一部は、特定の市場ではオプションである場合があります。

ビデオ会議： 概要

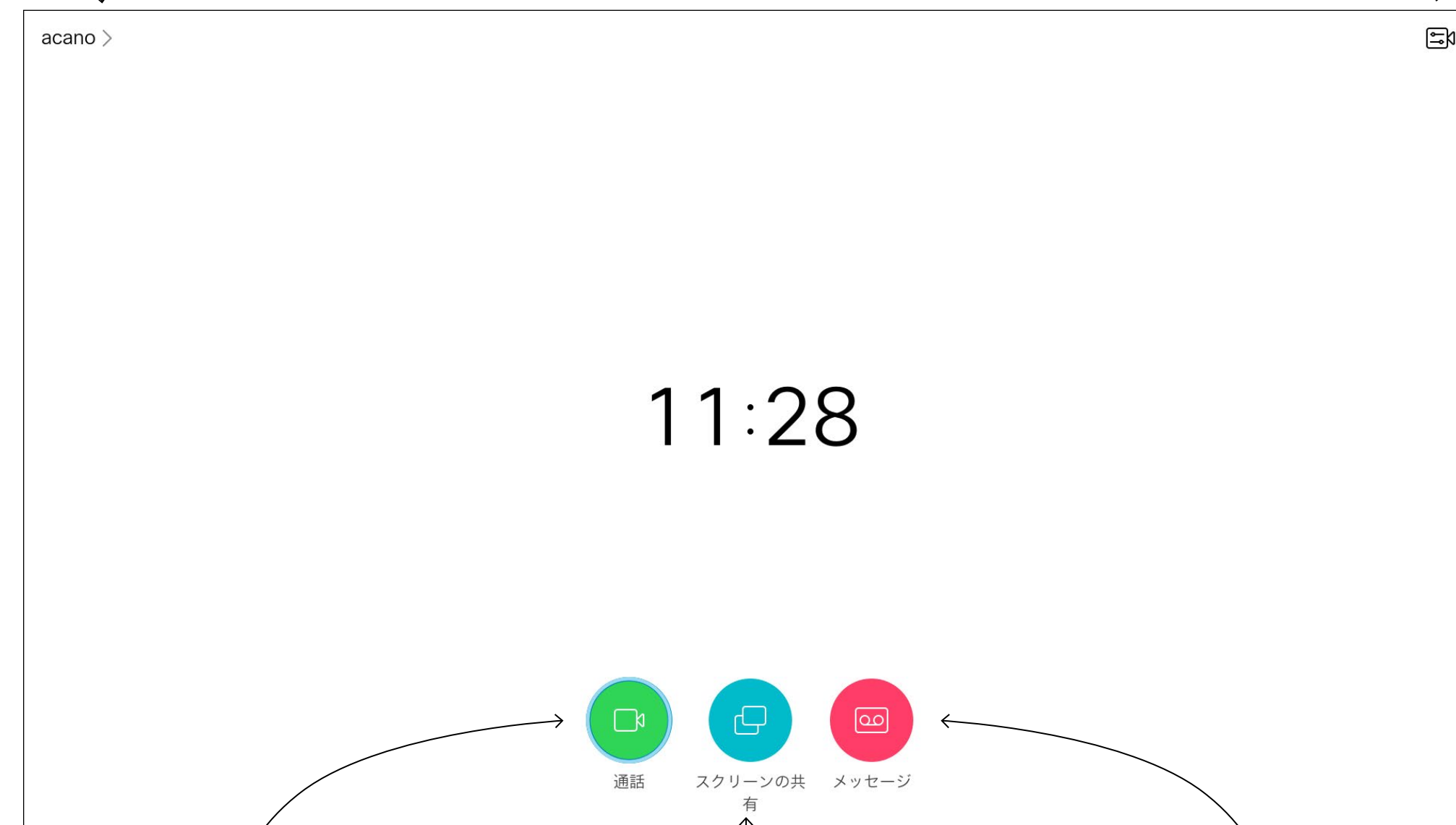


はじめに ホーム画面

操作のヒント

画面の左上隅には、スタンバイモード、システム情報および、応答不可の各機能にアクセスできる詳細アイコン(➤)があります。

画面の右上隅には、カメラ制御メニューアイコンがあります。



ディスプレイ下部左側には 通話ボタンがあります。

ディスプレイ下部右側には 共有画面ボタンがあります。

お使いのデバイス用のメッセージングシステムが存在する場合は、ここからメッセージにアクセスします。

画面の中を移動するには、方向キーを使用します。選択したメニューフィールドを開くには、OK/Enter を押します。

変更を実行せずにメニューを終了するには、キャンセルキーを使用します。(ホーム画面に戻ります)。戻るキーを使用して、1 ステップ戻ることができます。

以降のページではリモートコントロールボタンについて説明します。

インテリジェント近接機能を使用すると、デバイス上のビデオデバイスからワイヤレスでコンテンツを表示してキャプチャできます。また、独自のデバイスを使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。ページの["インテリジェント近接通信" \(ページ 23\)](#)をご覧ください。

ヒント [応答不可] に設定すると、着信音はミュートになり、他のユーザが行った通話の試みは不在着信として表示されます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

デフォルトでは、[応答不可] は 60 分でタイムアウトしますが、これはビデオサポートチームによって別の設定に変更されている可能性があります。

はじめに リモート制御 (I)

操作のヒント



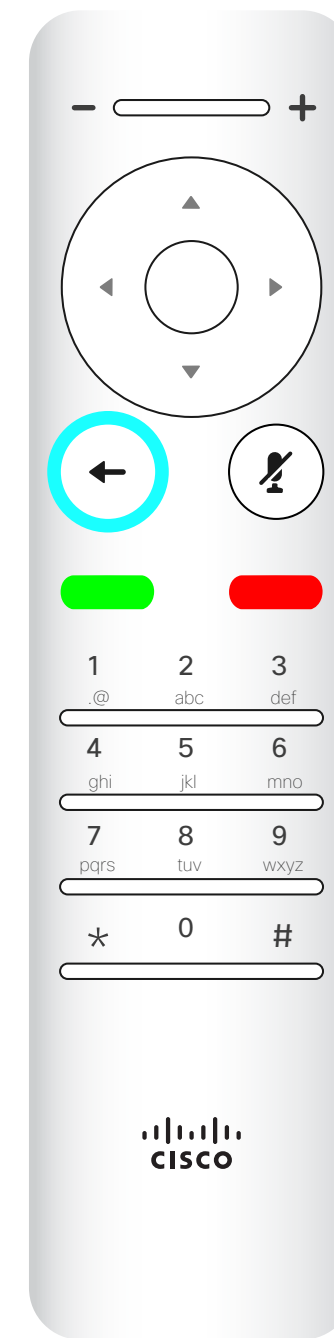
一番上のボタンの左側を押すと、音量が下がります (減)。
一番上のボタンの右側を押すと、音量が上がります (増)。



フィールドの選択/方向キーを操作するには、円形フィールドの外周キーを使用します (左/右/上/下)。



OK/Enter は、中央の円形キーで実行されます。

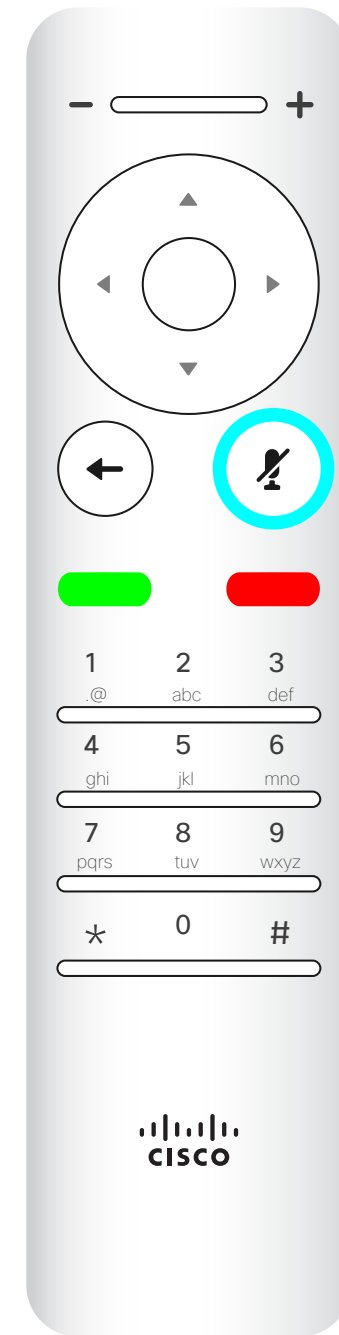


1 つ前のステップに戻るは、左の円形キーで実行されます。

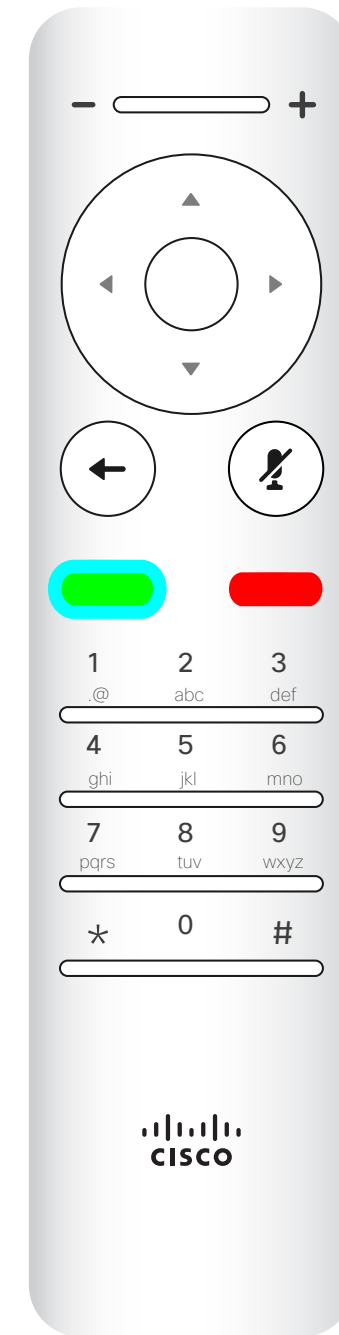
画面の中を移動するには、方向キーを使用します。選択したメニューフィールドを開くには、OK/Enter を押します。
変更を実行せずにメニューを終了するには、キャンセル キーを使用します。(ホーム 画面に戻ります)。戻るキーを使用して 1 つ前のステップに戻ります。

はじめに リモート制御 (II)

操作のヒント



マイクのミュート/ミュート解除は、右の円形キーで実行されます。



戻るの下のキーは、緑色の発信/着信通話の許可ボタンです。



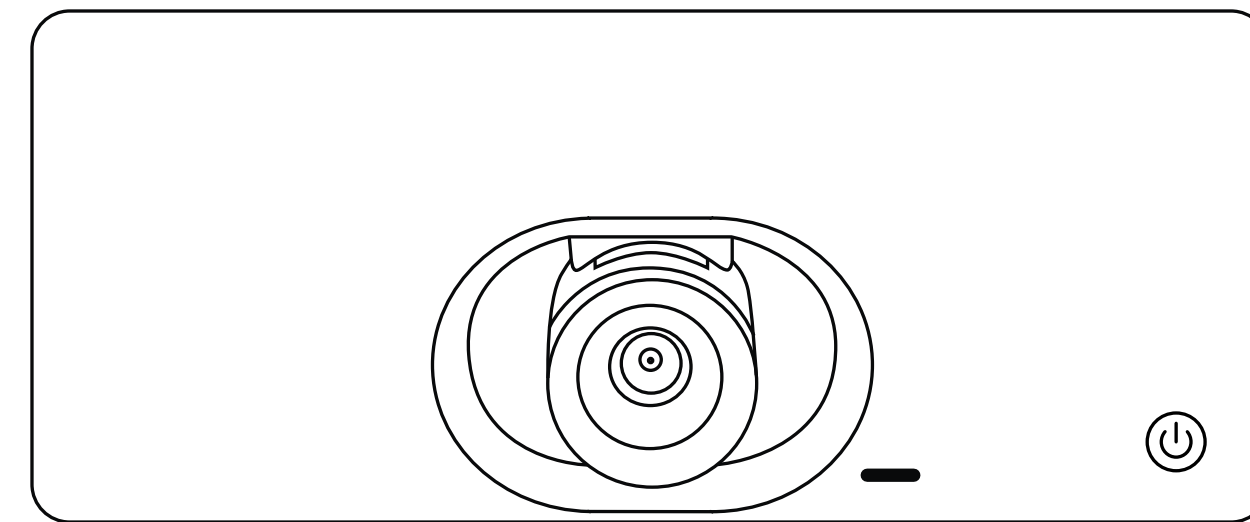
ミュート キーの下にあるキーは、着信拒否/通話終了/キャンセル/ホーム画面に戻る(外部発信)ボタンです。



キーパッドは、電話をダイヤルするときや数字を入力するときに使用します。数字の5には突起があり、キーの位置がわかるようになっています。

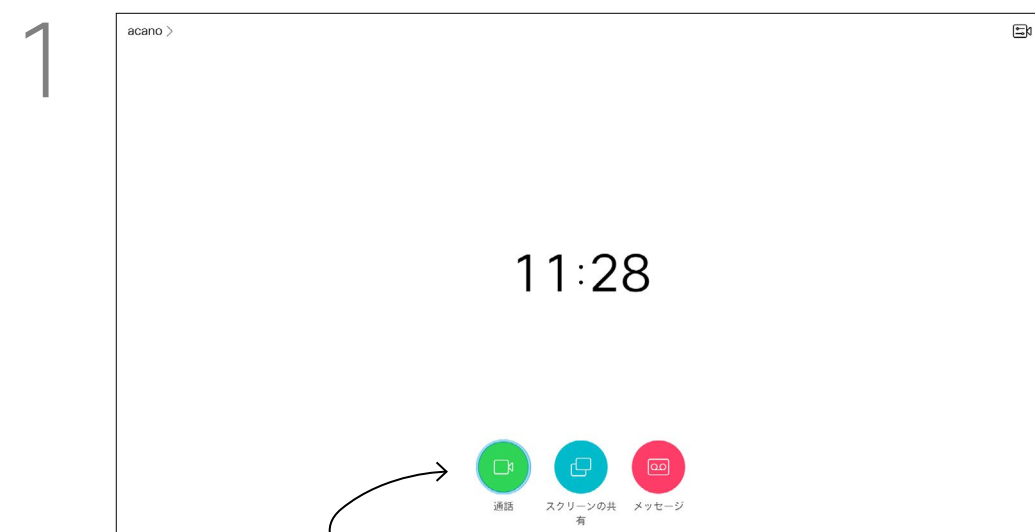
画面の中を移動するには、方向キーを使用します。選択したメニューフィールドを開くには、OK/Enter を押します。変更を実行せずにメニューを終了するには、キャンセル キーを使用します。(ホーム 画面に戻ります)。戻るキーを使用して 1 つ前のステップに戻ります。

ビデオ通話

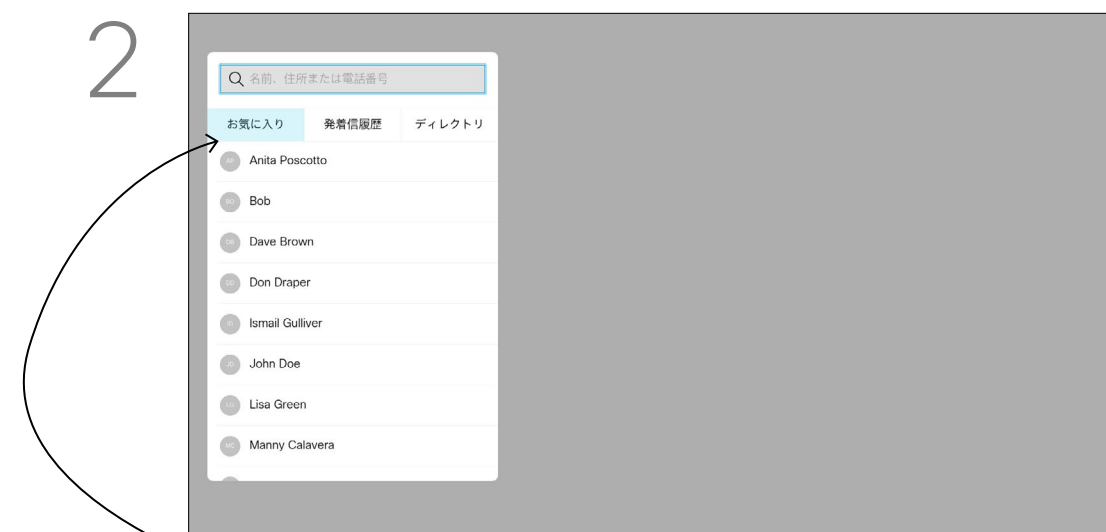


ビデオ通話 連絡先リストからのコールの発信

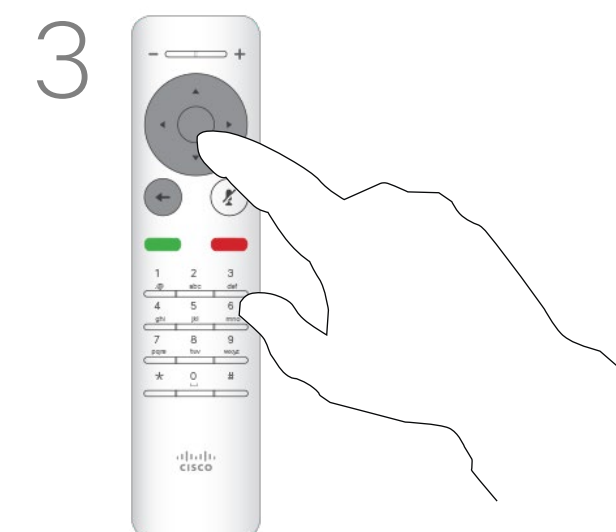
連絡先リストについて



1 通話(画面下部の一番左のアイコン)が選択され、リモートコントロールのOKが押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。



2 連絡先リストが表示されます。リモコンの方向キーを使用すると、お気に入り、発着信履歴、ディレクトリが切り替わり(横方向)、選択できます。



3 特定のエン트리が見つかったら、リモートコントロールのOKを押して、通話メニューを開きます。

連絡先リストは、次の3つの部分で構成されています。

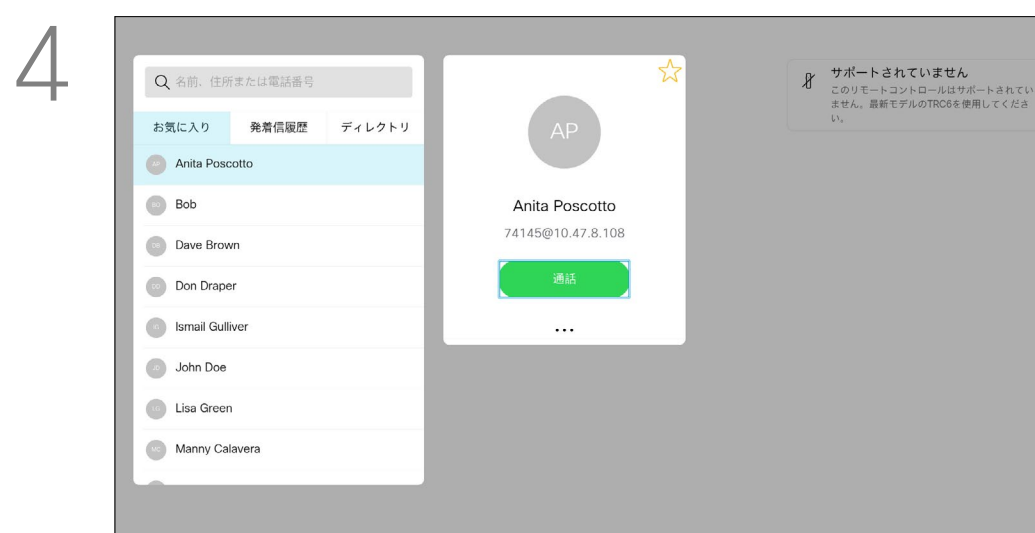
お気に入り。これらの連絡先はユーザーによって追加されました。通常、これらのエント리는、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。お気に入りは金色のアスタリスクで表示されます。

ディレクトリは通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

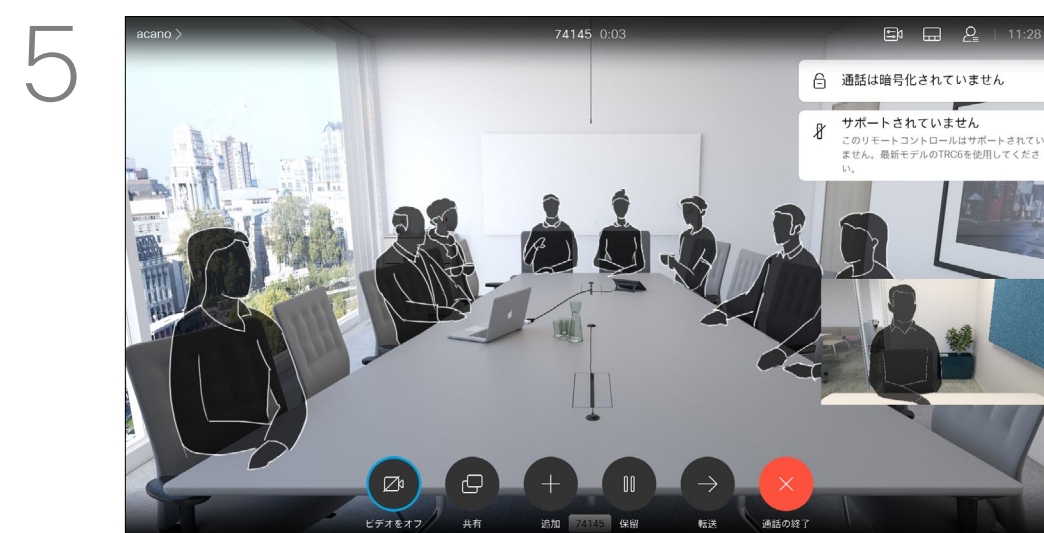
発着信履歴は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

- ・ 名前、番号、またはIPアドレスでキーを入力すると、デバイスはすべてのリストに含まれているかを検索します。
- ・ タブを選択して、名前または番号のリストまたはキーをスクロールすることができます。検索は、その特定のリストに制限されます。
- ・ [お気に入り] リストにエント리를追加することができます。発信する前にエント里的内容を編集したり、コールレートを変更したりすることができます。



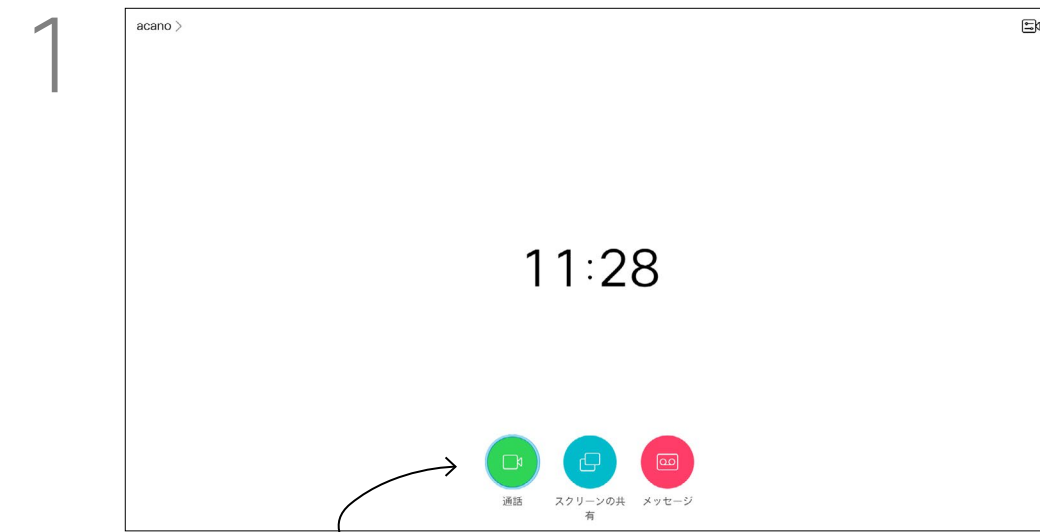
4 [コール]メニューでOKを押すか、またはリモコンで緑の通話ボタンを押して通話を発信します。



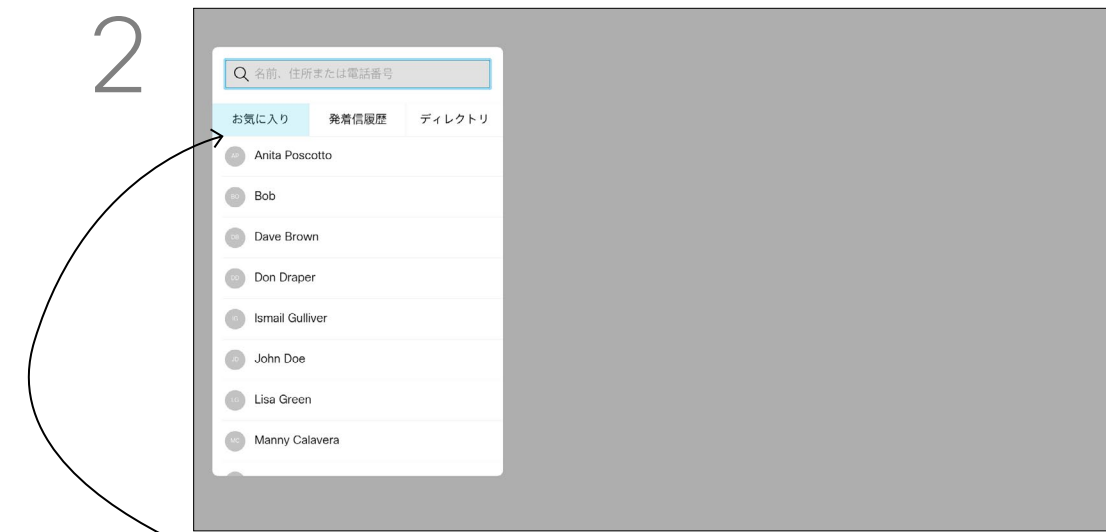
5 リモコンの赤い通話の終了ボタンを押すか、方向キーを使用して画面の通話の終了を選択してから、OKを押して通話を終了します。

ビデオ通話 コールの前に連絡先を編集する

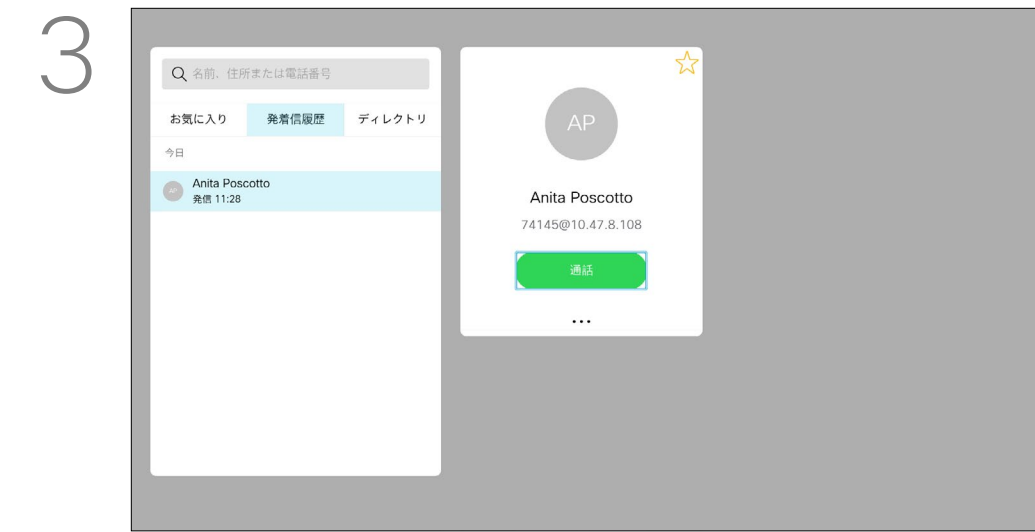
編集について



1 通話(画面下部の一番左のアイコン)が選択され、リモートコントロールのOKが押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。

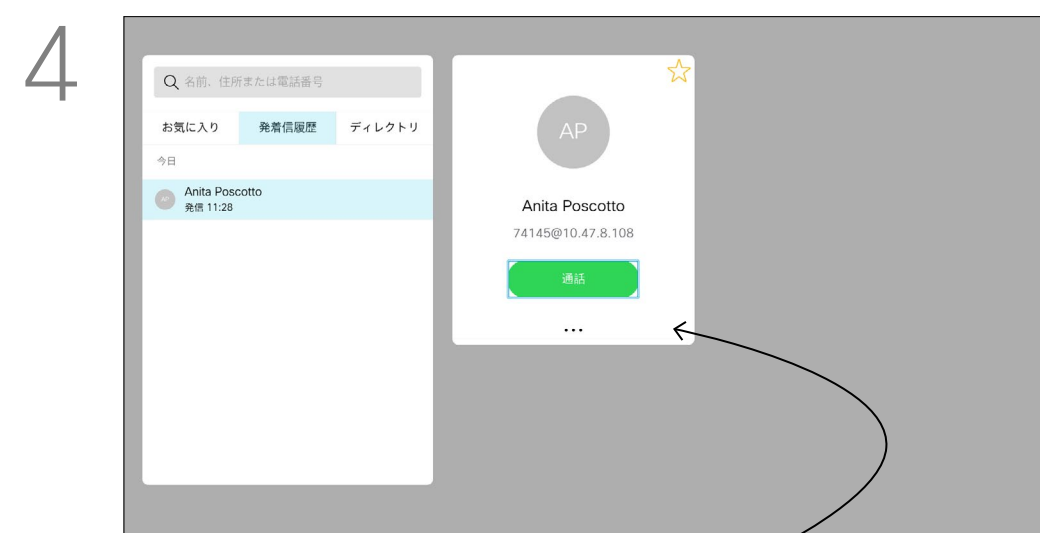


2 リモコンの方向キーを使用すると、お気に入り、発信履歴、ディレクトリを切り替え、いずれかのリストを選択できます。

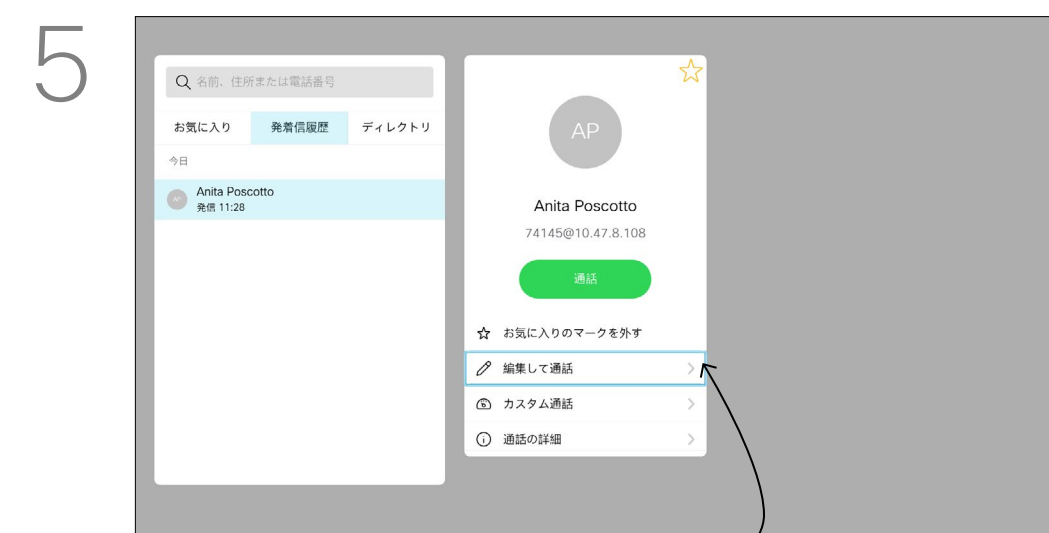


3 特定のエンタリが見つかったら、リモートコントロールのOKを押して、通話メニューを開きます。

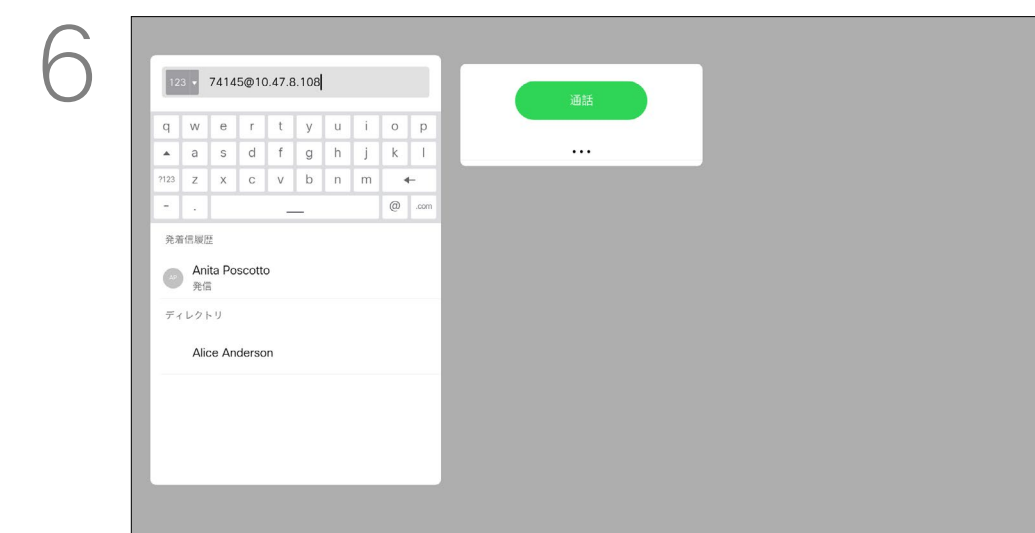
連絡先リストの詳細については、前のページを参照してください。
発信する前に連絡先リストのいずれかのエンタリを編集する必要がある場合があります(たとえば、プレフィックス、サフィックスを追加するか、またはエンタリを変更して、正常に実行されるかなど)。



4 リモコンの方向キーを使用して、その他フィールド(...)を選択してOKを押します。



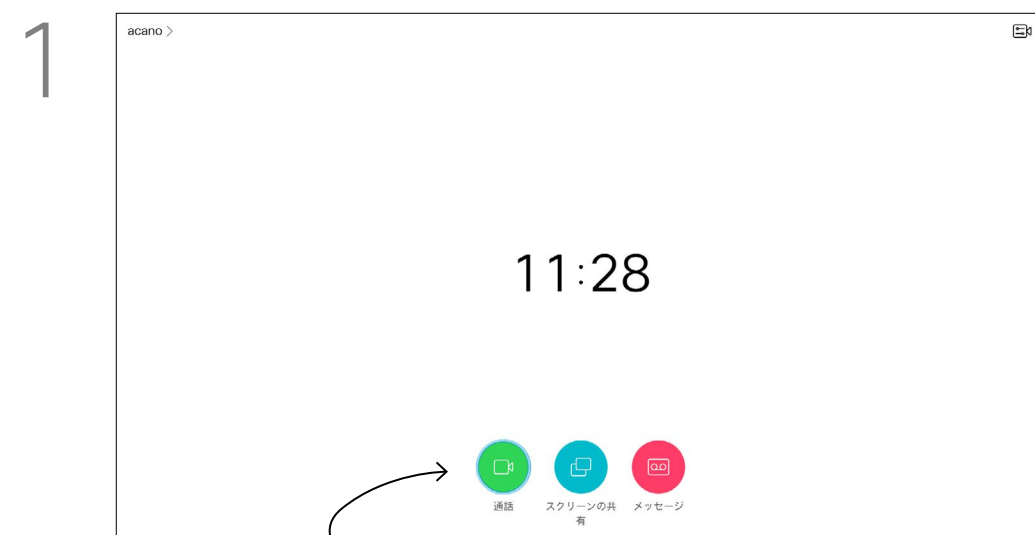
5 下の編集して通話に移動し(詳細メニューの中央のフィールド)、OKを押します。



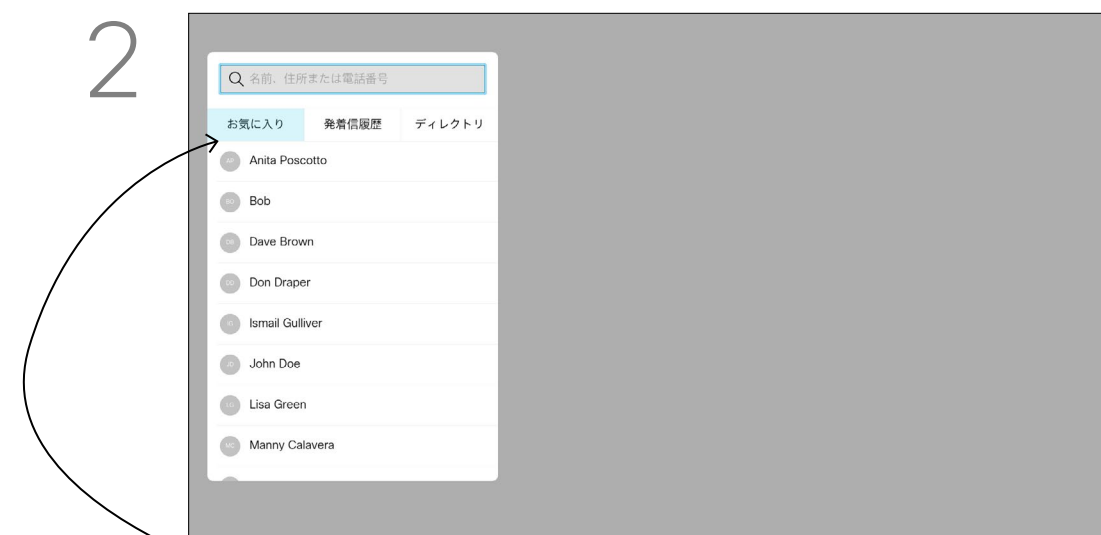
6 必要に応じてエンタリを編集した後、リモートコントロールの緑色の発信ボタンを押して発信します。

ビデオ通話 帯域を編集して発信する

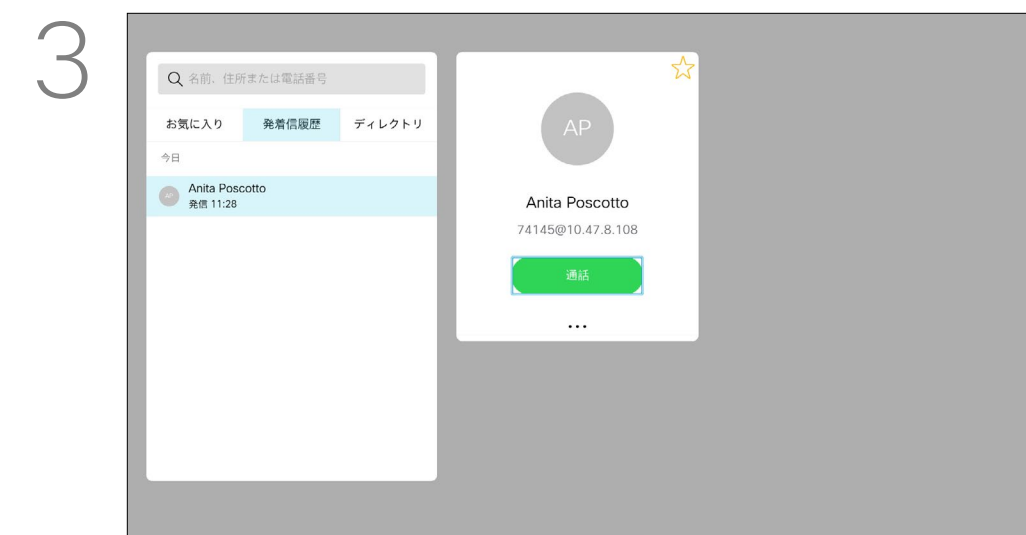
帯域について



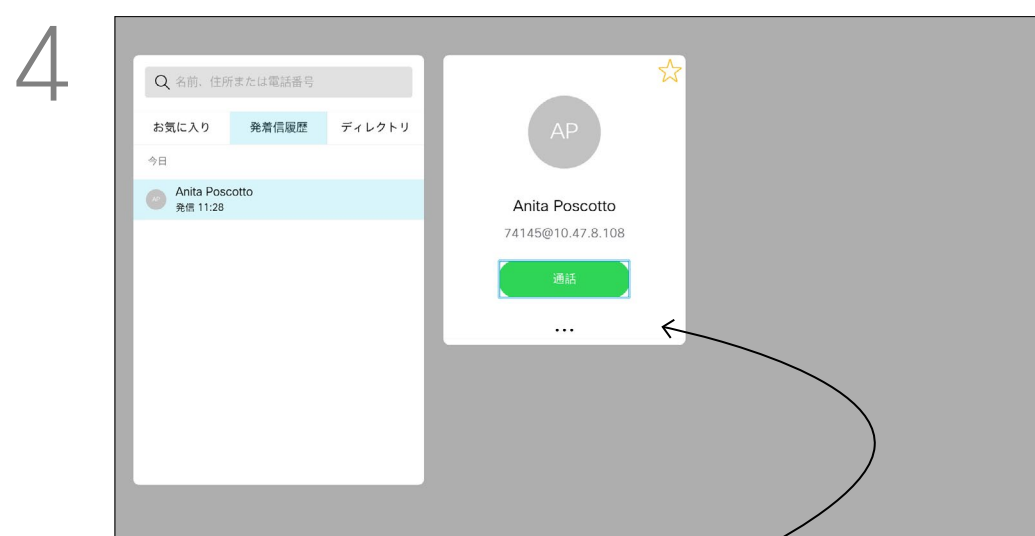
1 通話(画面下部の一番左のアイコン)が選択され、リモートコントロールの OK が押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。



2 リモコンの方向キーを使用すると、お気に入り、発信履歴、ディレクトリを切り替え、いずれかのリストを選択できます。



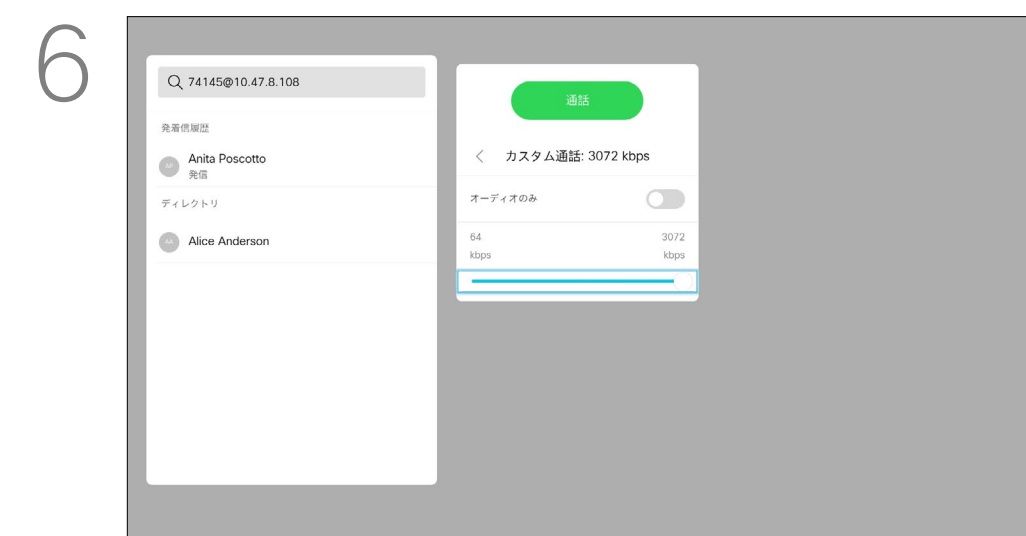
3 特定のエンタリが見つかったら、リモートコントロールの OK を押して、通話メニューを開きます。



4 リモコンの方向キーを使用して、その他フィールド(...)を選択して OK を押します。



5 下の カスタム発信に移動し、OK を押します。



6 必要に応じて方向キーを使用し、リモコンの緑色の発信ボタンを押して発信します。

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語です。この値は kbps (キロビット/秒) で測定されます。

コールレートが高くなるほど、品質は向上しますが、帯域幅の消費が大きくなります。

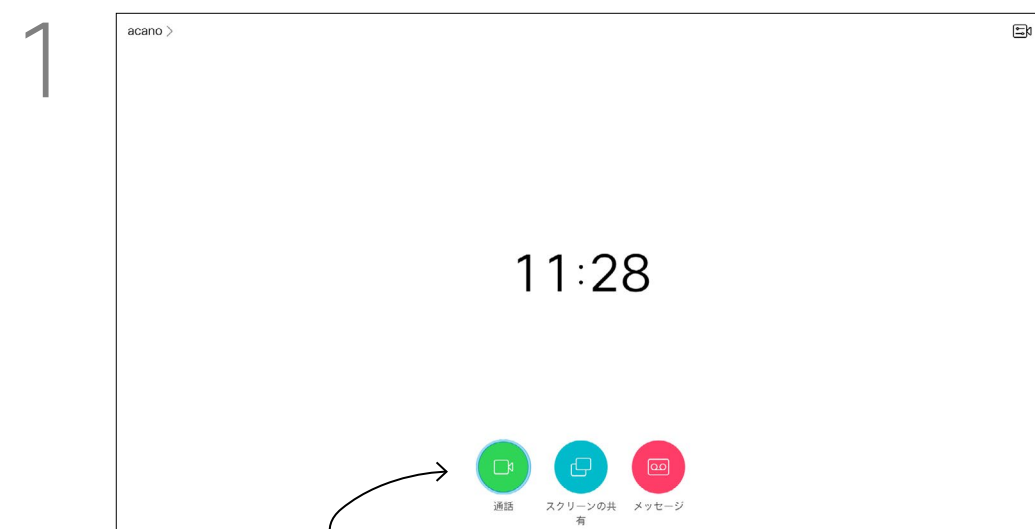
デバイスには、デフォルトのコールレートが付いています。これは通常ビデオサポートチームが設定します。通常の条件下では、必要に応じて、デバイスによりコールレートが自動調整されます。これは、デバイスや接続のサポートより高いレートで他のユーザを呼び出す場合に、ビデオコールを回避するために実行されます。

自動コールレート設定が失敗した場合は、最後の手段として手動でもこの操作を行うことができます。

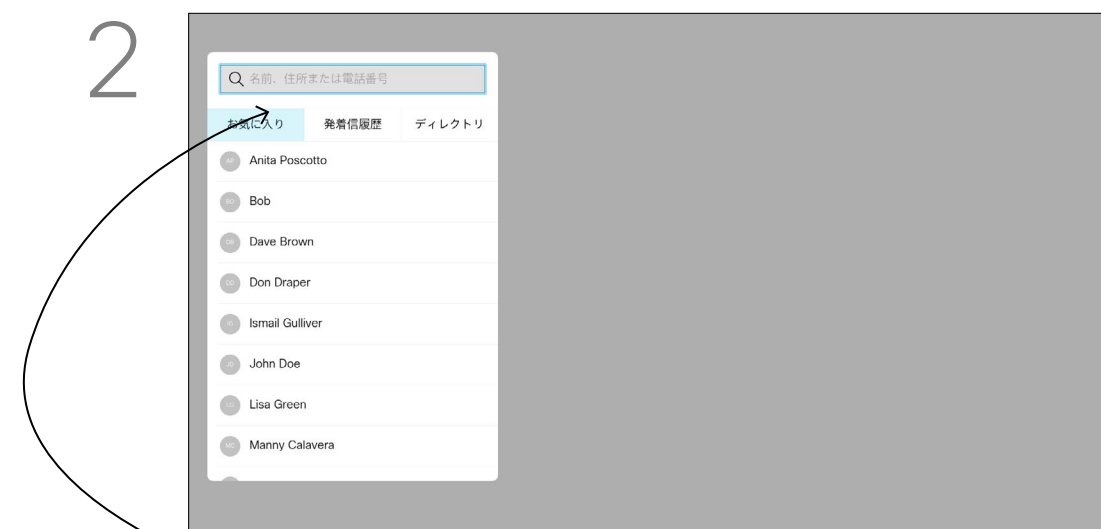
通話中に帯域を変更することはできませんが、左で示されているとおり、発信の直前に変更することはできます。

名前、番号、または IP アドレスを使用したコールの配置

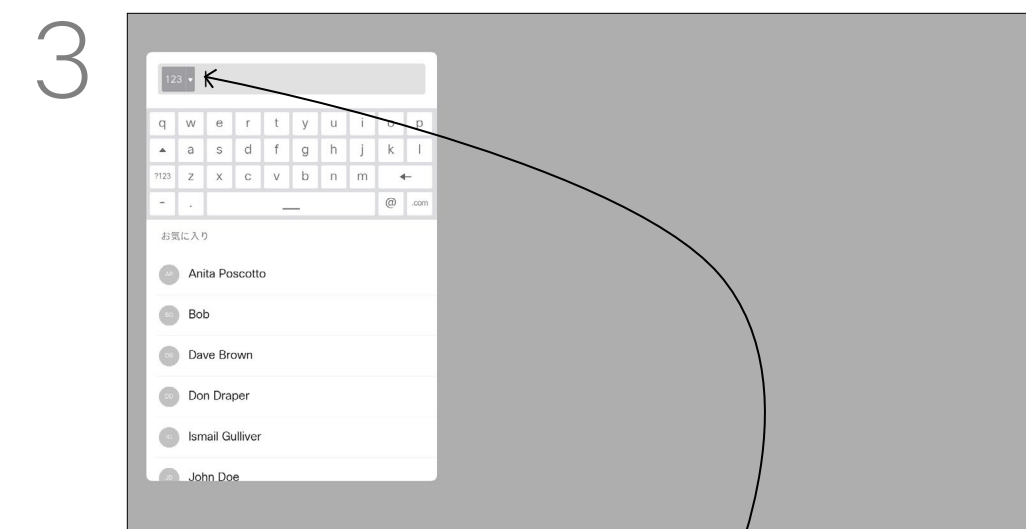
発信について



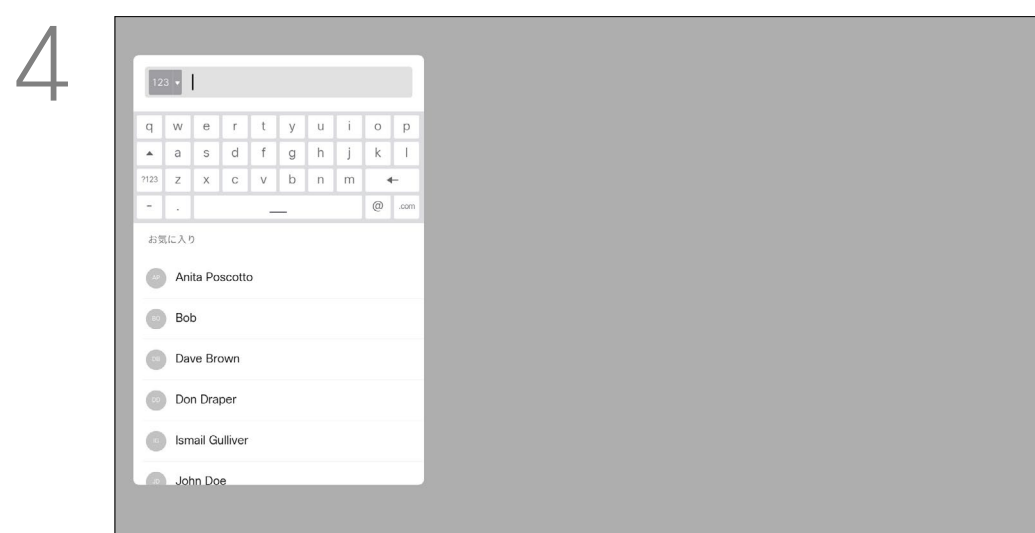
1 通話(画面下部の一番左のアイコン)が選択され、リモートコントロールのOKが押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。



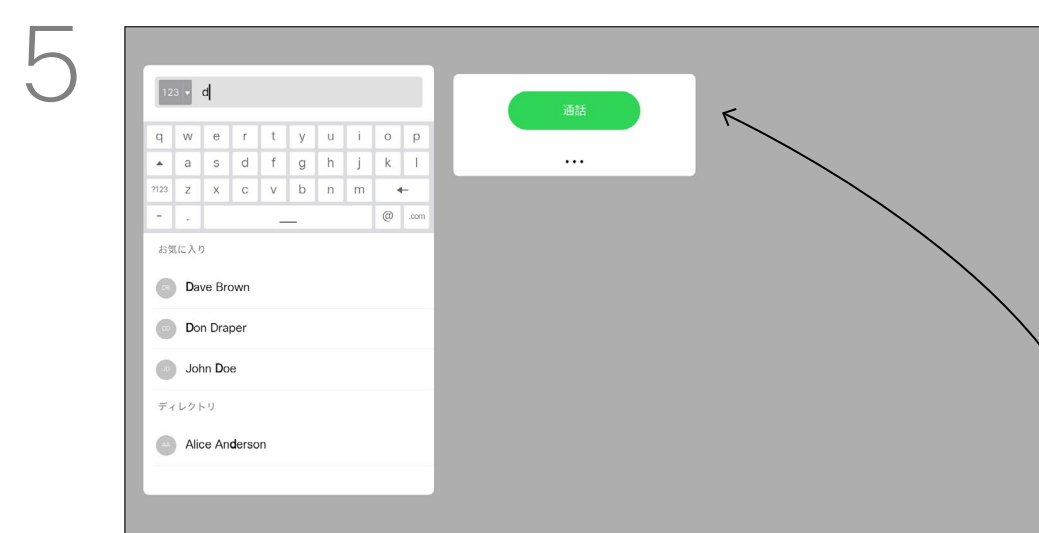
2 方向キーを使用して、メニューの一番上にある検索またはダイアルフィールドに移動します。OKを押します。



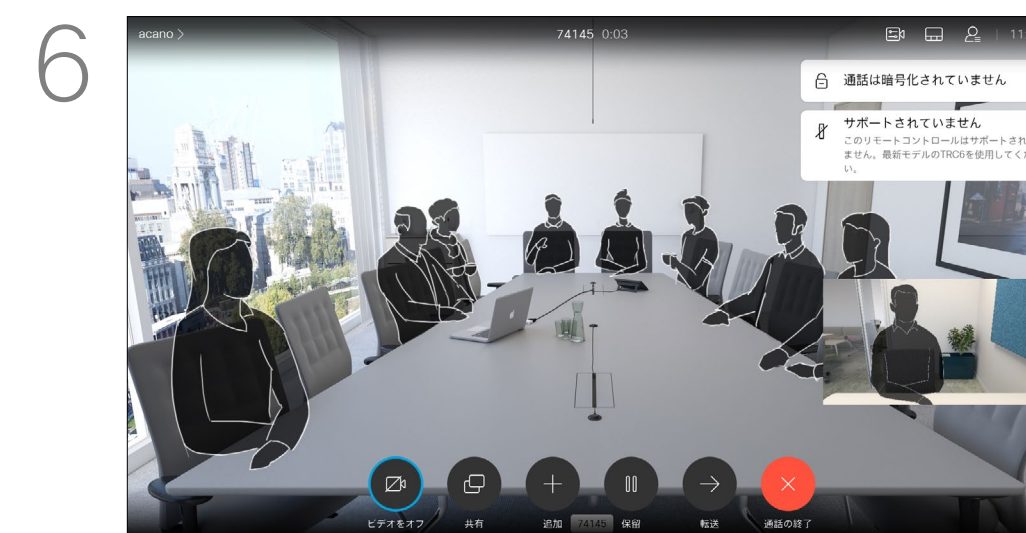
3 123を選択して番号を入力します。



4 仮想キーボードを使用するには、キーボードに移動して文字を選択します。OKを押して、文字を選択します。



5 次に、リモコンの緑色の発信ボタンを押して発信します。また、発信アイコンに移動し、OKを押す方法でも発信できます。



6 リモートコントロール赤い通話の終了ボタンを押すか、方向キーを使用して通話の終了を選択し、OKを押して通話を終了します。

連絡先リストに登録されていないユーザでも、仮想キーボードを使用して名前、住所、または番号をキー入力することで、そのユーザを呼び出すことができます。以前にコールしたことがあるユーザは、発信履歴リストに表示されます。その後、任意のユーザをお気に入りのリストに追加することができます。これについては、「連絡先」で説明しています。

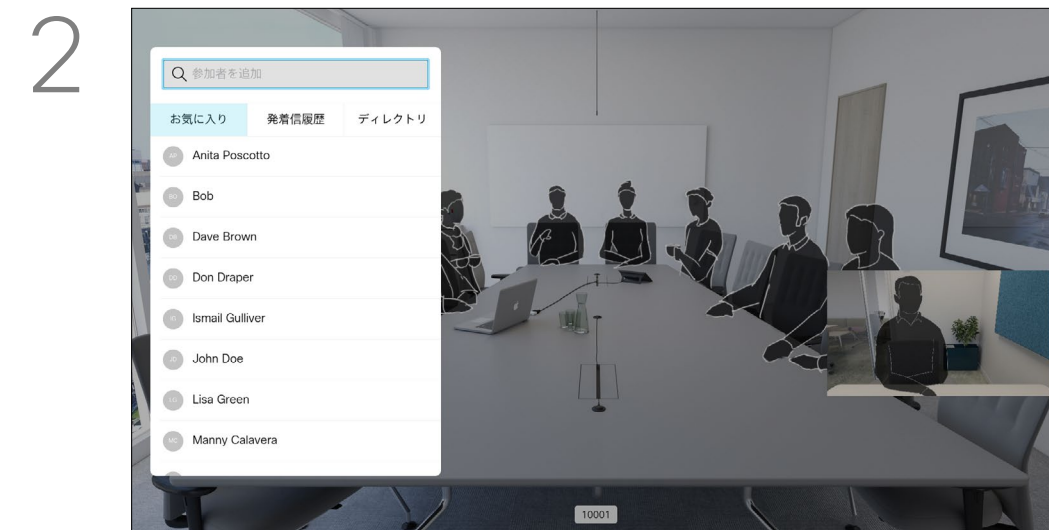
ビデオ アドレスを使用した発信
IP タイプのビデオ アドレスを使用する場合も、発信手順は同様です。アドレスを入力し、*(リモートコントロールの左下隅にあるアスタリスク ボタン)をセパレータとして使用します。デバイスはこれを有効な IP アドレスセパレーターとして解釈し、ビデオアドレスが正しく入力されて表示されるようにします。

ビデオ通話 既存のコールへの参加者の追加

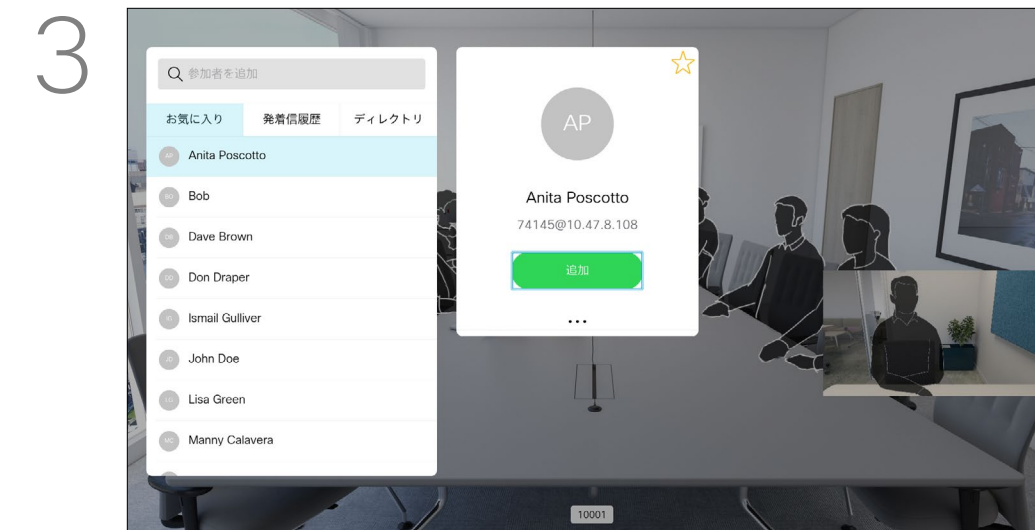
ビデオ会議について



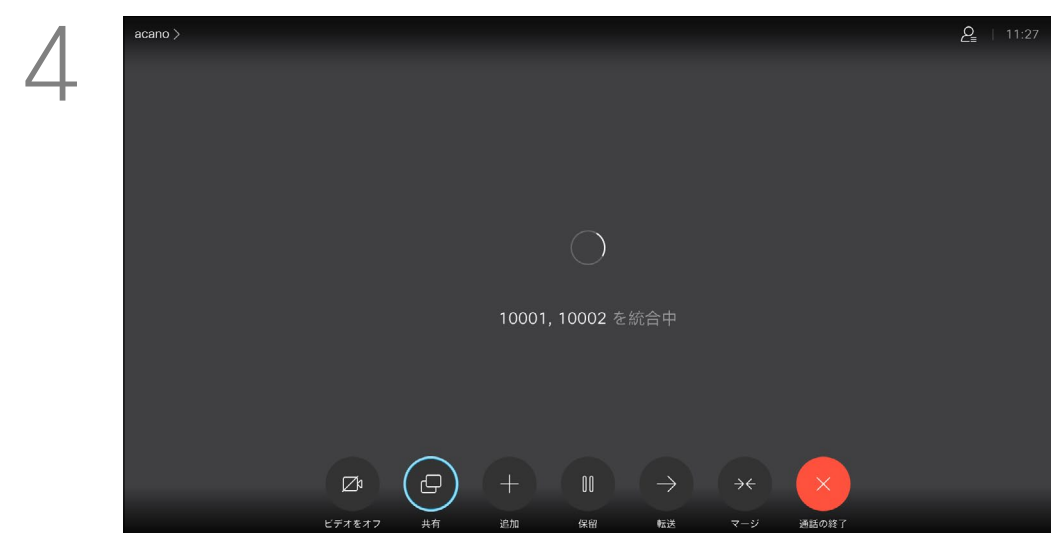
1 通話中に **追加**に移動し、リモコンの **OK** を押します。現在の通話が保留になります。



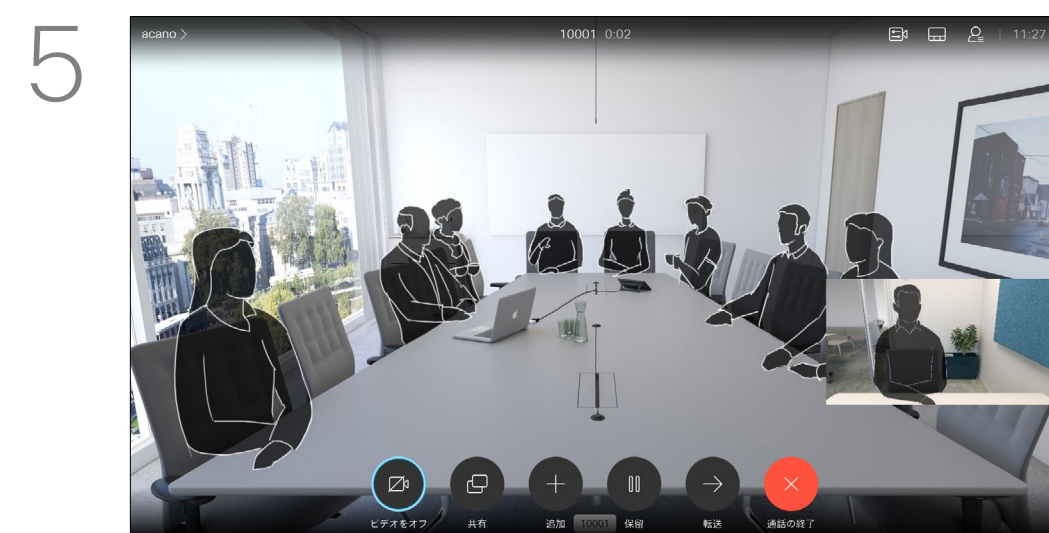
2 いつもと同じ方法で、追加する参加者を探します。**OK**を押します。



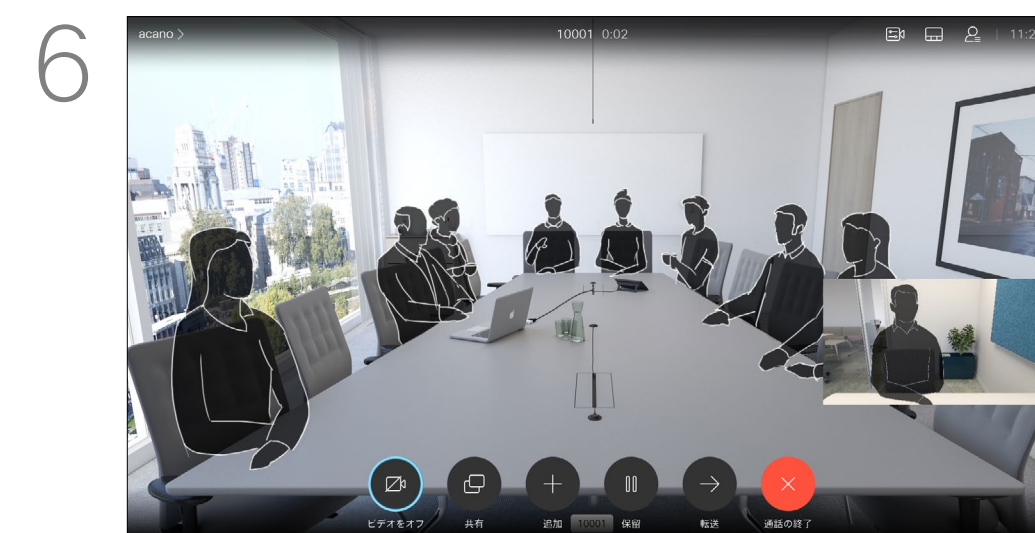
3 **追加**に移動し、**OK** を押して通話を会議に追加します。



4 コールがまとめてマージされるようになりました。



5 必要に応じて手順を繰り返し、参加者を追加します。



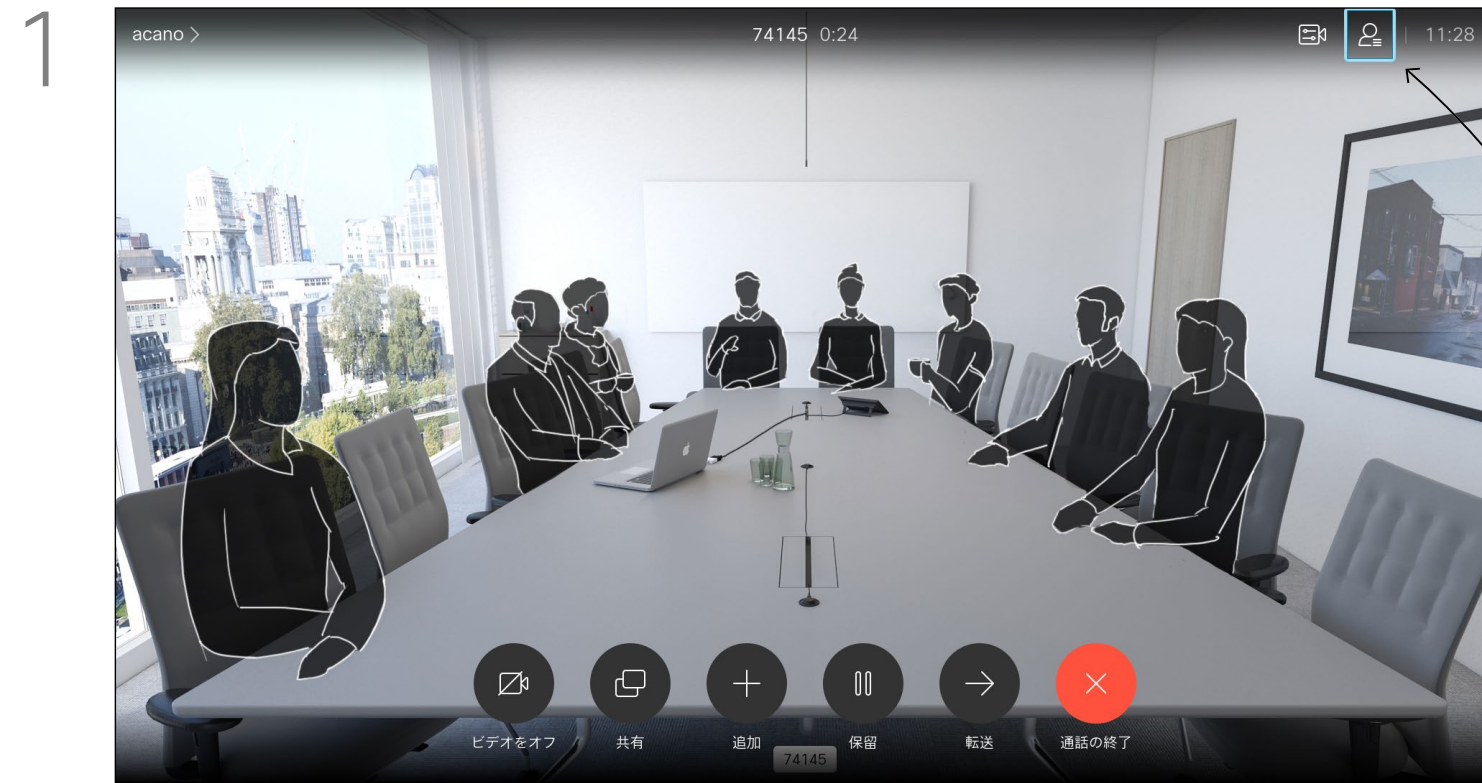
6 リモートコントロール赤い通話の終了ボタンを押すか、方向キーを使用して **通話の終了** を選択し、**OK** を押して通話を終了します。

ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が装備されている場合があります。
ビデオデバイスでサポートされる参加者の最大数は、デバイスの設定とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオサポートチームへお問い合わせください。
ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。他の参加者が会議から切断できるのは自分だけです。

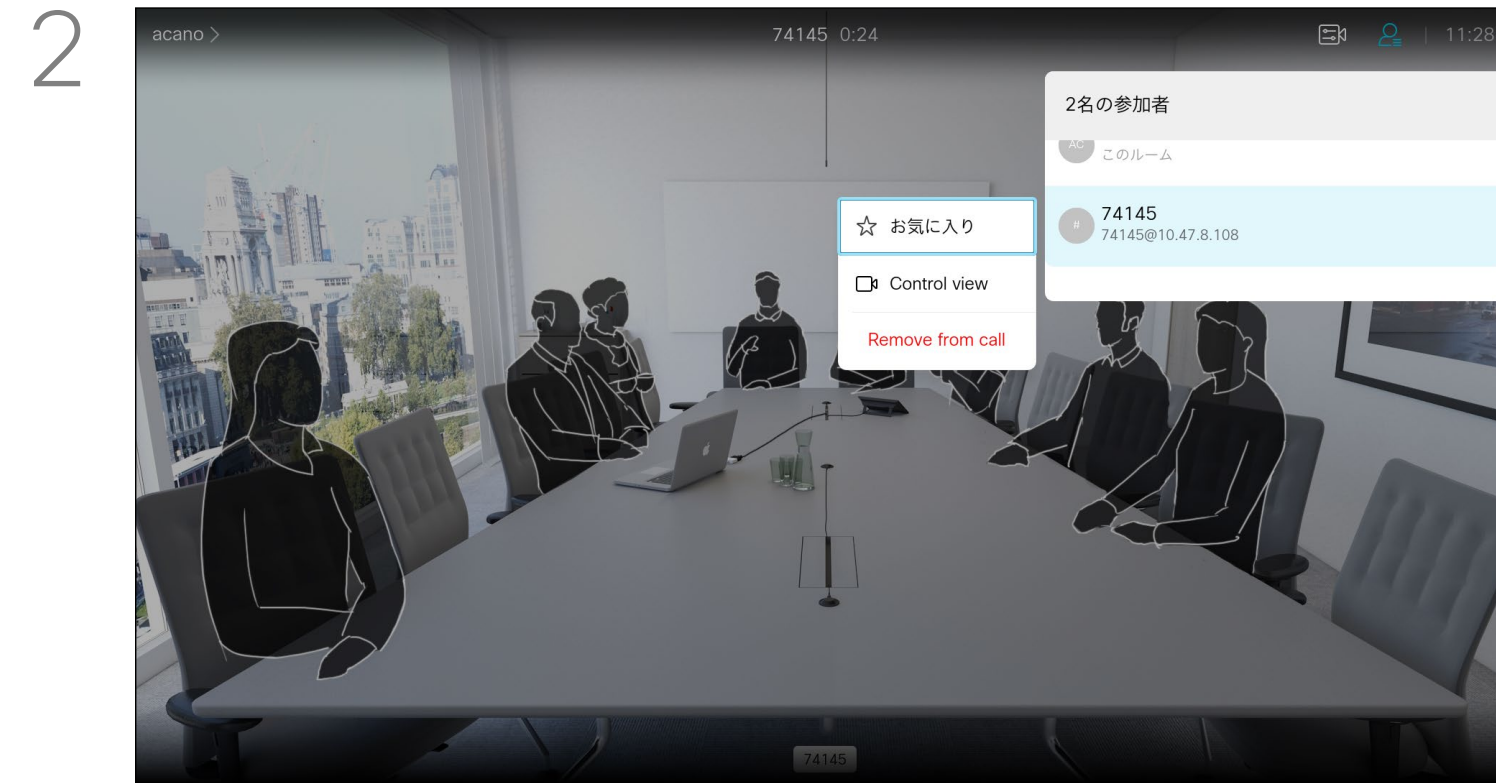
ビデオ通話 会議から参加者を切断する

ビデオ会議 について

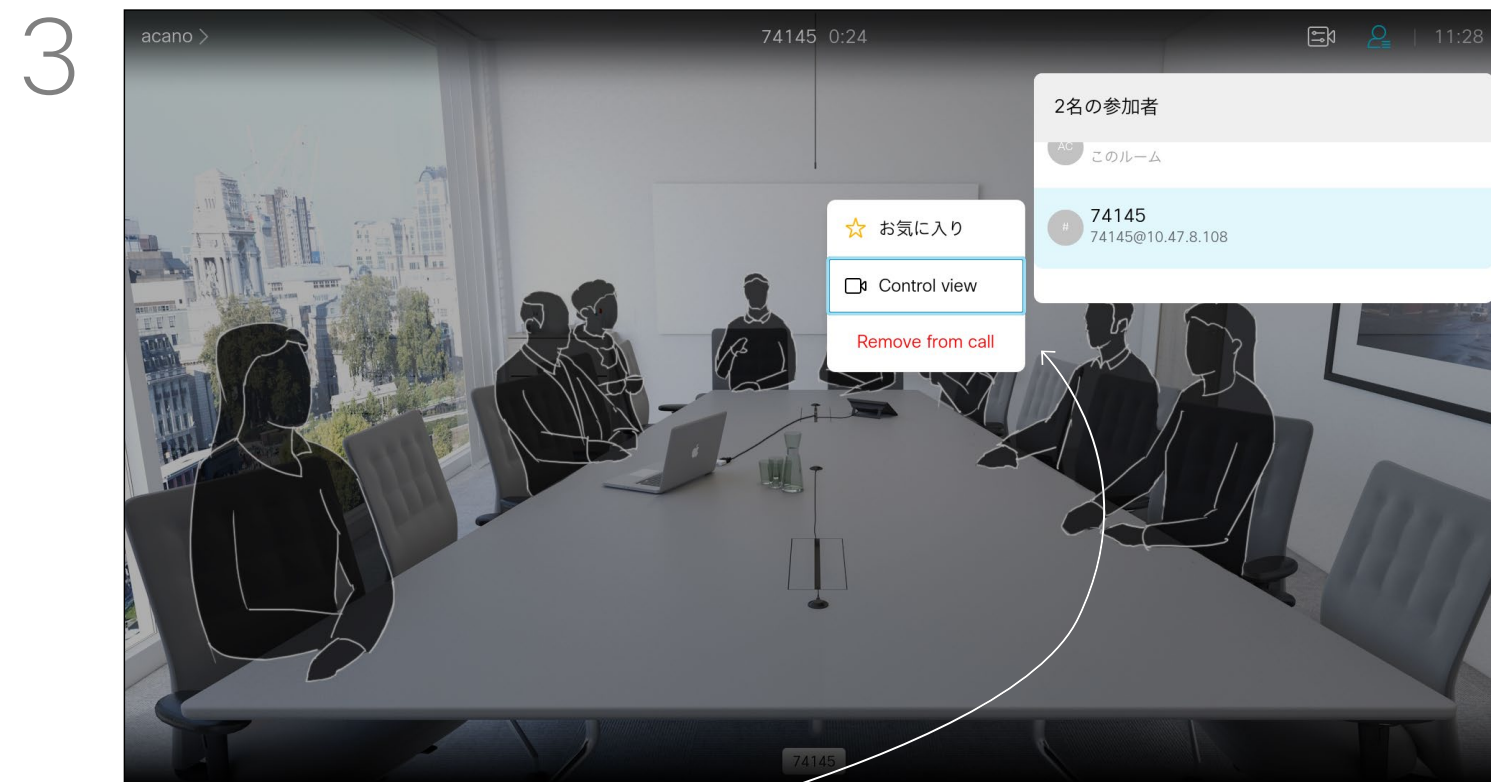
ビデオデバイスからビデオ会議を実施できるかどうかは、お使いのデバイスで使用できる場合とできない場合があります。



通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップし、OK を押して参加者リストを呼び出します。



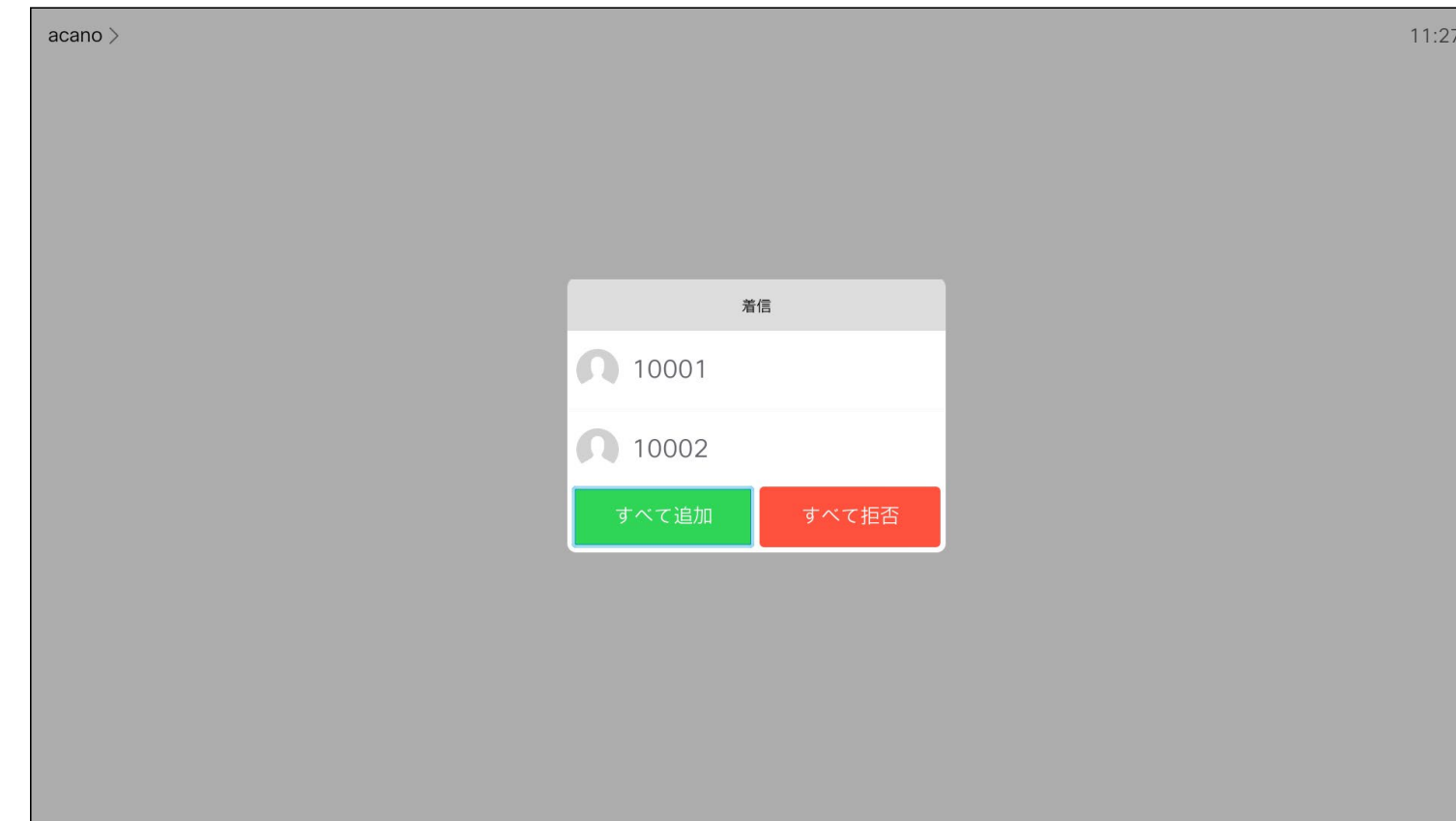
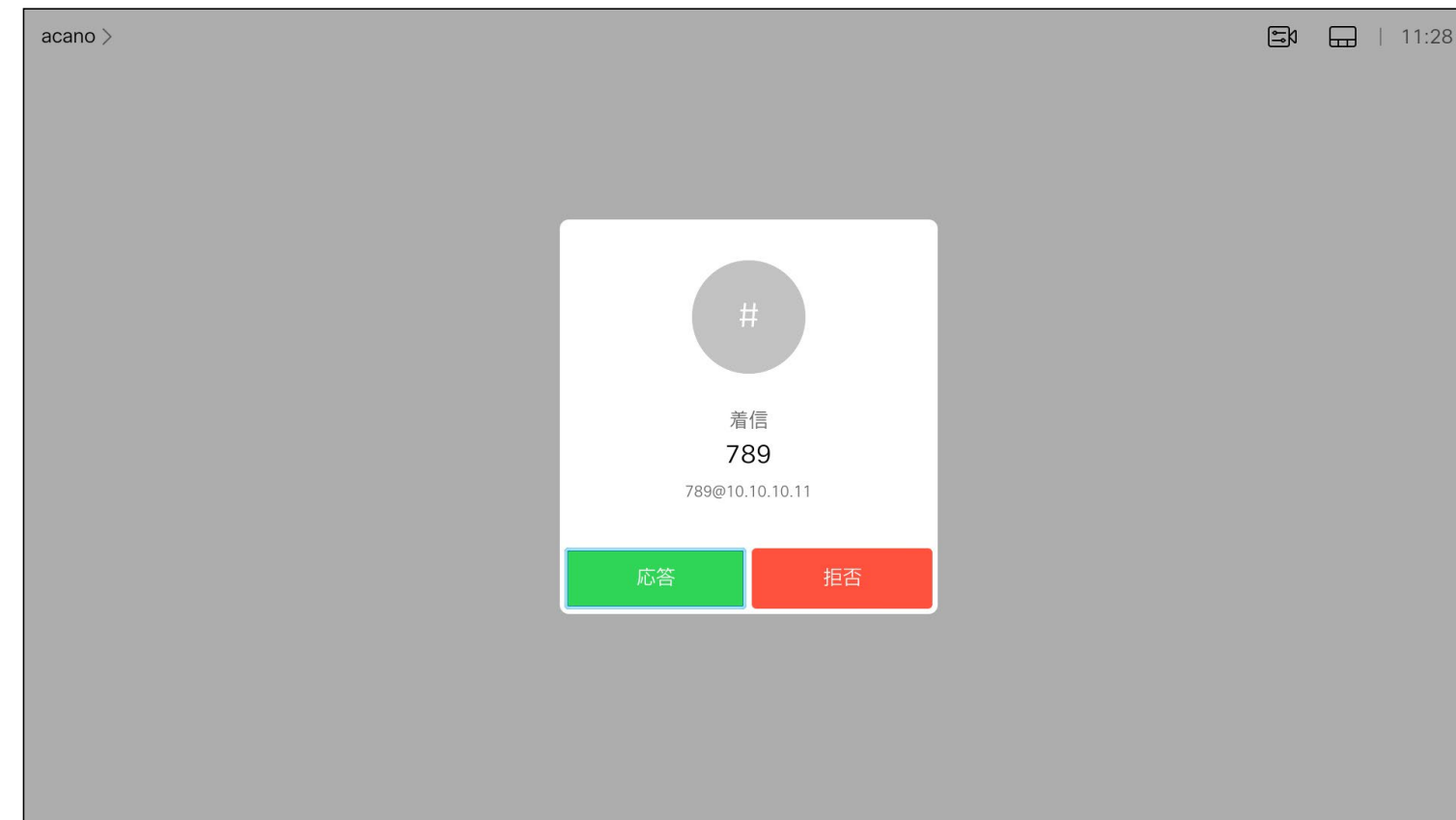
会議から退出させる参加者のところまで下に移動し、OK を押します。



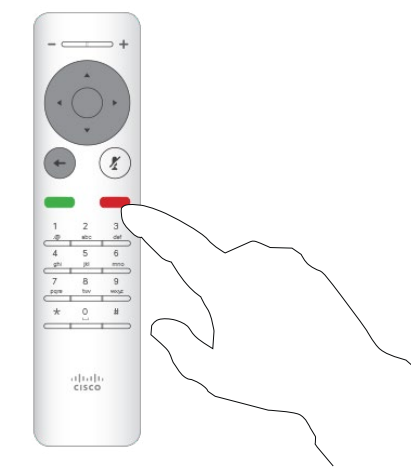
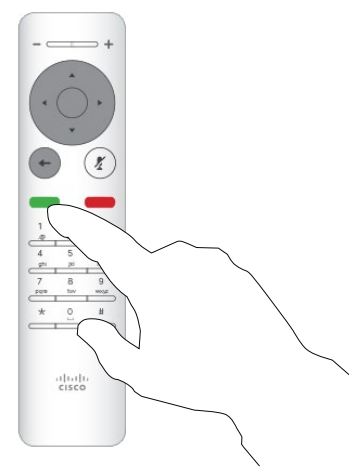
コールから削除に移動し、OKを押します。

ビデオ通話 コールを受信

着信があった場合



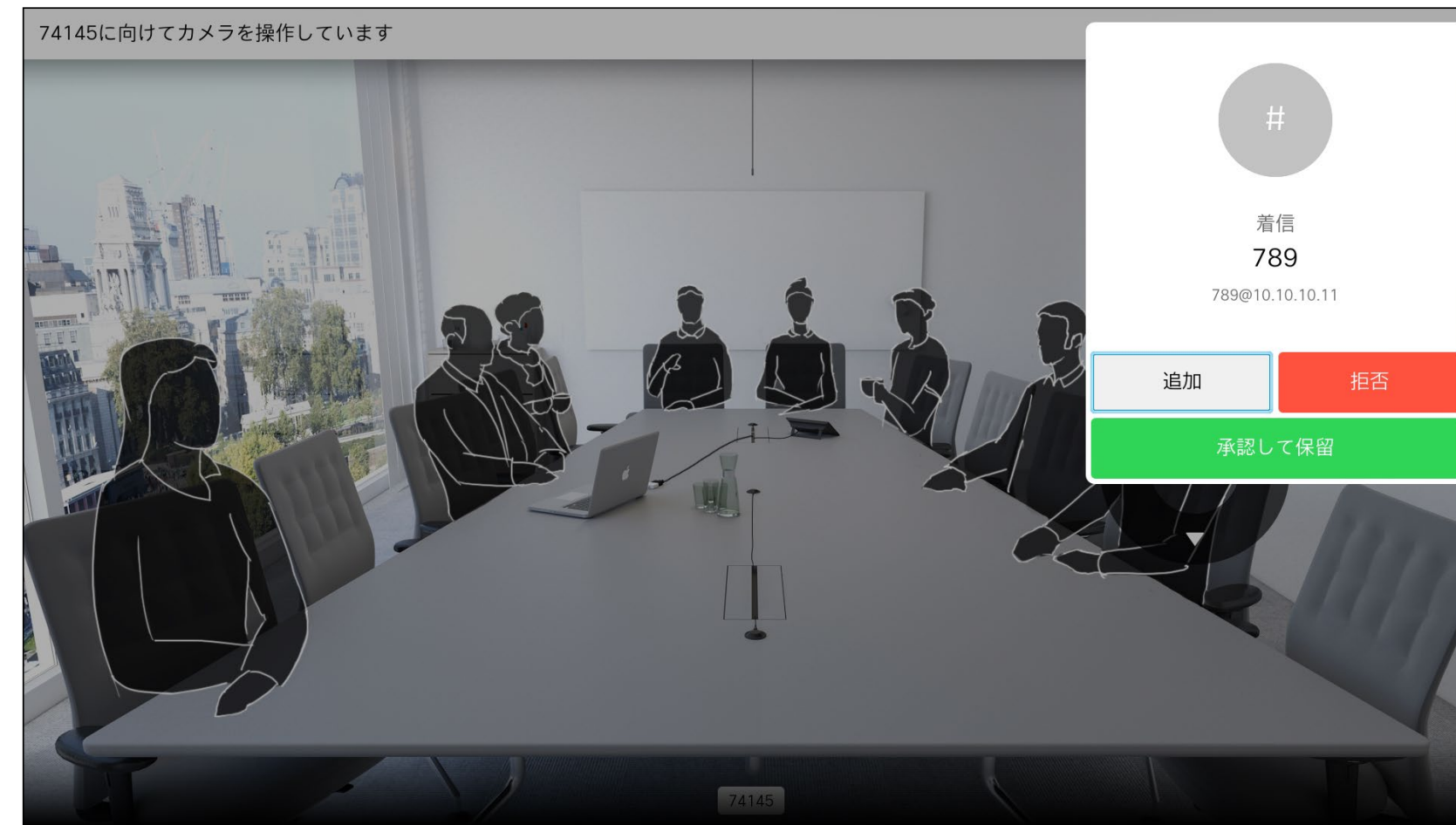
- ・ ユーザからコールがあれば、そのコールを受け入れる、拒否する、あるいは無視するかのいずれかになります。
- ・ 通話を拒否すると、通話中の情報が発信者に送信されます。
- ・ コールを無視すると、発信者はこのことを、不在として認識します（コールに 응답しなかった場合）。
- ・ ビデオインフラストラクチャを使用すると、複数の着信を受信できます。貴社のビデオサポートチームにご照会ください。



リモート制御上の円形ボタンの下にある通話キーを直接使用することもできます（この場合、コールを受け入れるための緑色のキーと、拒否するための赤色の右キーが使用できます）。

ビデオ通話 通話中に追加の着信を受ける

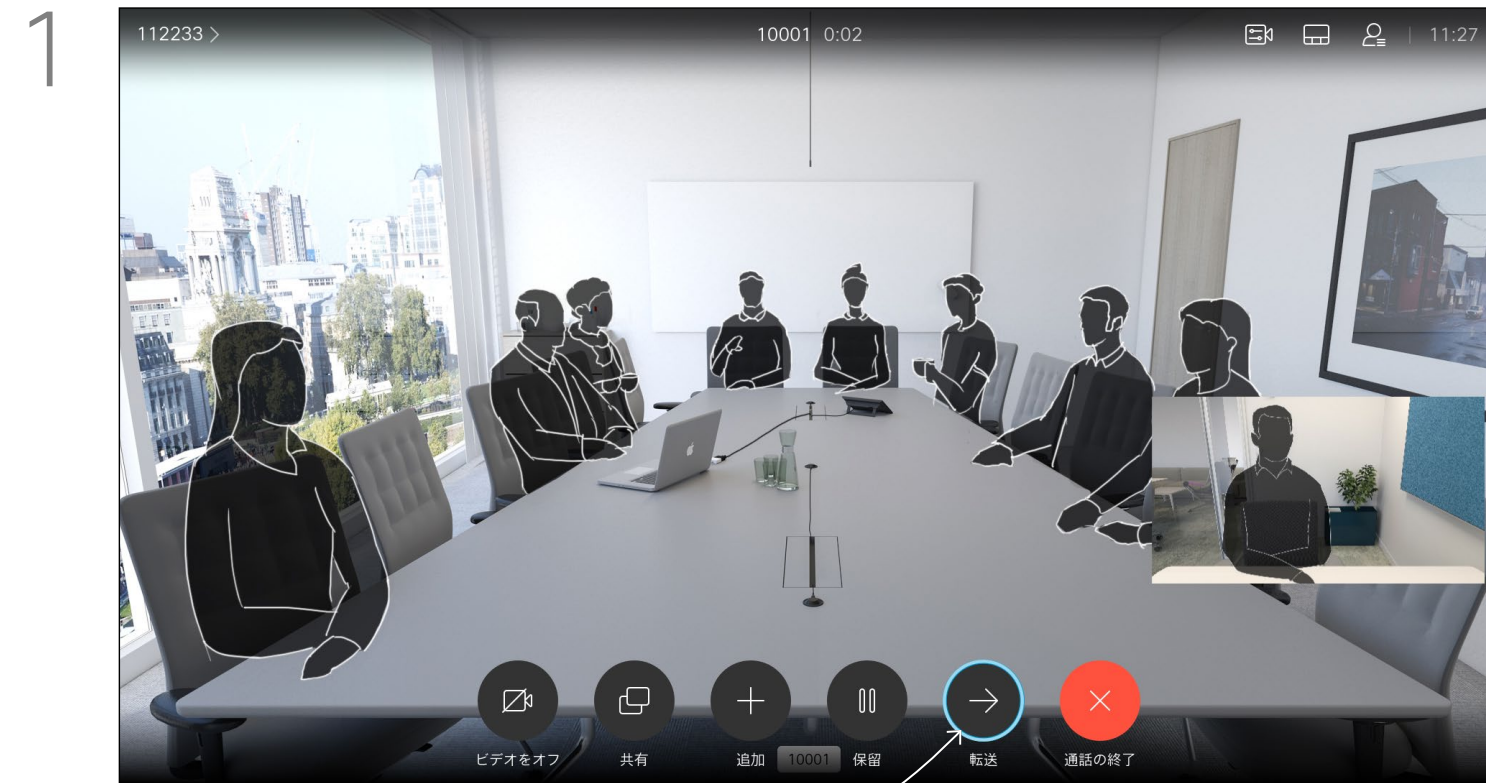
通話の拡張



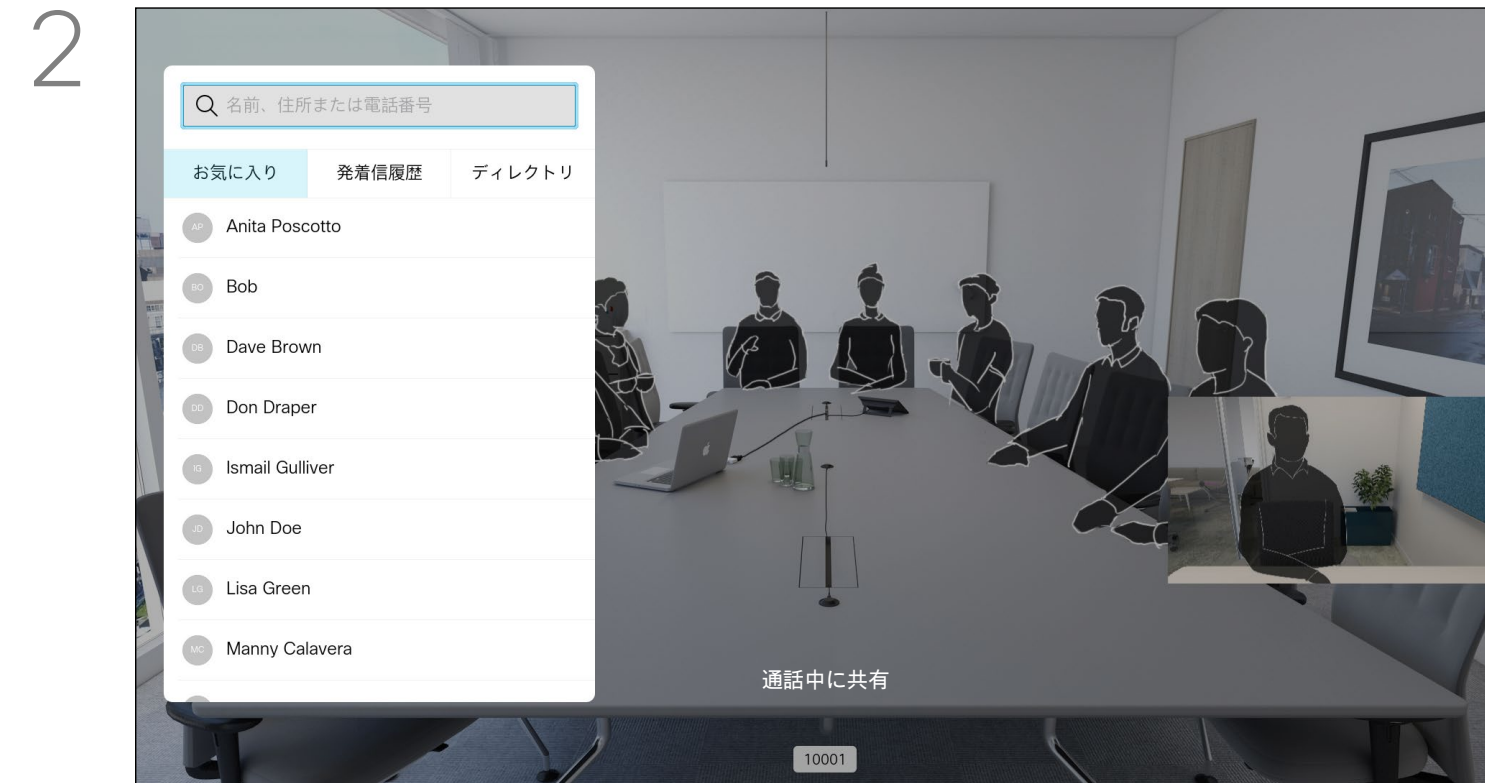
- ・ ユーザからコールがあれば、そのコールを受け入れる、拒否する、あるいは無視するかのいずれかになります。
- ・ 通話を拒否すると、通話中の情報が発信者に送信されます。
- ・ コールを無視すると、発信者はこのことを、不在として認識します（コールに応答しなかった場合）。
- ・ ビデオインフラストラクチャを使用すると、複数の着信を受信できます。貴社のビデオサポートチームにご照会ください。

すでに通話中の場合は、通話を拒否するか、発信者を既存のコールに追加する、または受信中の待機時に既存のコールを発信するかを設定できます。

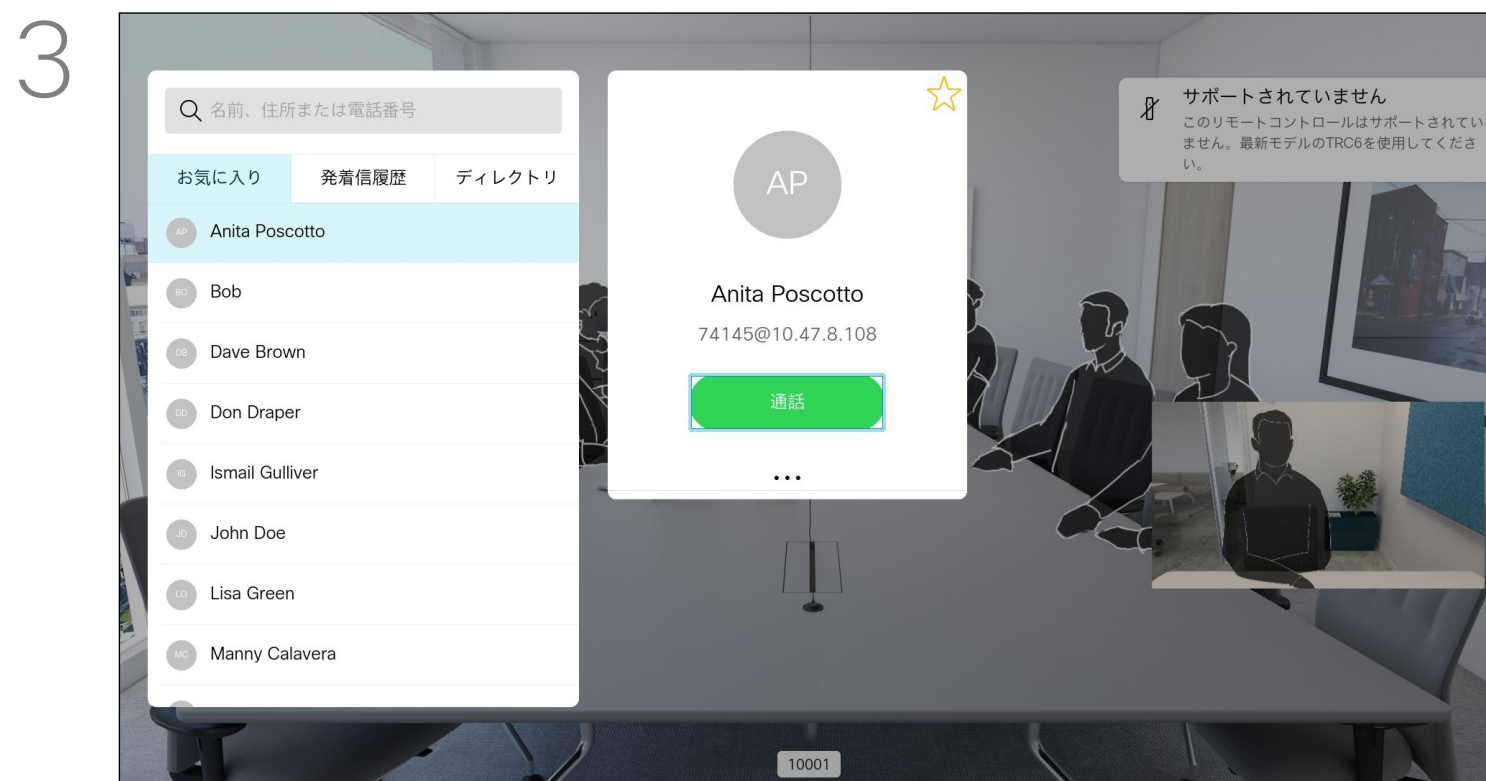
ビデオ通話 継続中のコールを転送する



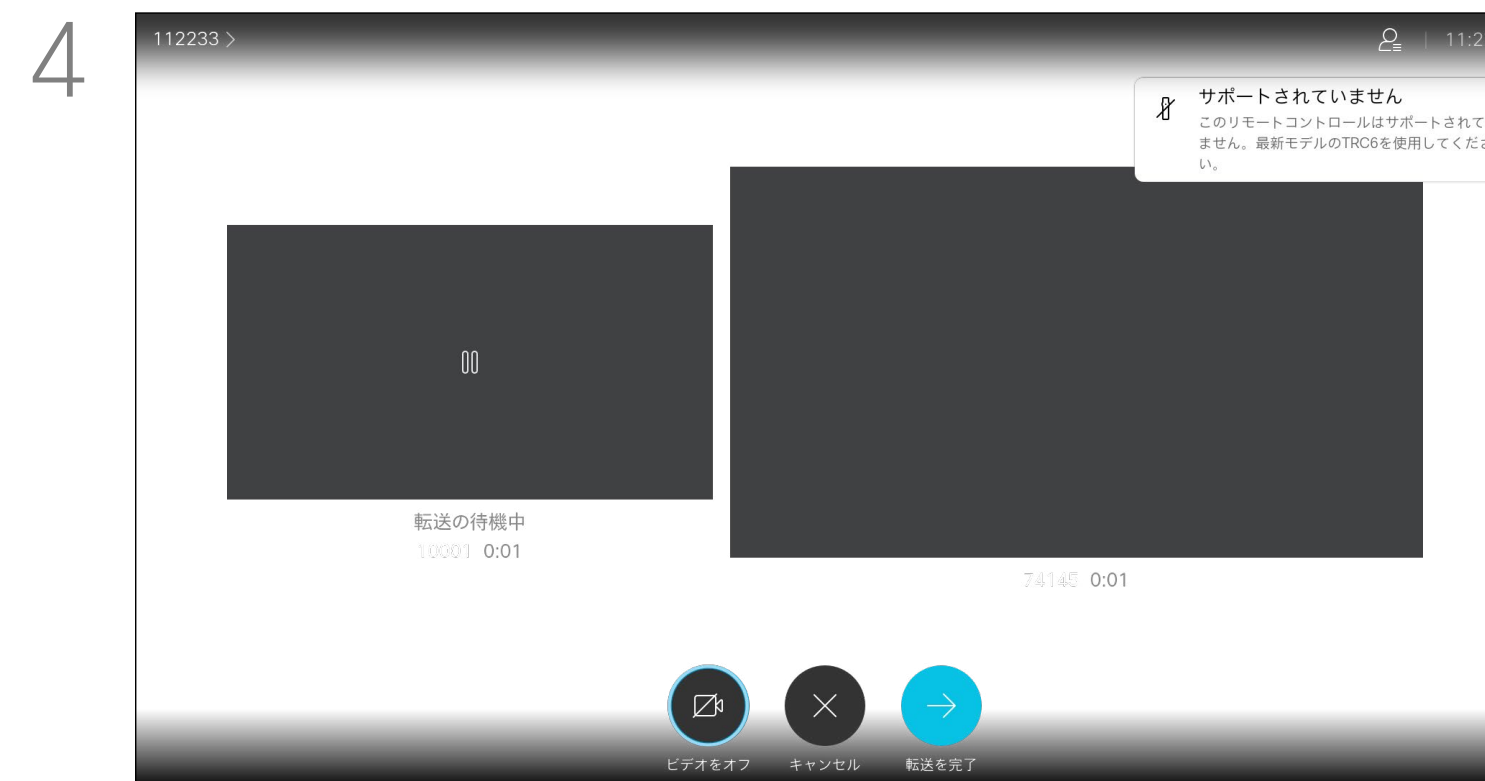
転送に移動し、リモコンのOKを押します。これにより、現在の通話が保留になります。



いつもと同じ方法で、発信先を探します。



緑色の 通話アイコンを選択して OK を押すか、リモコンの緑色の通話ボタンを押します。

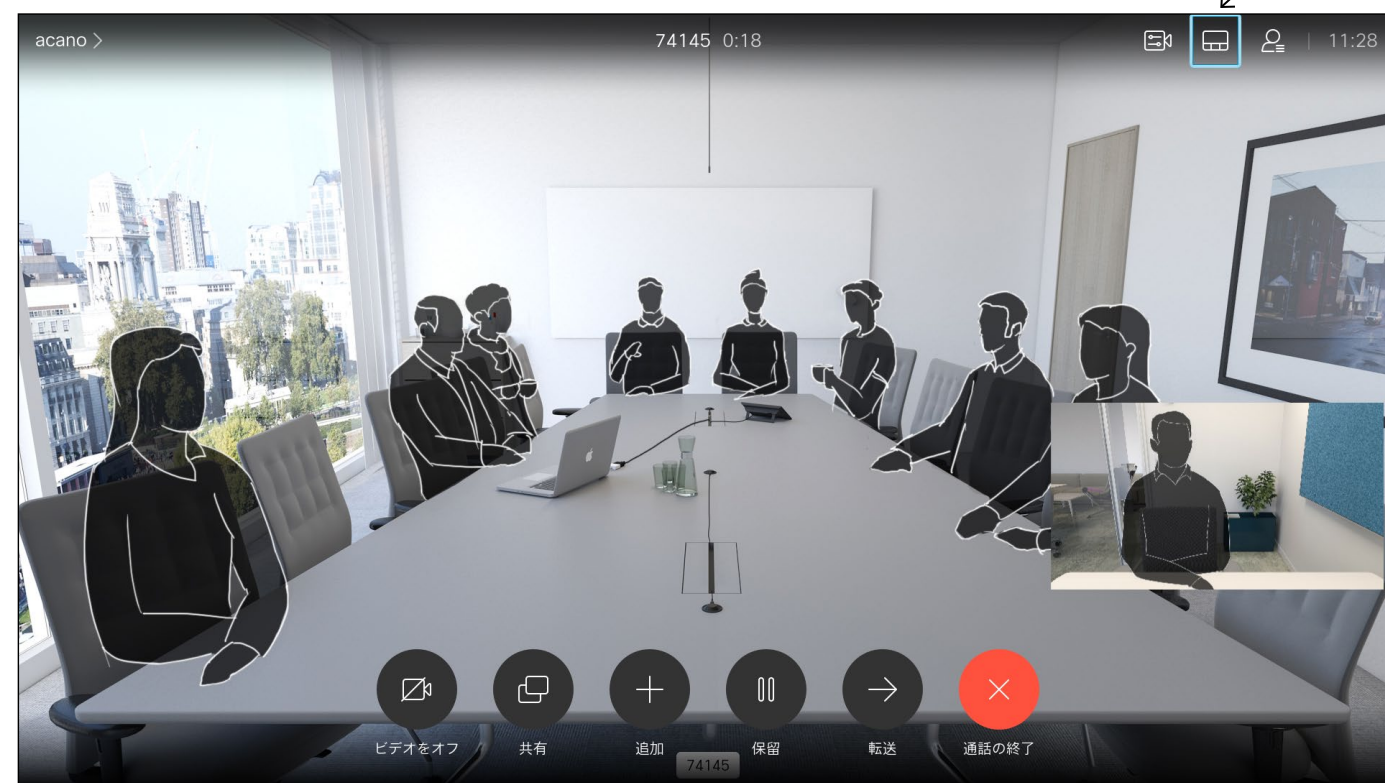


相手と話して転送をしてもよいか確認してください。転送する相手は、保留のままになります。転送の完了を選択して、リモコンの OK を押します。

ビデオ通話 画面のレイアウトを変更する

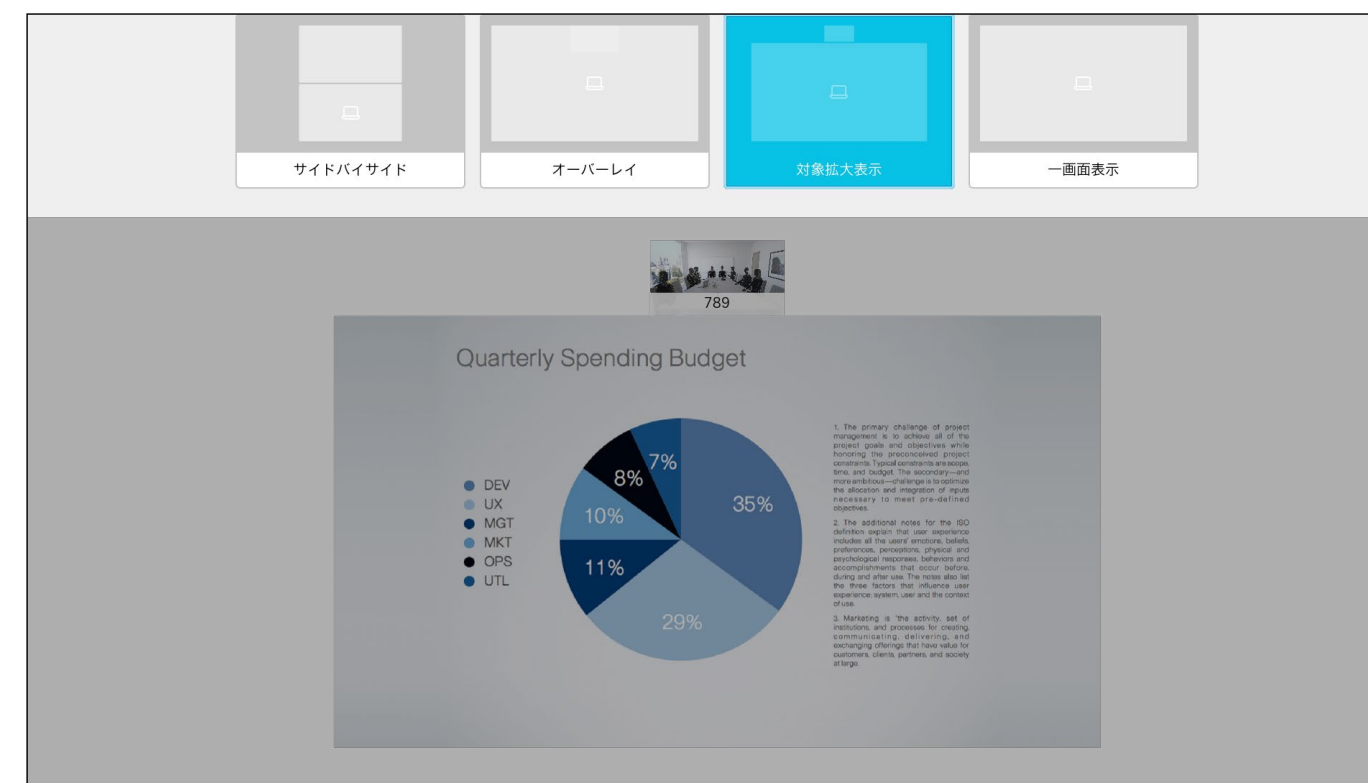
レイアウトについて

1



右上隅のレイアウトに移動し、リモコンのOKを押します。
このアイコンは、関連している場合にのみ表示されます。

2



方向キーを使用して新しいレイアウトに移動し、OKを押します。

コンテンツを共有する場合、またはビデオ会議中の場合は、画面に表示されるビデオのレイアウトを変更することができます。

組織内に特定のインフラストラクチャが存在しない場合、デバイスはビデオ会議を開始できません。不明な点がある場合は、ビデオ サポート チームにお問い合わせください。

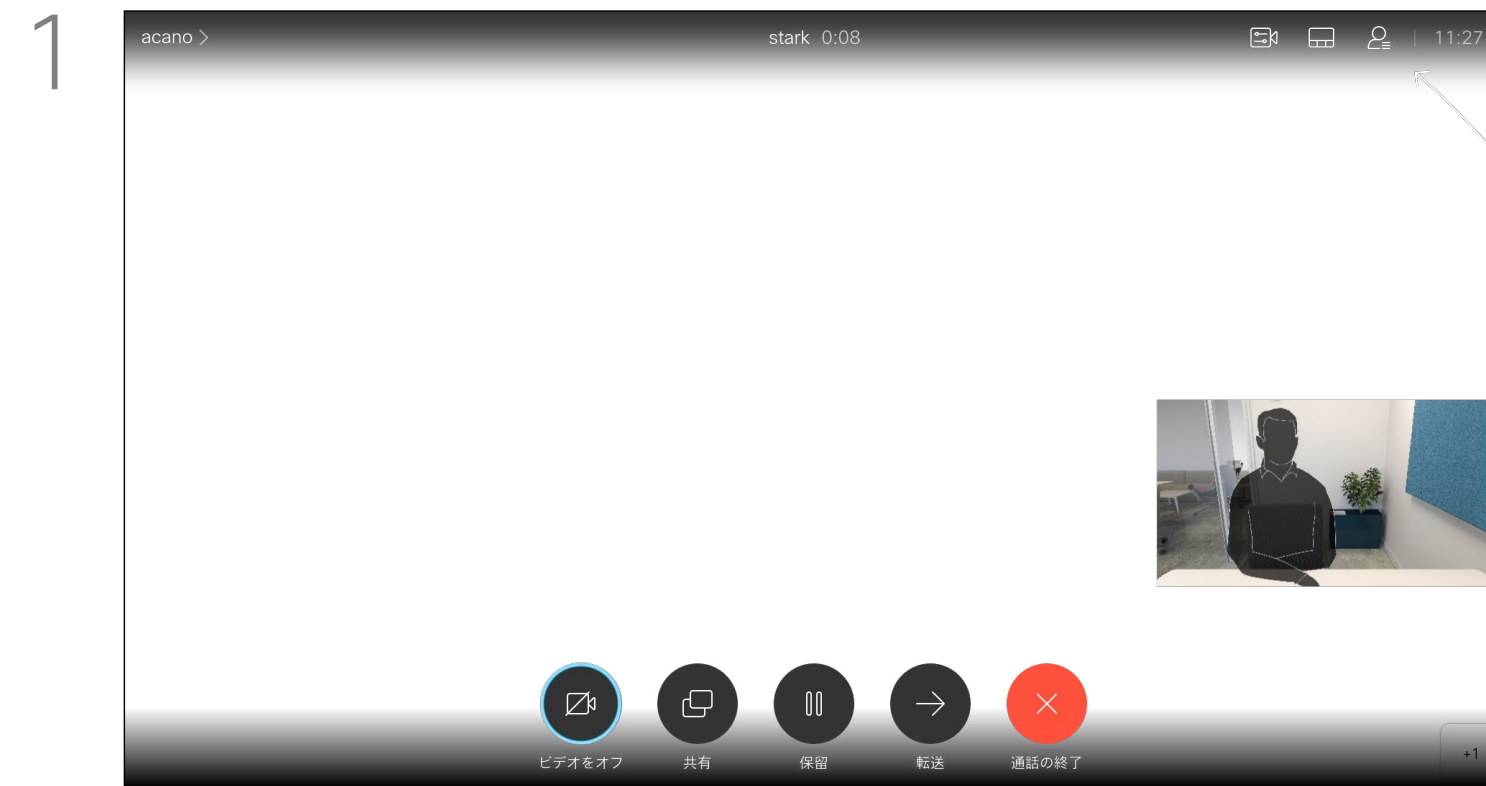
ただし、他のユーザからビデオ会議に招待されることはあります。画面レイアウトを変更できるようになります。

デバイスによって提供されるレイアウト変更オプションは、コンテキストと参加者の数によって異なります。

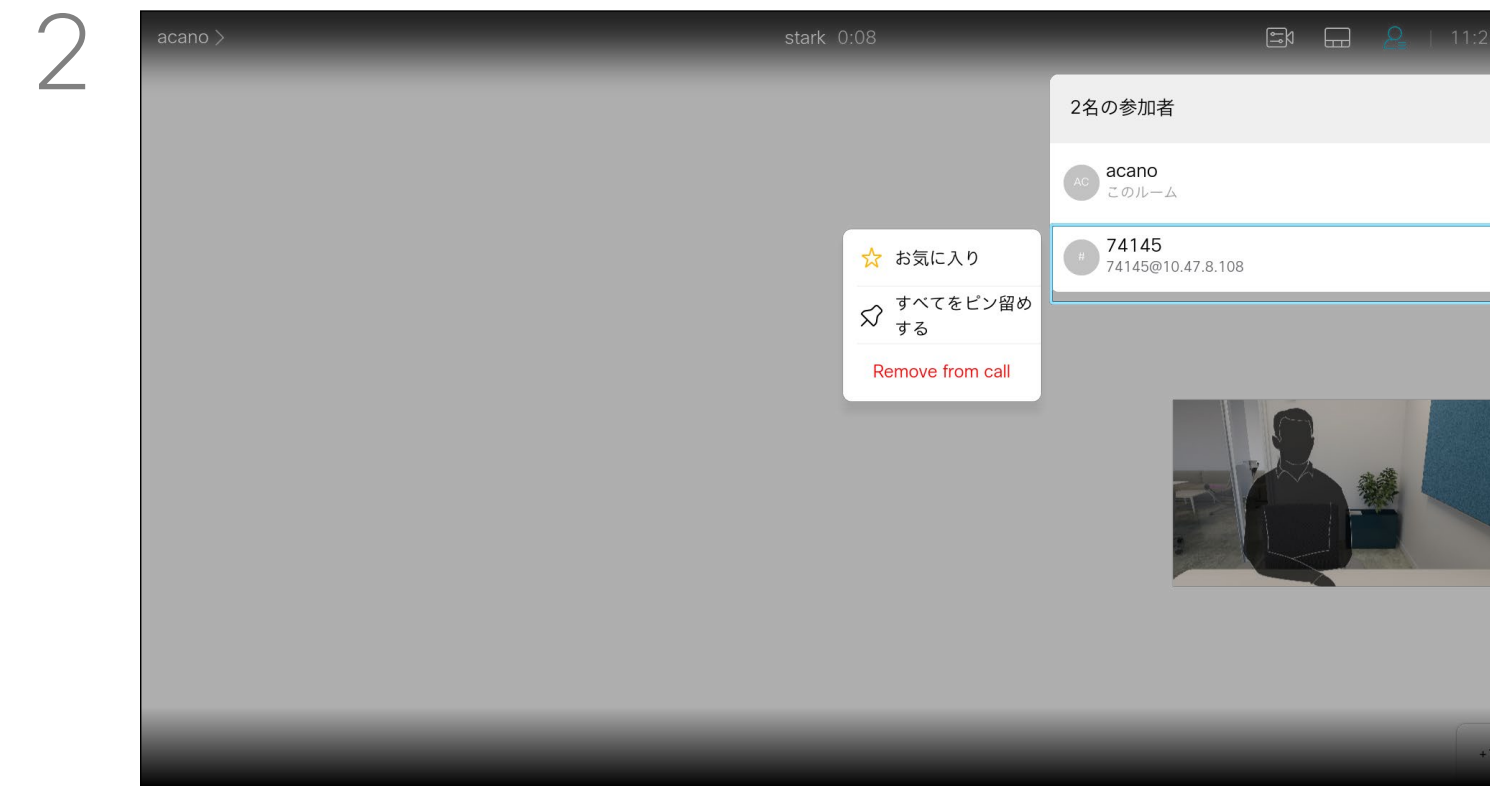
ここで行った変更は、他の設定には適用されません。

ビデオ通話 会議中のスピーカーの固定

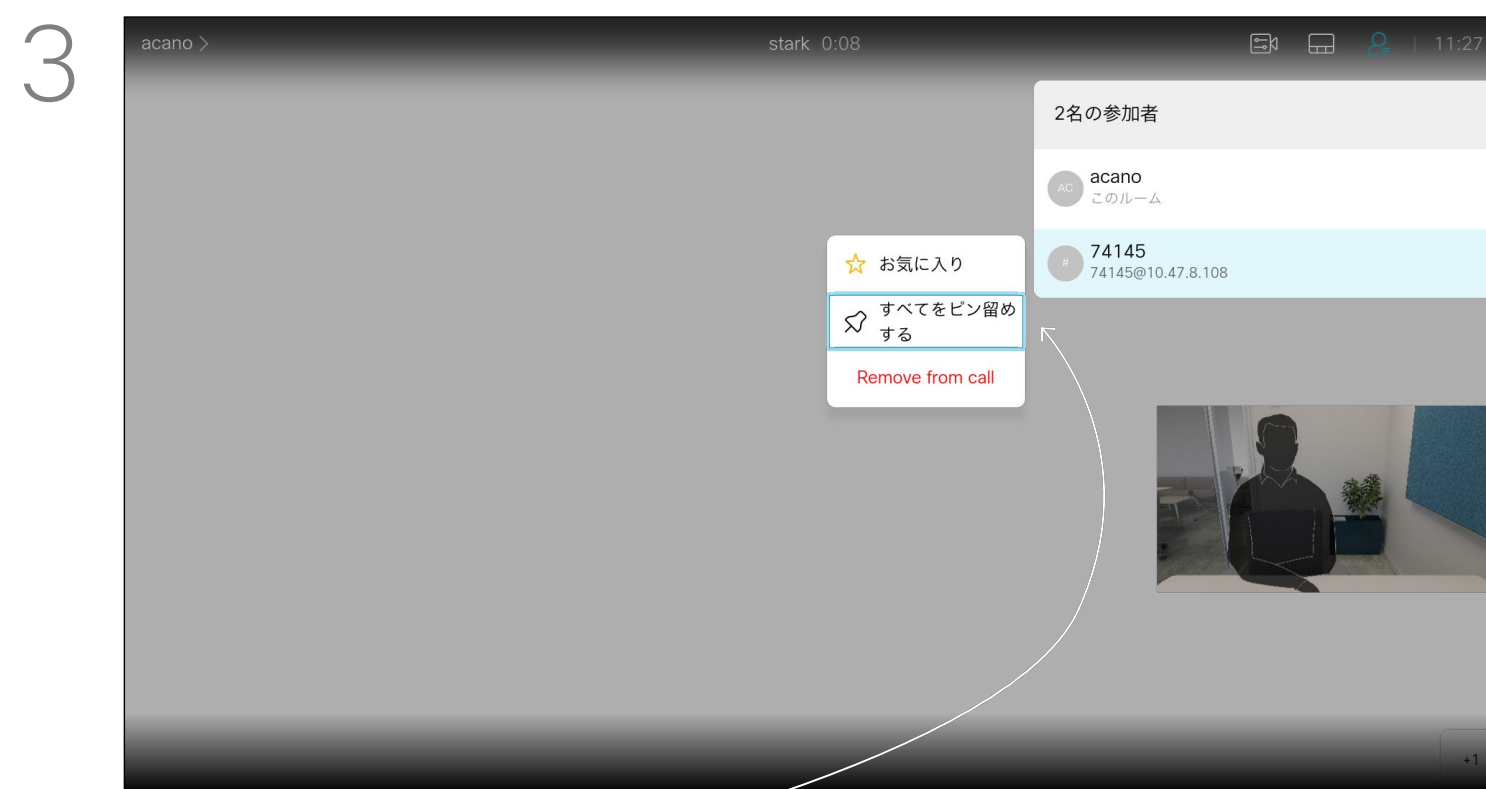
スピーカーの固定について



1 通話中に、図のように右上隅の参加者アイコンをタップし、OK を押して参加者リストを呼び出します。



2 会議から退出させる参加者のところまで下に移動し、OK を押します。



3 すべて固定に移動して、OK を押します。

CMS ミーティングでは、ミーティングの参加者全員にとって重要であるとしてミーティングの参加者を固定することができます。このようにすると、参加者または会議室にアクティブなスピーカーでなくても、全画面に表示されます。スピーカーを固定すると、そのスピーカーが固定されていることを示す通知が画面に表示されます。同様に、固定を解除すると、それらの固定が解除されたというメッセージが表示されます。

音声のみの参加者を固定する場合、この設定はレイアウトには反映されません。

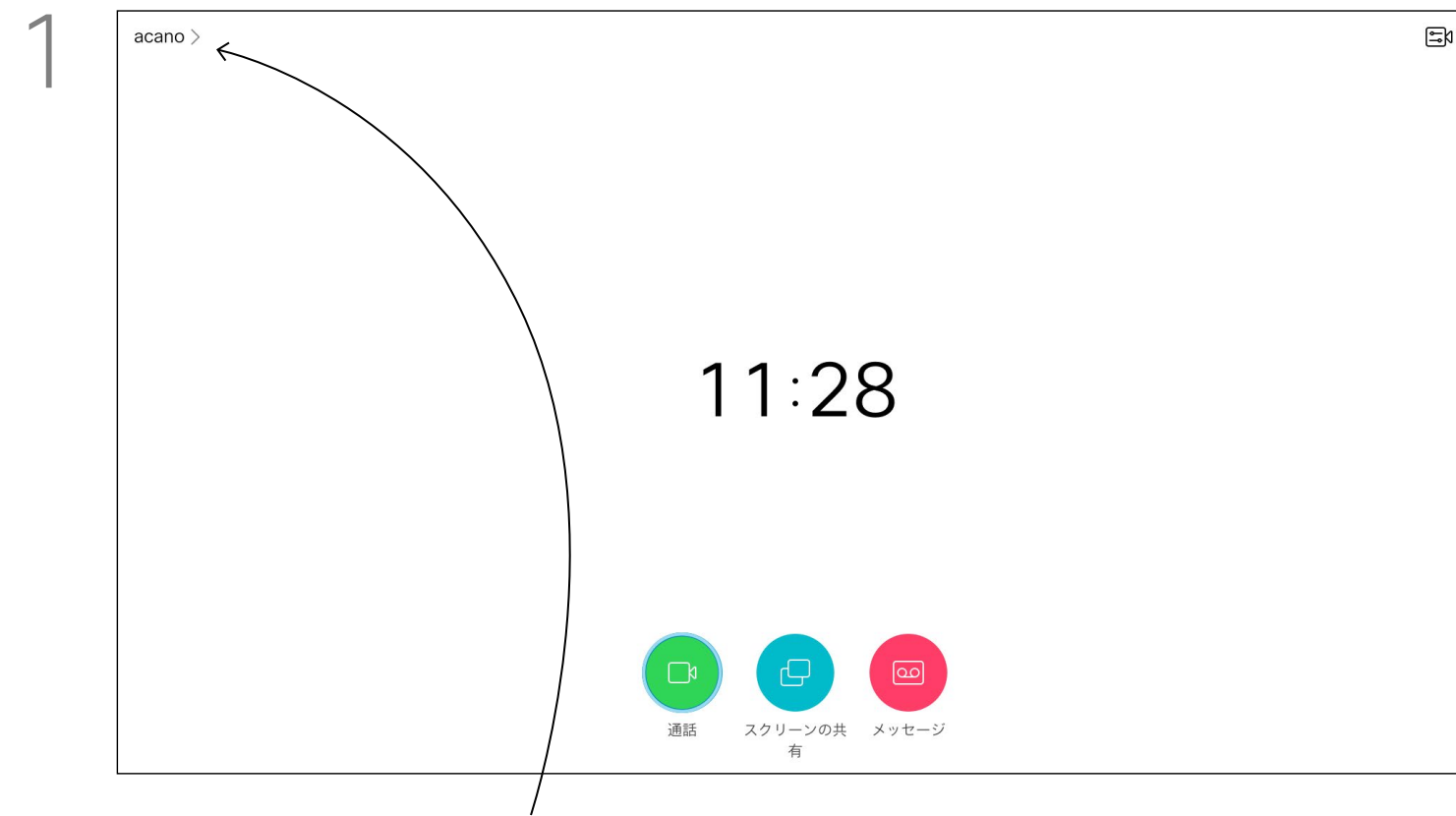
デフォルトでは、ホストのみがすべてを固定できますが、ミーティングの開催者は会議の設定でこれを変更することができます。

スピーカーは、CMS ミーティングでのみミーティング全体に対して固定できます。

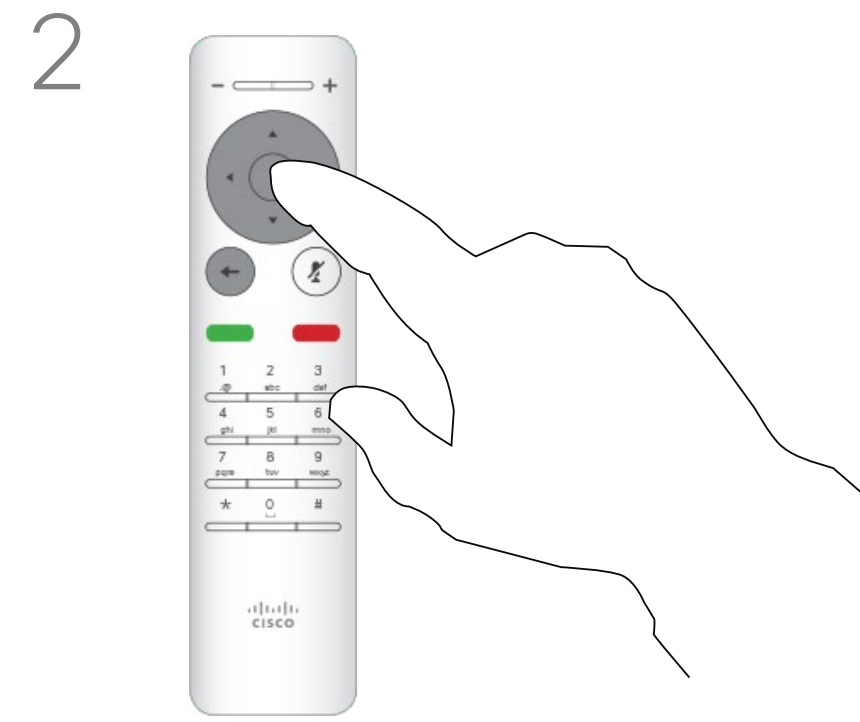
ビデオ通話 [応答不可] を有効にする

応答不可について

着信コールに回答しないようにデバイスを設定することができます。
[応答不可] に設定すると、着信音はミュートになり、他のユーザが行った通話の試みは不在着信として表示されます。ただし、電話をかけることはできます。
デフォルトでは、[応答不可] は 60 分でタイムアウトしますが、これはビデオサポートチームによって別の設定に変更されている可能性があります。



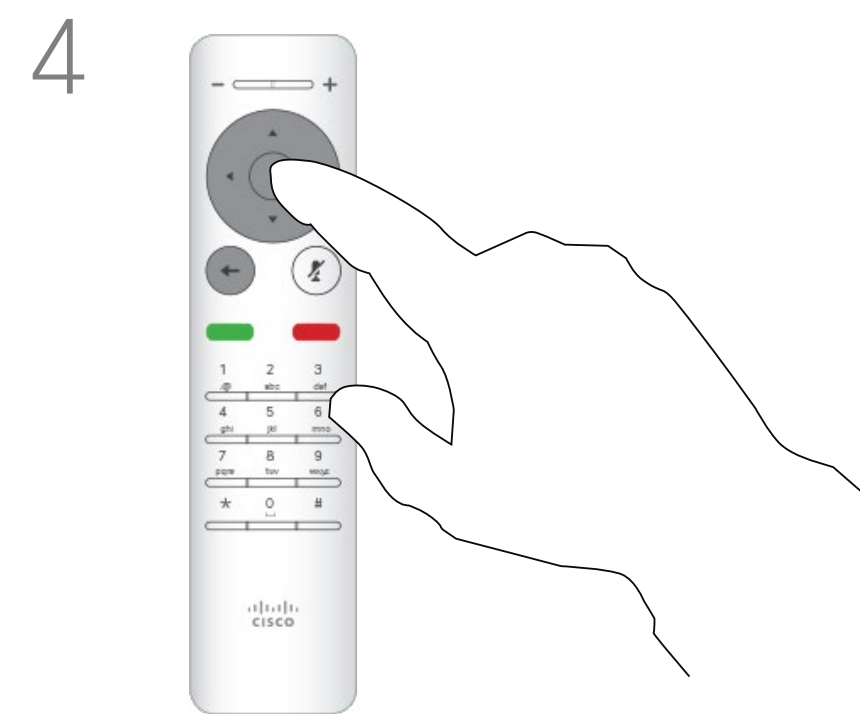
ホーム画面でリモコンの方向キーを使用して、画面の左上隅にある **詳細** アイコンを選択します。



リモートコントロールの OK を押します。



リモコンの下方向キーを押して **応答不可** に移動し、リモコンの OK ボタンでオンまたはオフに設定します (切り替え)。

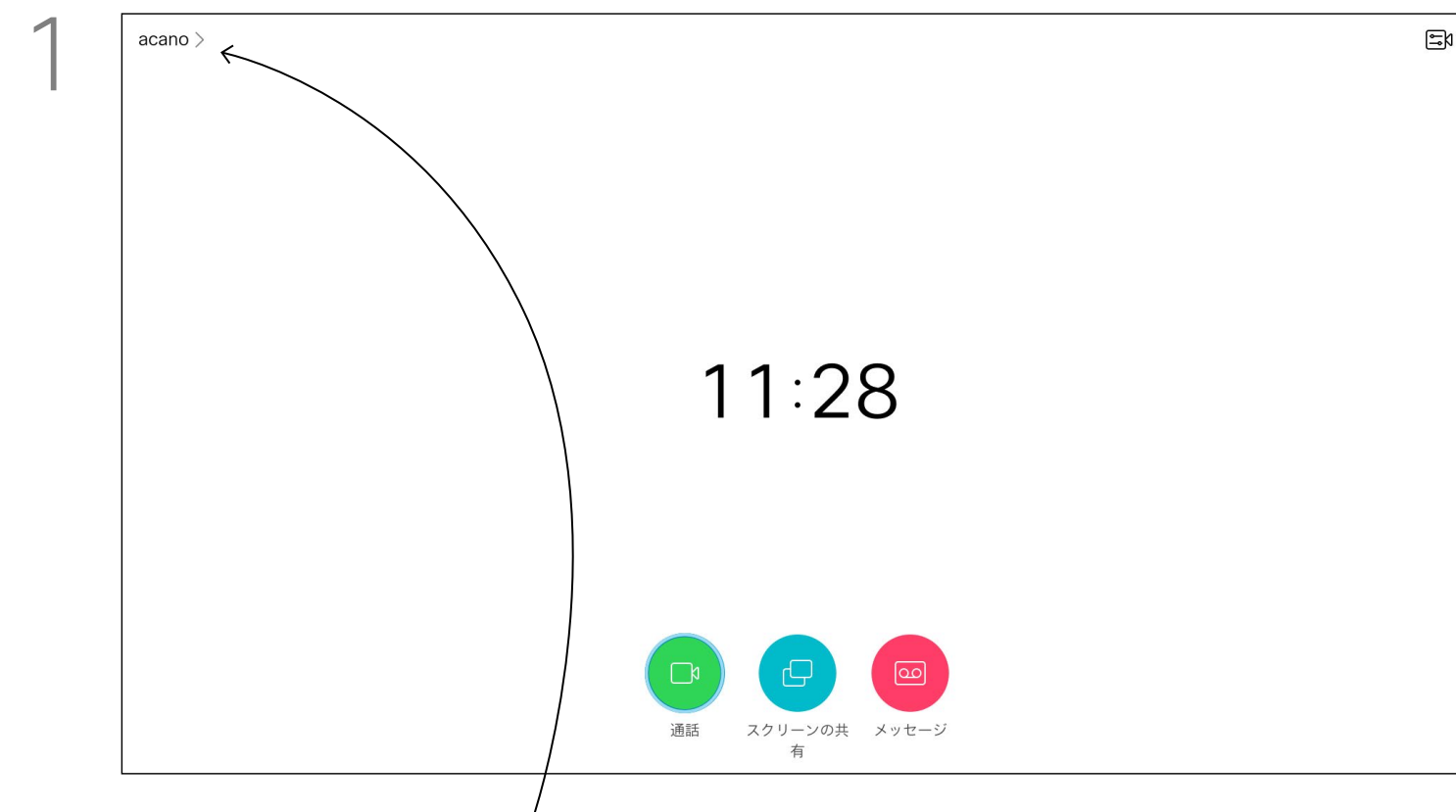


リモートコントロールの OK キーを押してメニューを終了させると、変更が有効になります。

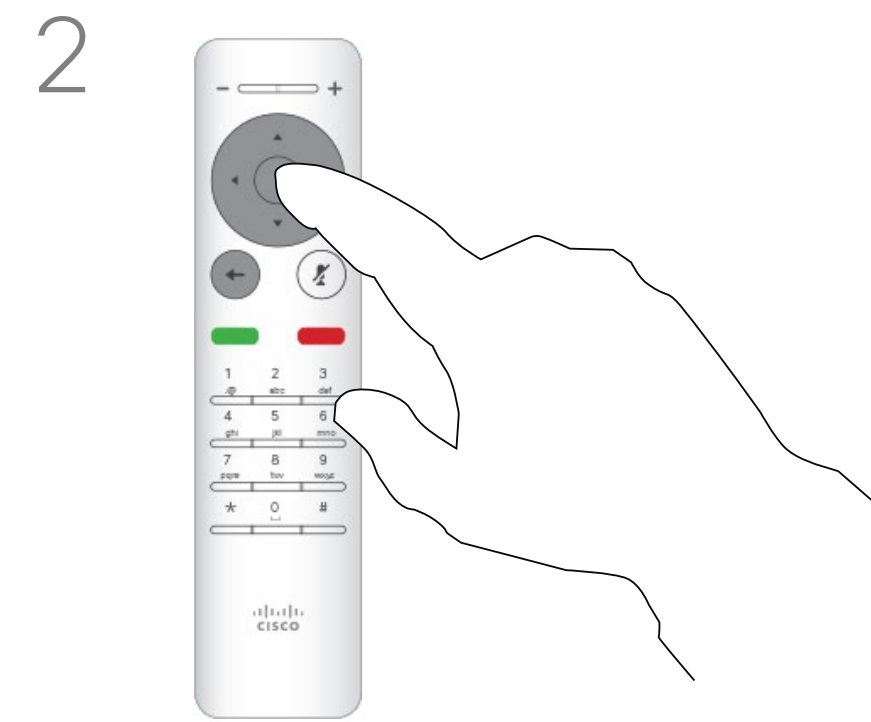
ビデオ通話 スタンバイを有効にする

スタンバイについて

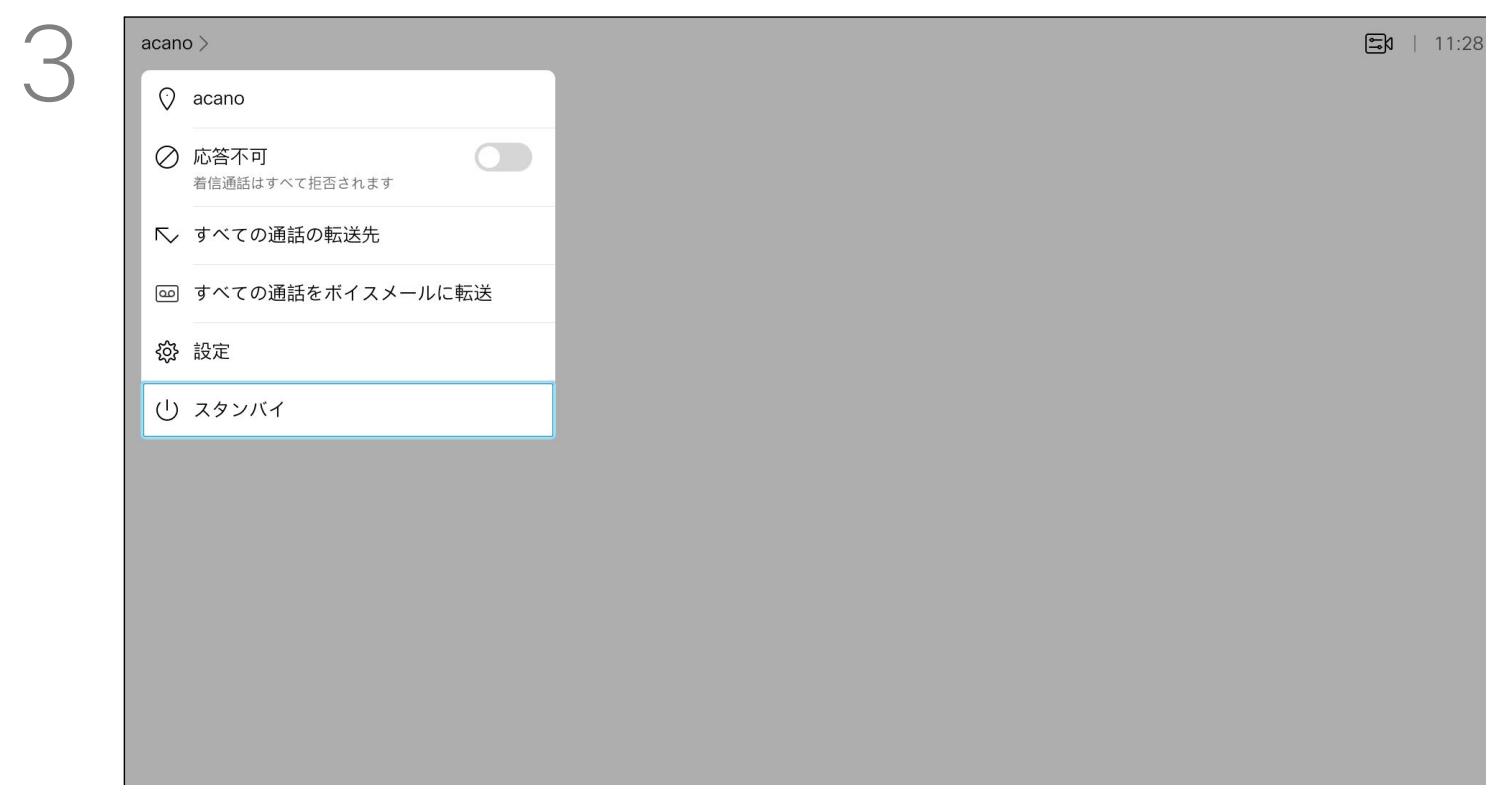
デバイスをスタンバイに設定して電力を節約することができます。通常、コールを受信することもできます。



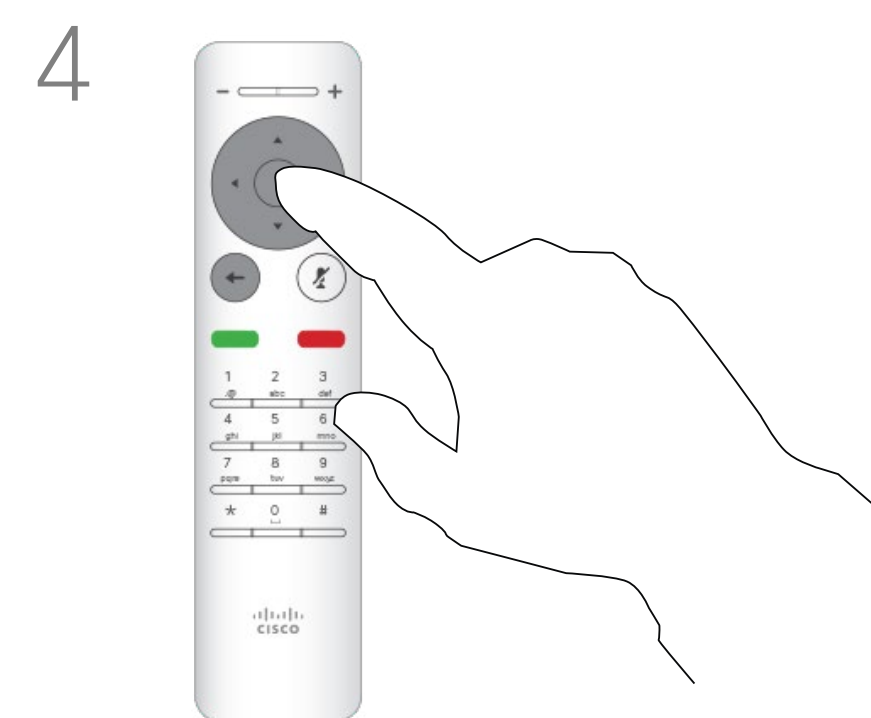
ホーム画面でリモコンの方向キーを使用して、画面の左上隅にある **詳細>** アイコンを選択します。



リモートコントロールの OK を押します。



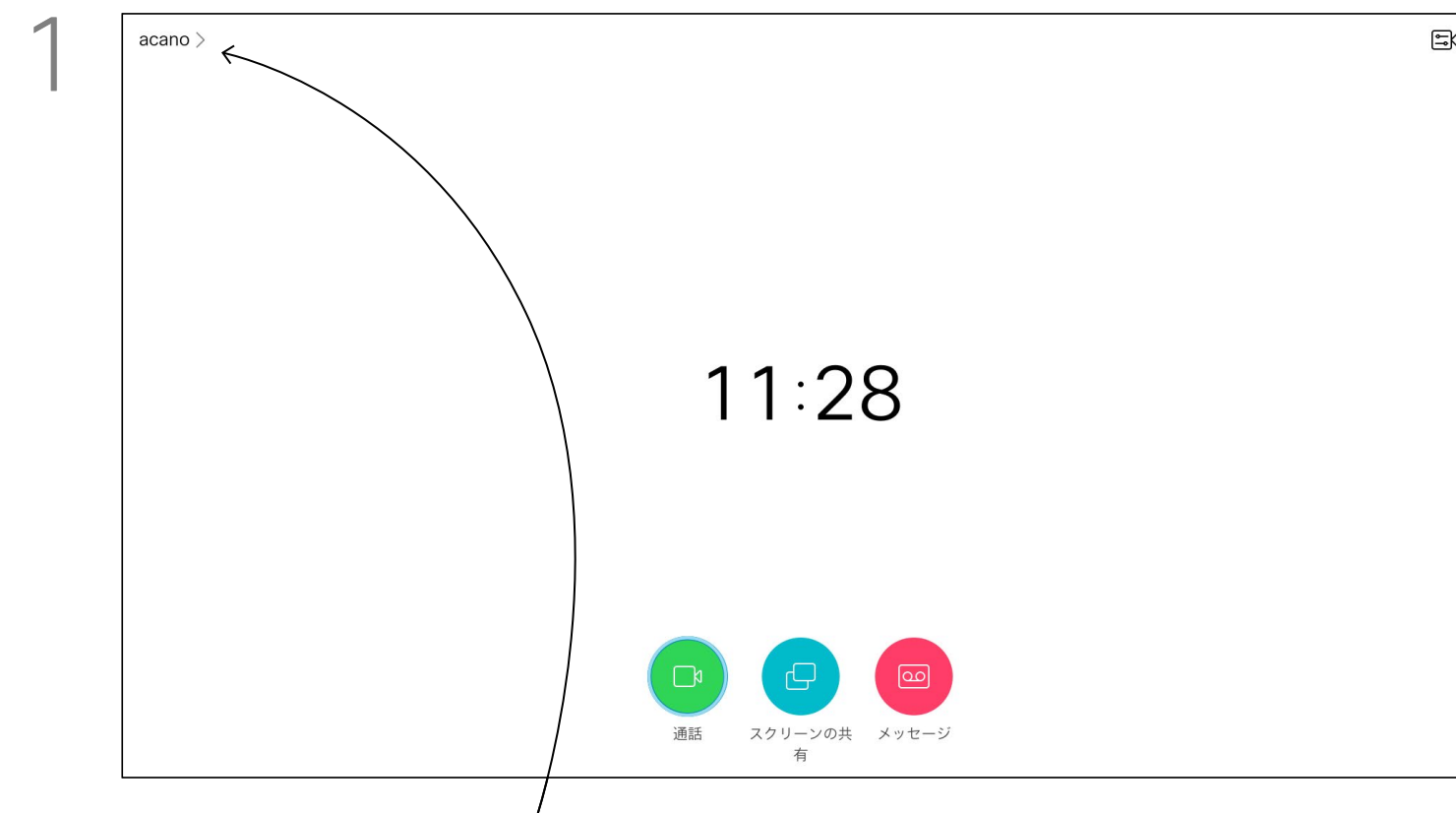
下方向キーを押して スタンバイに移動します。



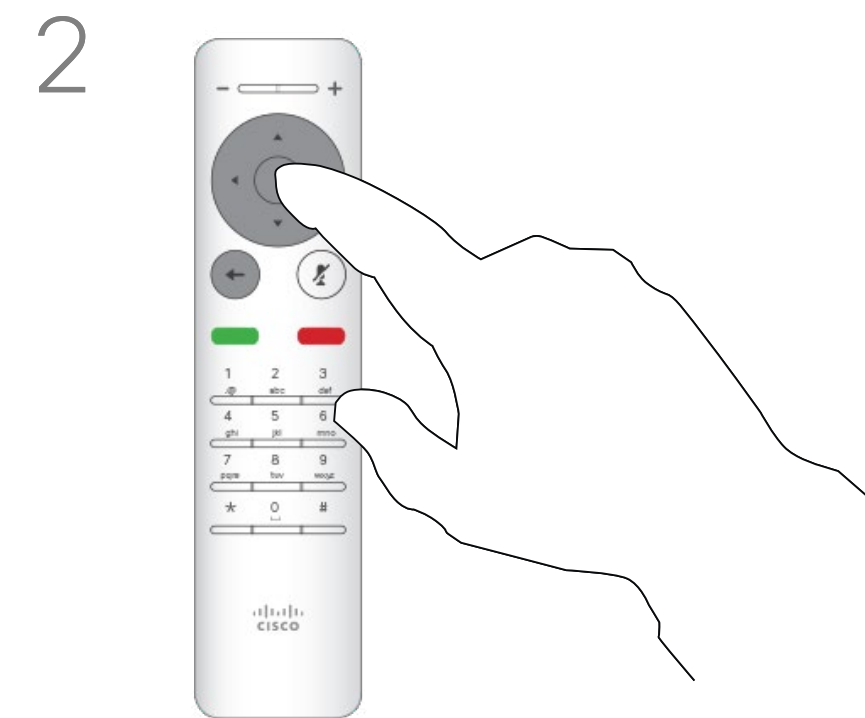
リモートコントロールの OK キーを押してメニューを終了させると、変更が有効になります。

ビデオ通話 すべてのコールを転送する

転送について



ホーム画面でリモコンの方向キーを使用して、画面の左上隅にある **詳細>** アイコンを選択します。



リモートコントロールの **OK** を押します。

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。その後、ボイスメールと受信者のいずれかを選択できます。

すべての通話を転送を選択すると、いつもの通話メニューが表示され、コールを受けるコールの受信番号を選択できます。



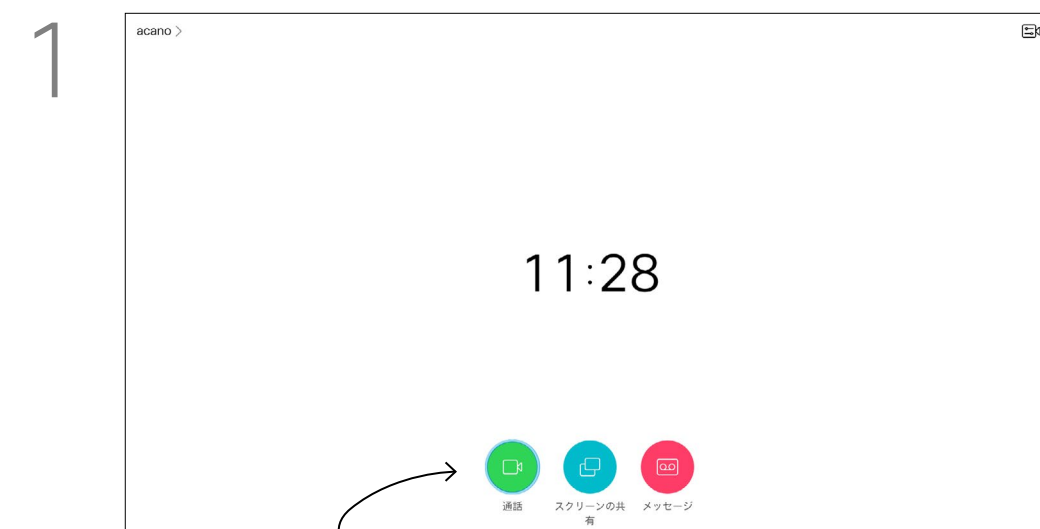
方向キーを押して **すべての通話を転送** に移動します。すべての通話をボイスメールに転送するには、**すべての通話をボイスメールに転送** に移動し、**OK** を押します。



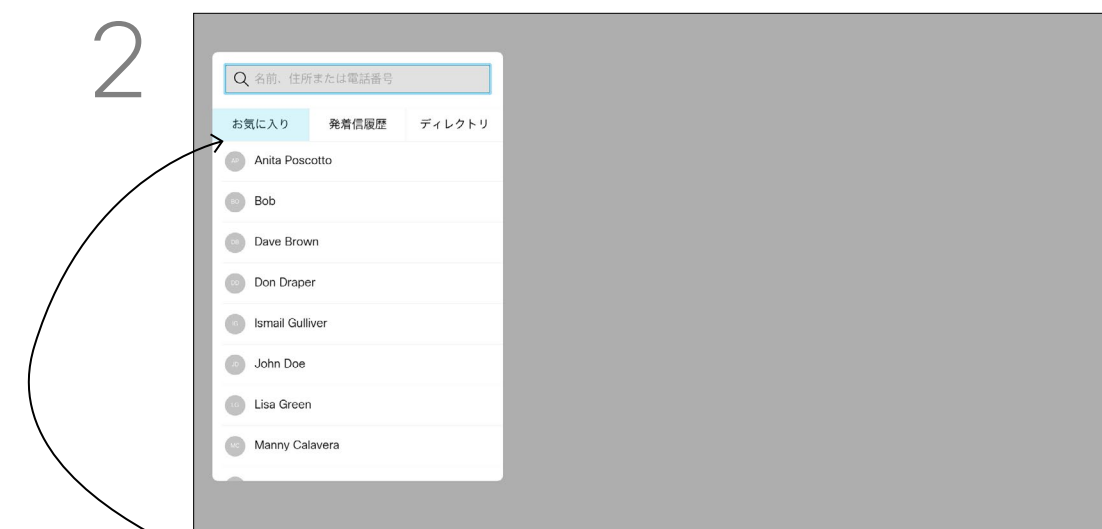
...に**すべての通話を転送**を選択すると、**通話メニュー**が開きます。発信する相手を選択するのと同じ方法で、すべての通話を転送する相手を選択します。

ビデオ通話 最近の通話のコール詳細検索

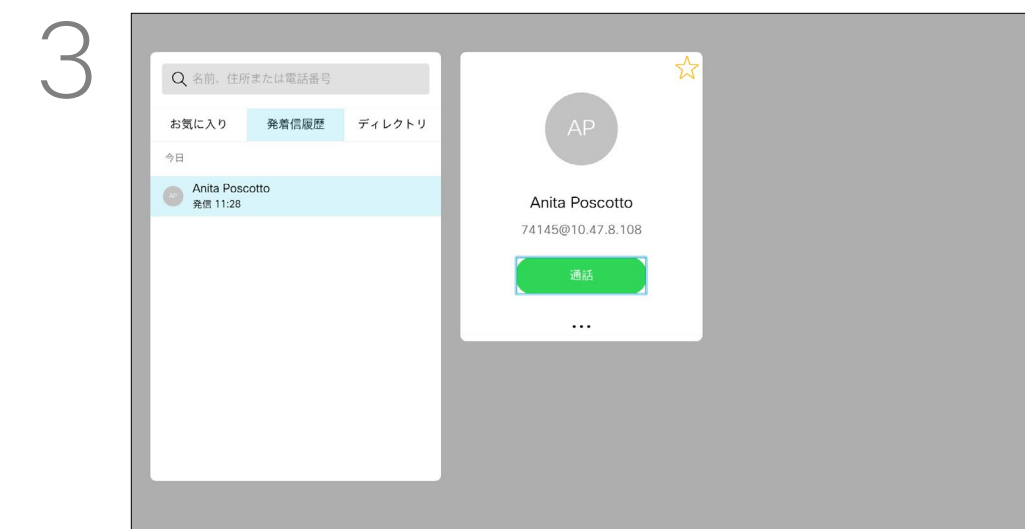
通話の詳細について



1 通話(画面下部の一番左のアイコン)が選択され、リモートコントロールのOKが押されているか、またはリモートコントロールの緑色の発信ボタンが押されていることを確認します。

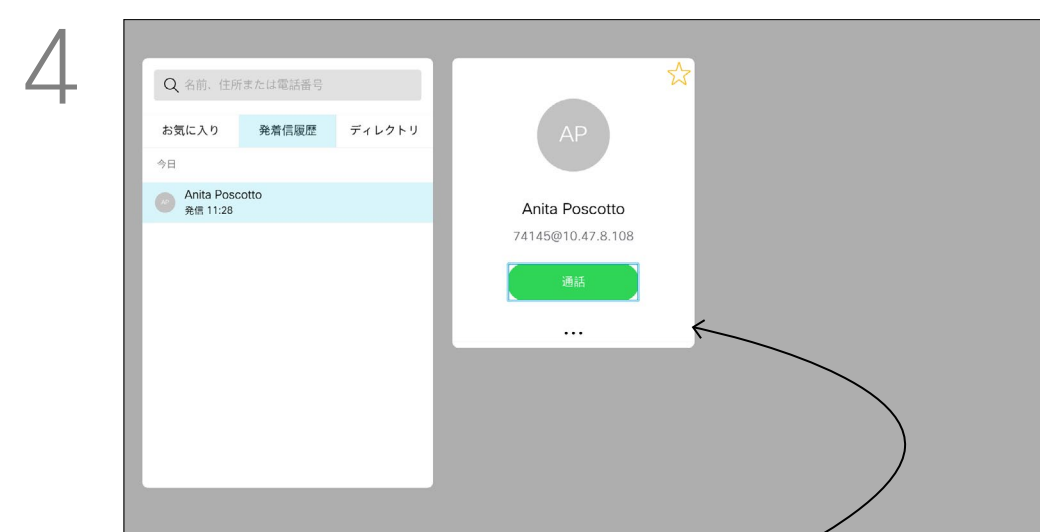


2 リモコンのカーソルキーを使用してお気に入りに移動します。

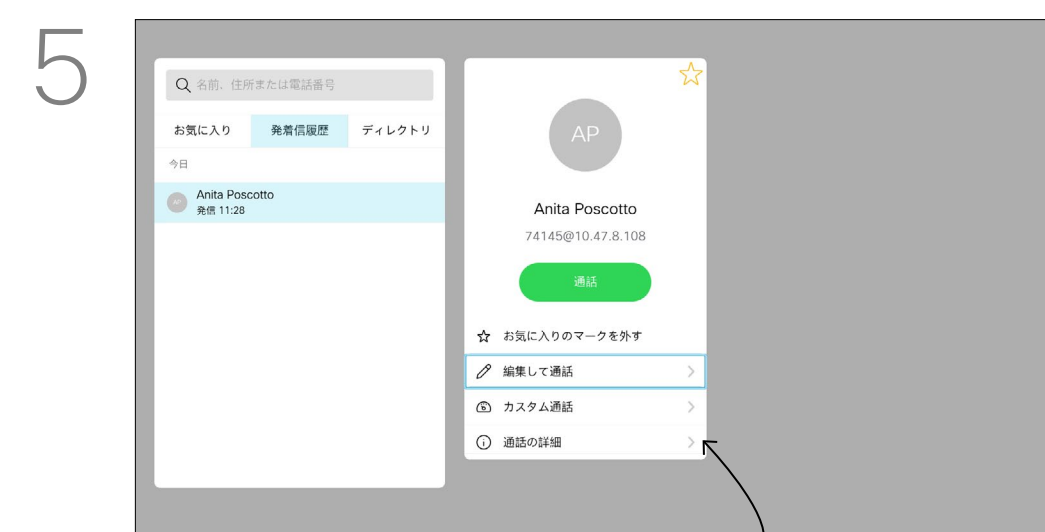


3 特定のエンタリが見つかったら、リモートコントロールのOKを押して、通話メニューを開きます。

最近の通話のトラブルシューティングを行う必要がある場合は、[最近の通話] リストから通話の詳細を見つけることができます。



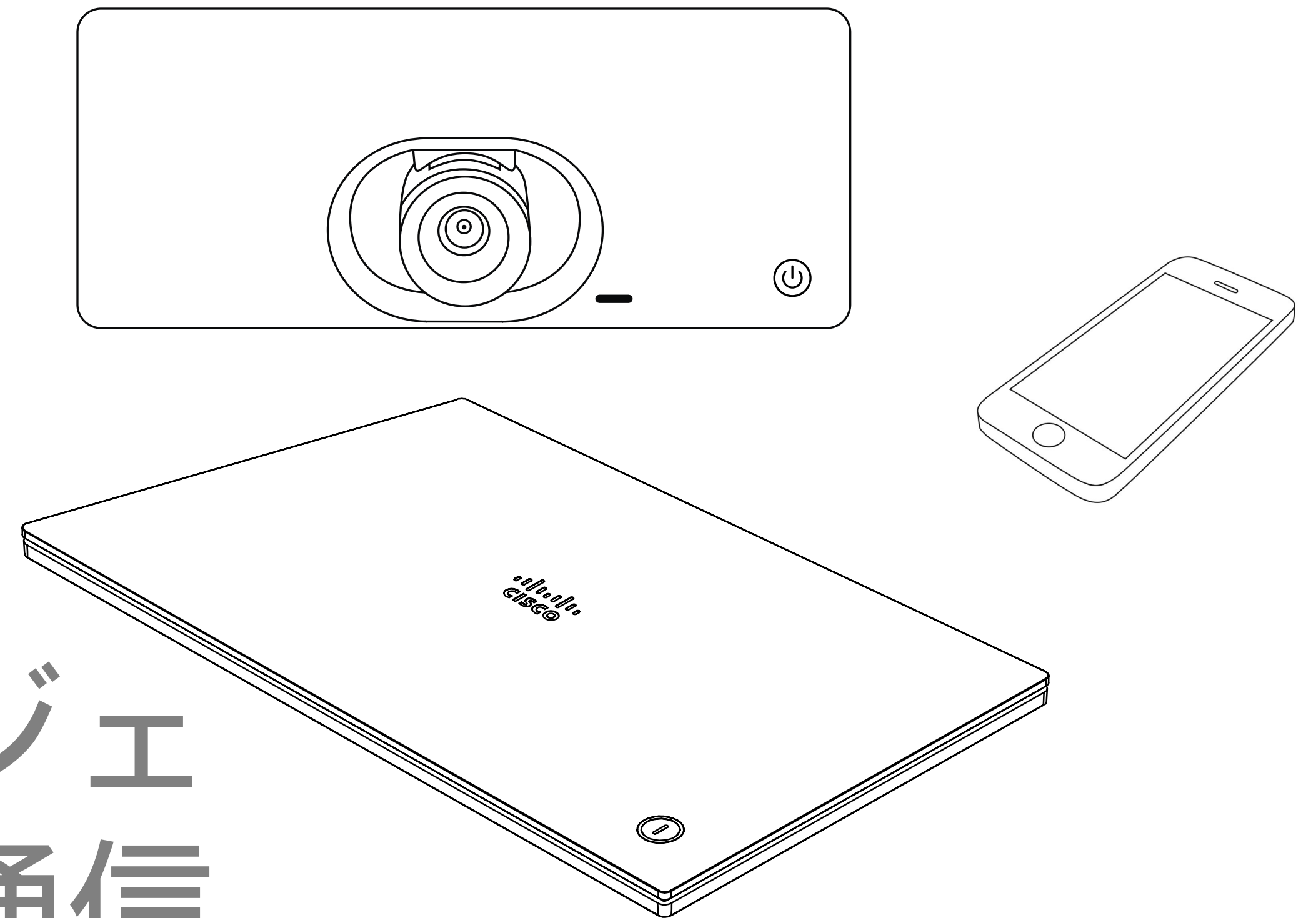
4 リモコンの方向キーを使用して、その他フィールド(...)を選択してOKを押します。



5 コール詳細に移動し、OKを押します。



6 カーソルキーを使用して、通話情報ペインをスクロールします。



インテリジェ ント近接通信

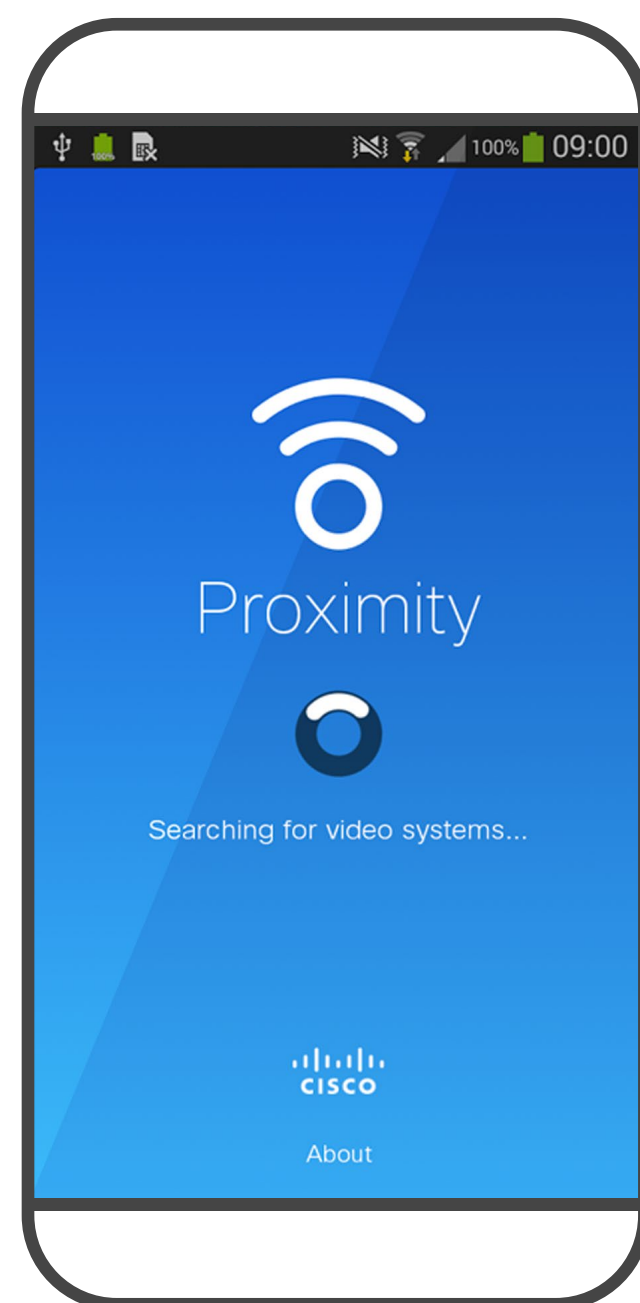
Cisco 近接通信の超音波信号

近接通信について

Cisco ビデオデバイスは、近接機能の一部として超音波を発しています。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接通信信号が出力される 20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 (英語) をご覧ください。



120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

グループ使用の一体型スピーカー付き Cisco ビデオデバイスの場合、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満でスピーカーから 50 cm 以上の距離にあります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音についてミーティングスペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。したがって、人間が近接通信の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いので、近接通信の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なりません。20 kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであるとしても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンドノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることになります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたというレポートはありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオコーデックをサードパーティ製のスピーカーシステムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

インテリジェント近接機能を使用すると、コンピュータからビデオデバイス上のワイヤレスでコンテンツを共有できます。スマートフォンやタブレットでは、共有コンテンツを自分の画面に直接表示することもできます。

また、自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。

次の条件に従ってください。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

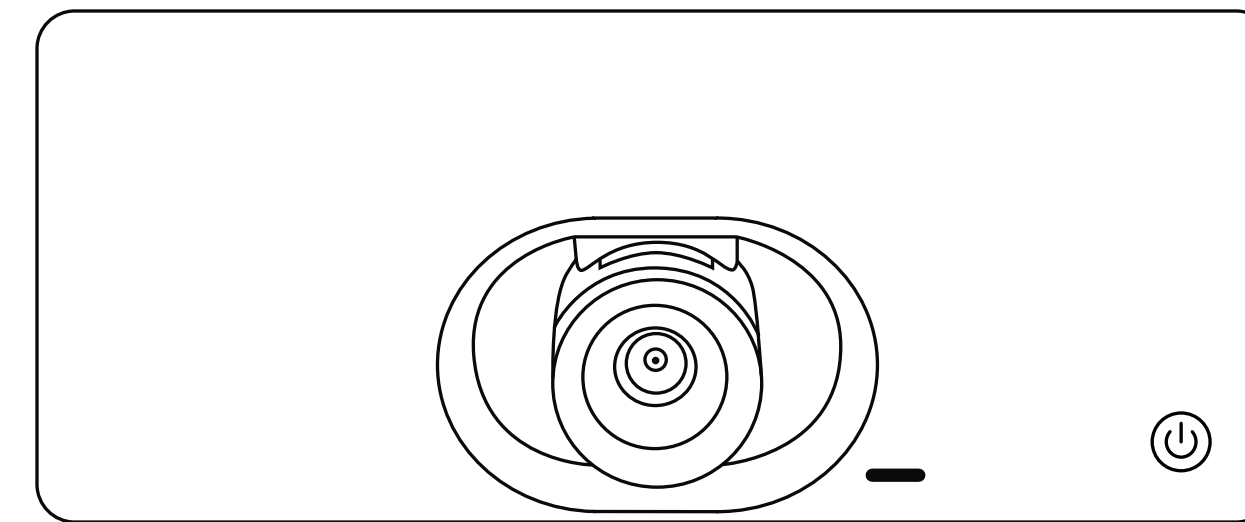
ビデオサポートチームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

インテリジェント近接通信は、ユーザの接続時に超音波を利用します (詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

インテリジェント近接通信は、会議室のドアが閉じられた状態では、ミーティング室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオエンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。

コンテンツ共有



コンテンツ共有 プレゼンテーションの開始と中止

コンテンツ共有について



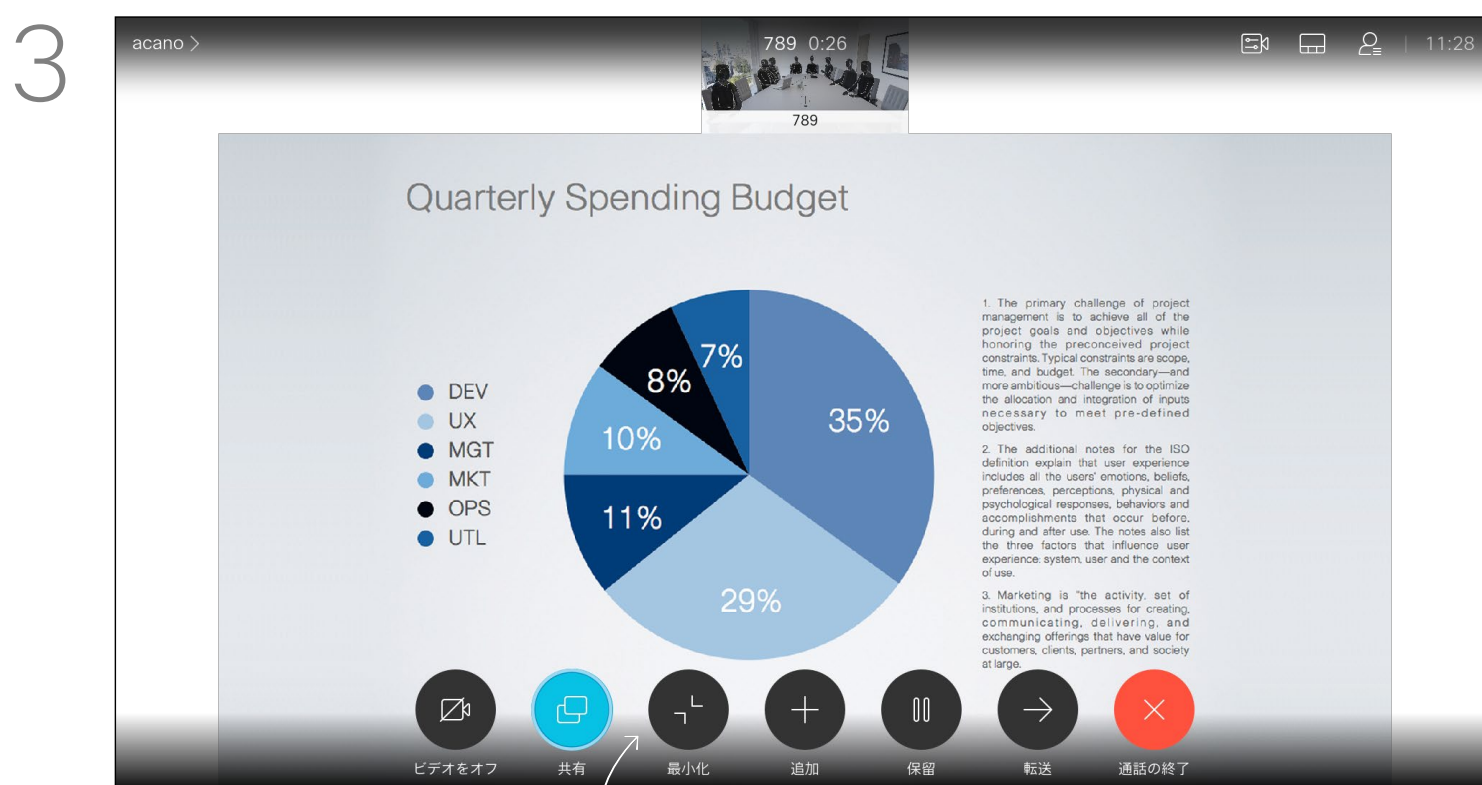
1 プレゼンテーションソースが接続され、オンになっていることを確認します。場合によっては、共有を選択し、リモコンのOKを押す必要があります。



2 通話中に共有を選択する前にローカルプレビューを選択すると、他の参加者と共有せずにコンテンツを確認できます。

通話中または通話外で、この機能を使用してPCのコンテンツを共有します。手順は同じですが、ここで説明するのは通話中の方法だけです。

プロキシミティを使用してコンテンツを共有するには、プレゼンテーションの送信元にCisco Proximityがインストールされていて、アクティブになっていることを確認してください。ペアリングが開始するまで数分かかります。画面の指示に従います。



3 共有画像のサイズは、最小化/最大化アイコンで操作します。必要に応じて、このフィールドを選択し、リモートコントロールのOKを押します。

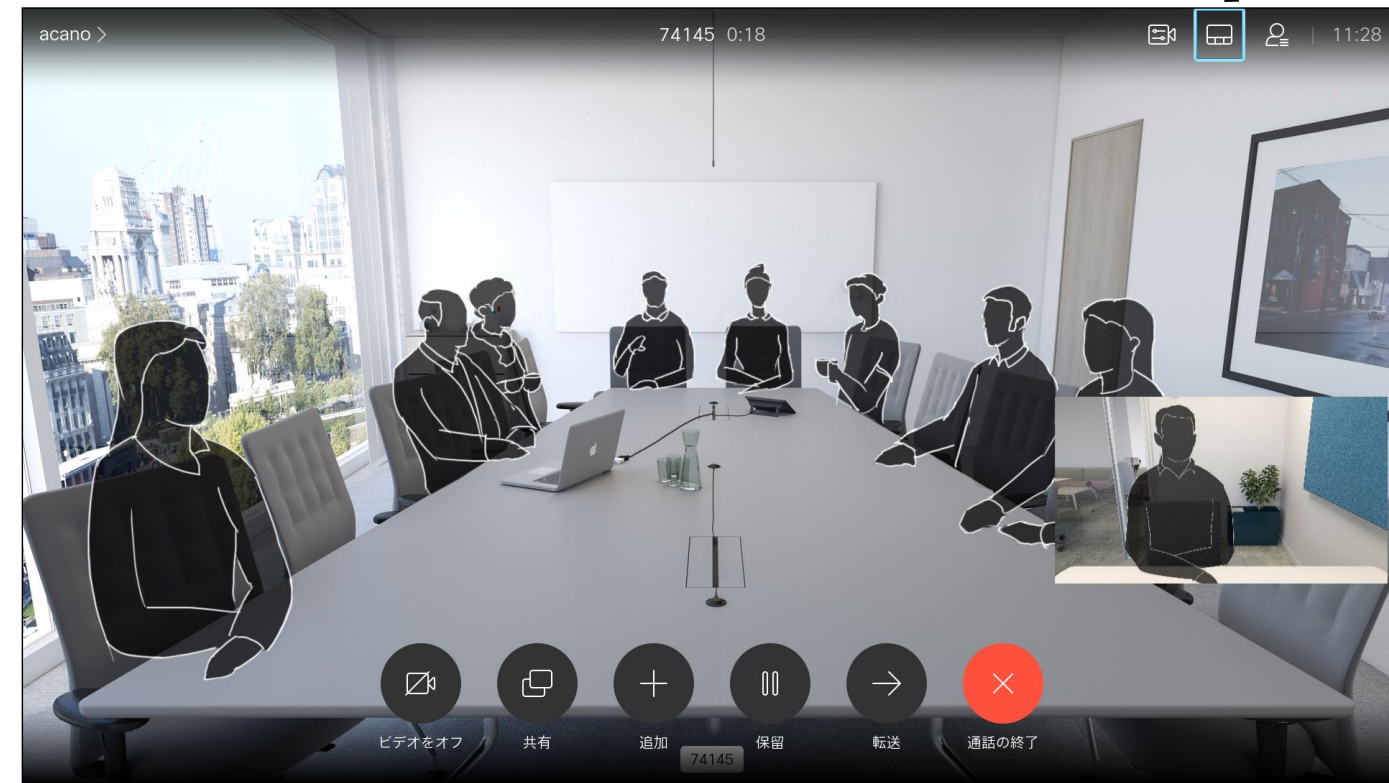


4 コンテンツの共有をやめるには、共有を停止を選択し、リモートコントロールのOKを押します。

コンテンツ共有 通話中にプレゼンテーションレイアウトを変更する

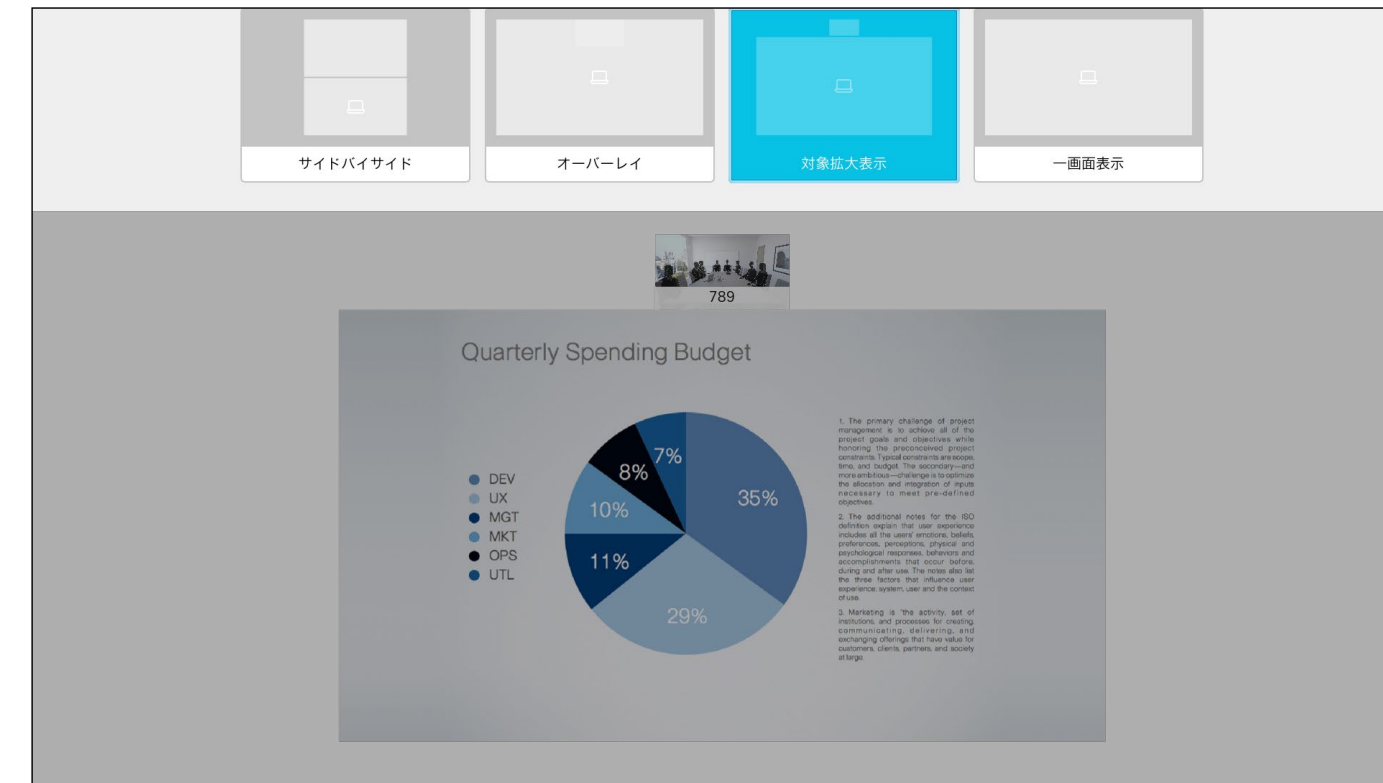
プレゼンテーション レイアウトについて

1



右上隅のレイアウトに移動し、リモコンのOKを押します。該当する場合にだけ、このアイコンが表示されます。

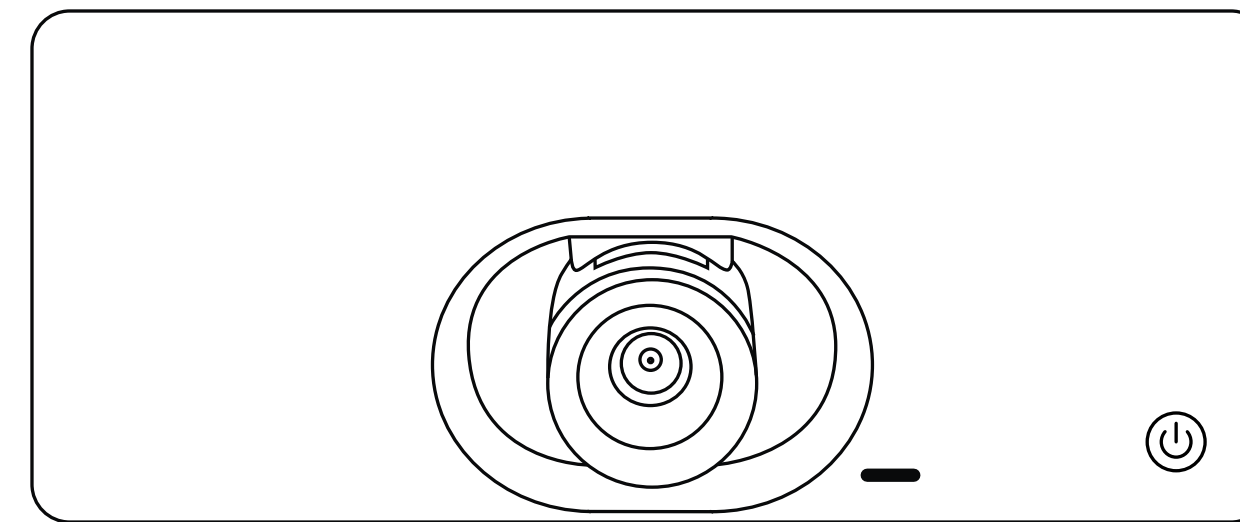
2



方向キーを使用して新しいレイアウトに移動し、OKを押します。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更することができます。通常は、プレゼンタの表示または非表示に加え、プレゼンタを PiP (ピクチャインピクチャ) または PoP (ピクチャアウトサイドピクチャ) から選ぶことができます。デバイスで使用可能なレイアウトオプションは、ここに表示されているものと異なる場合がありますが、表示されるレイアウトは常に選択可能なものです。

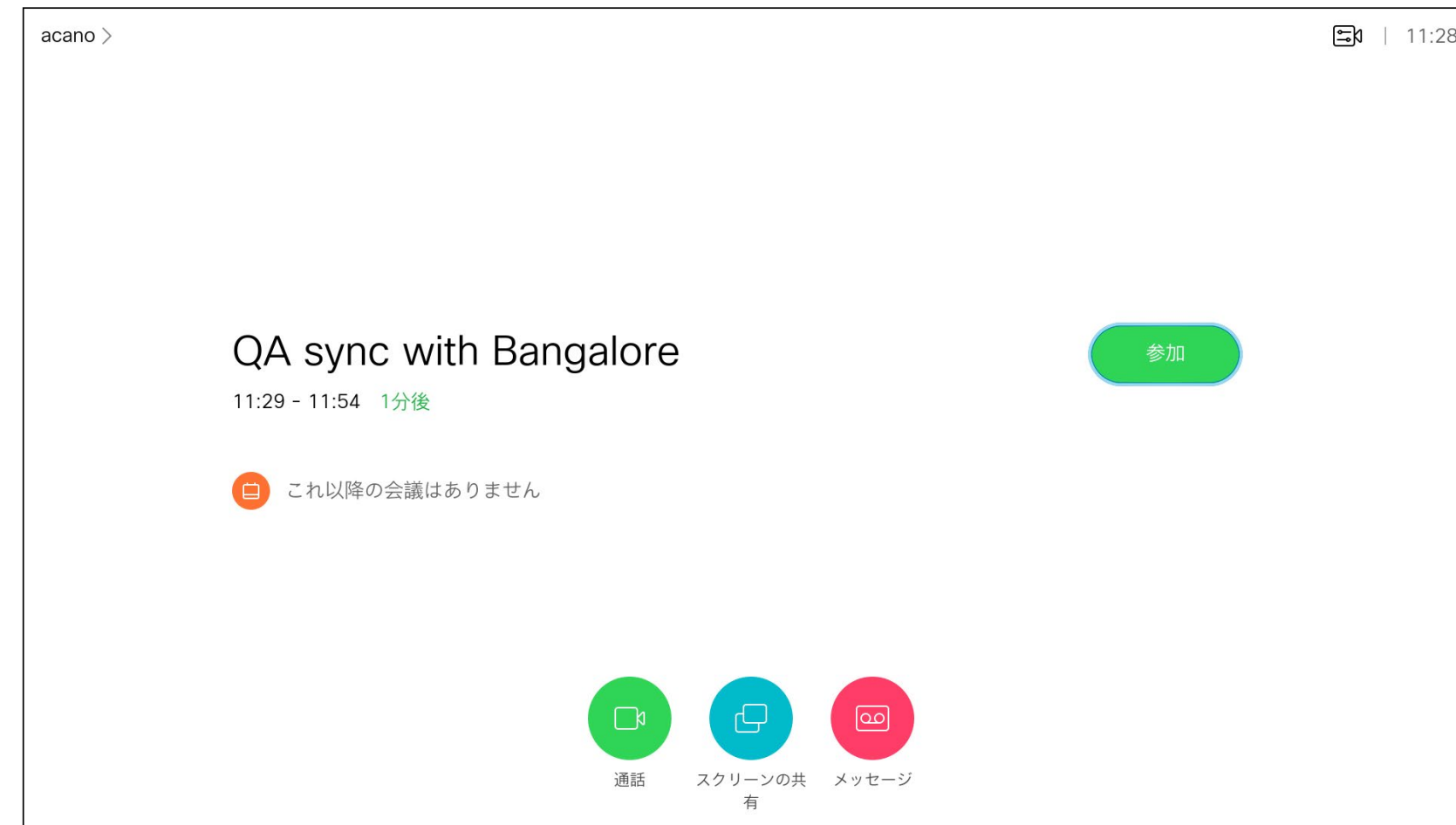
ミーティングの スケジュール



ミーティングのスケジュールに参加する

ミーティングへの参加

参加可能な会議に参加するには、緑色の参加アイコンに移動します。次にリモコンのOKを押します。

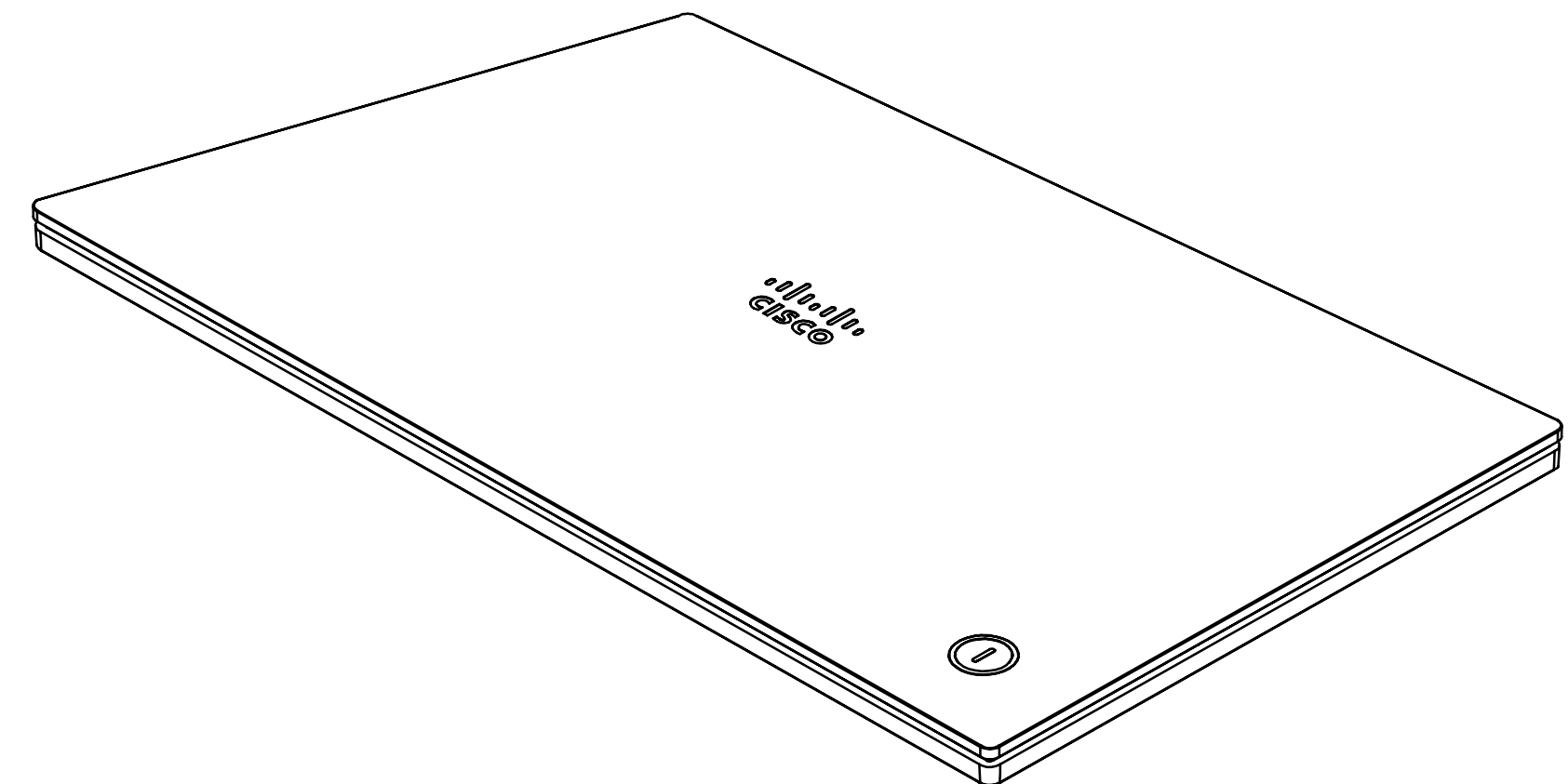
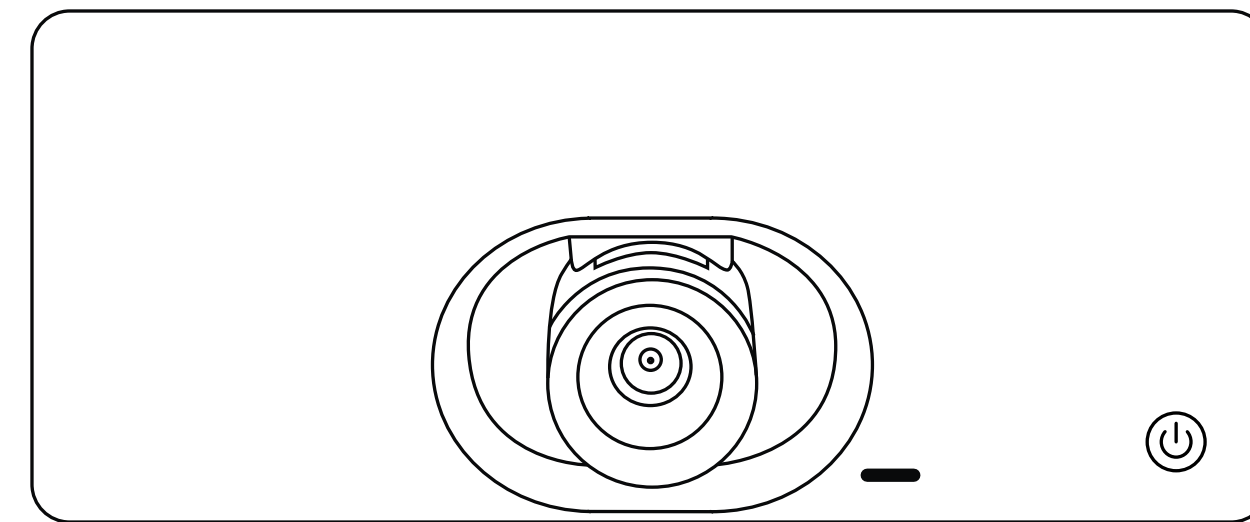


ビデオデバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。スケジュールされたミーティングはどれも左の図のように表示されます。

会議に参加するには、参加を使用します。すでにミーティングが開始されている場合、参加ボタンは使用可能な状態のままです。

スヌーズアイコンが利用できる場合もあります。このアイコンを選択すると、参加のオファーを5分後に延期します。

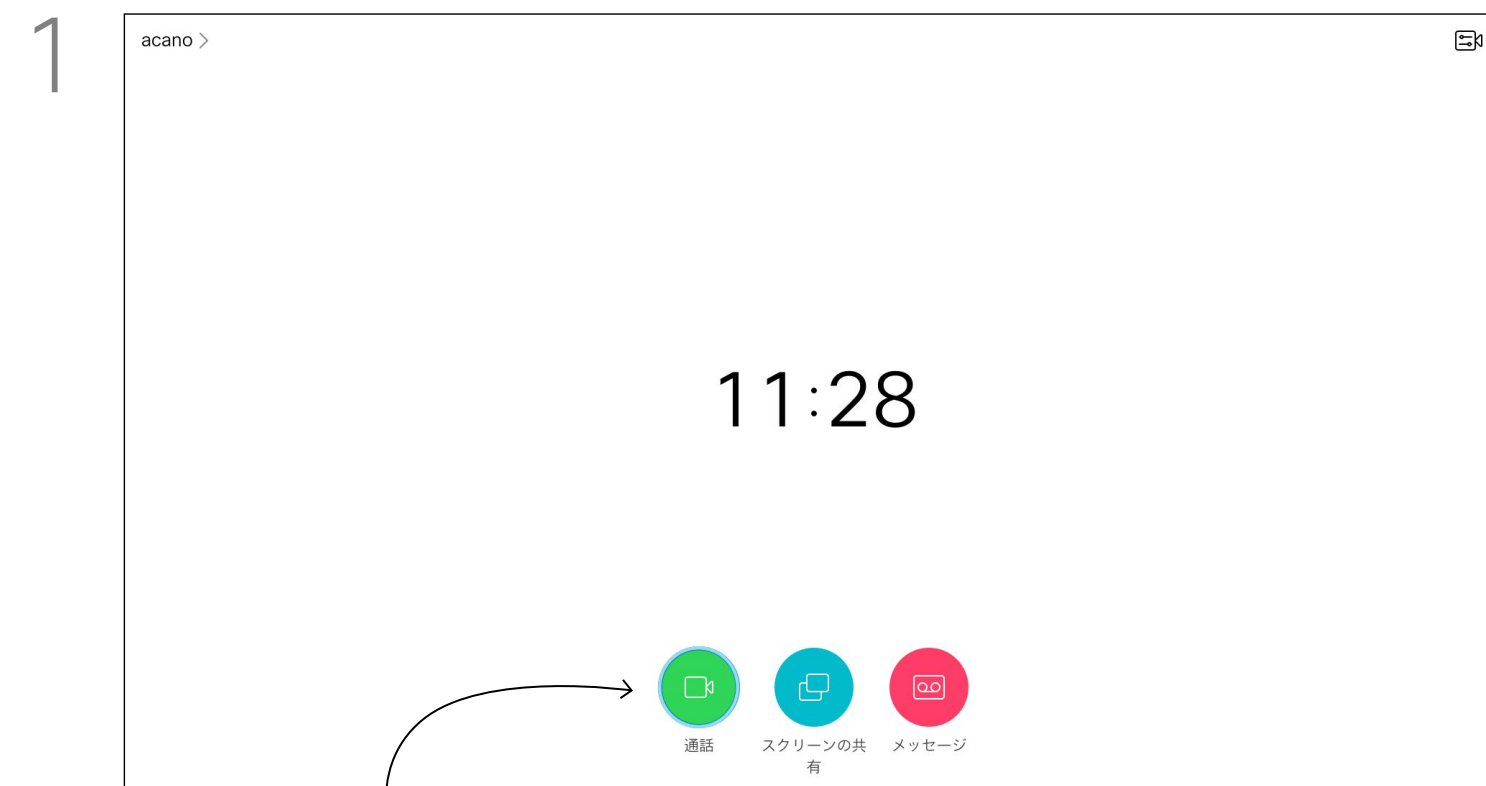
コンタクト



コンタクト

非通話時に [お気に入り] に追加する

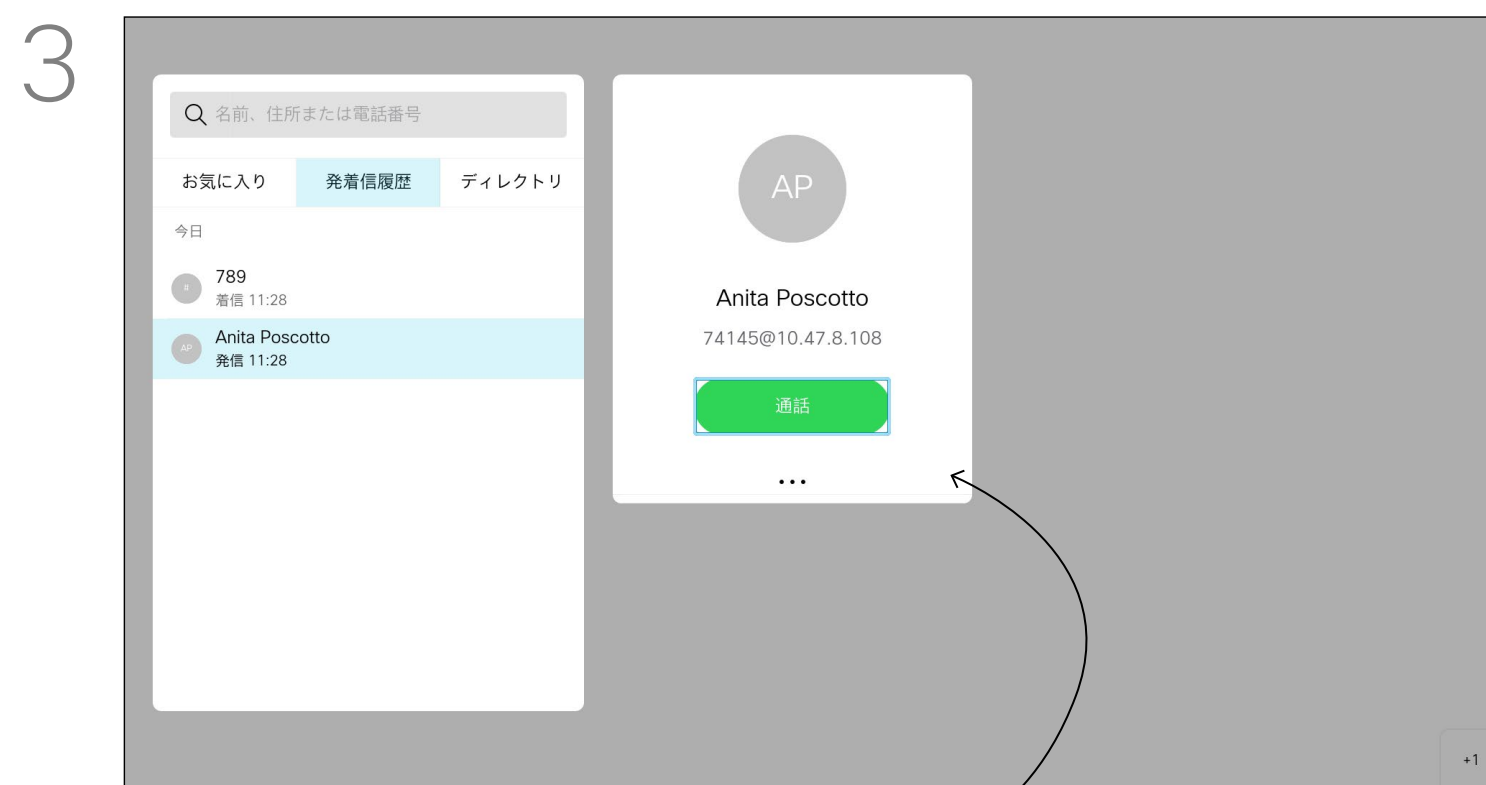
[ディレクトリ (Directory)]、
[発着信履歴 (Recents)]、[お気に入り (Favorites)] について



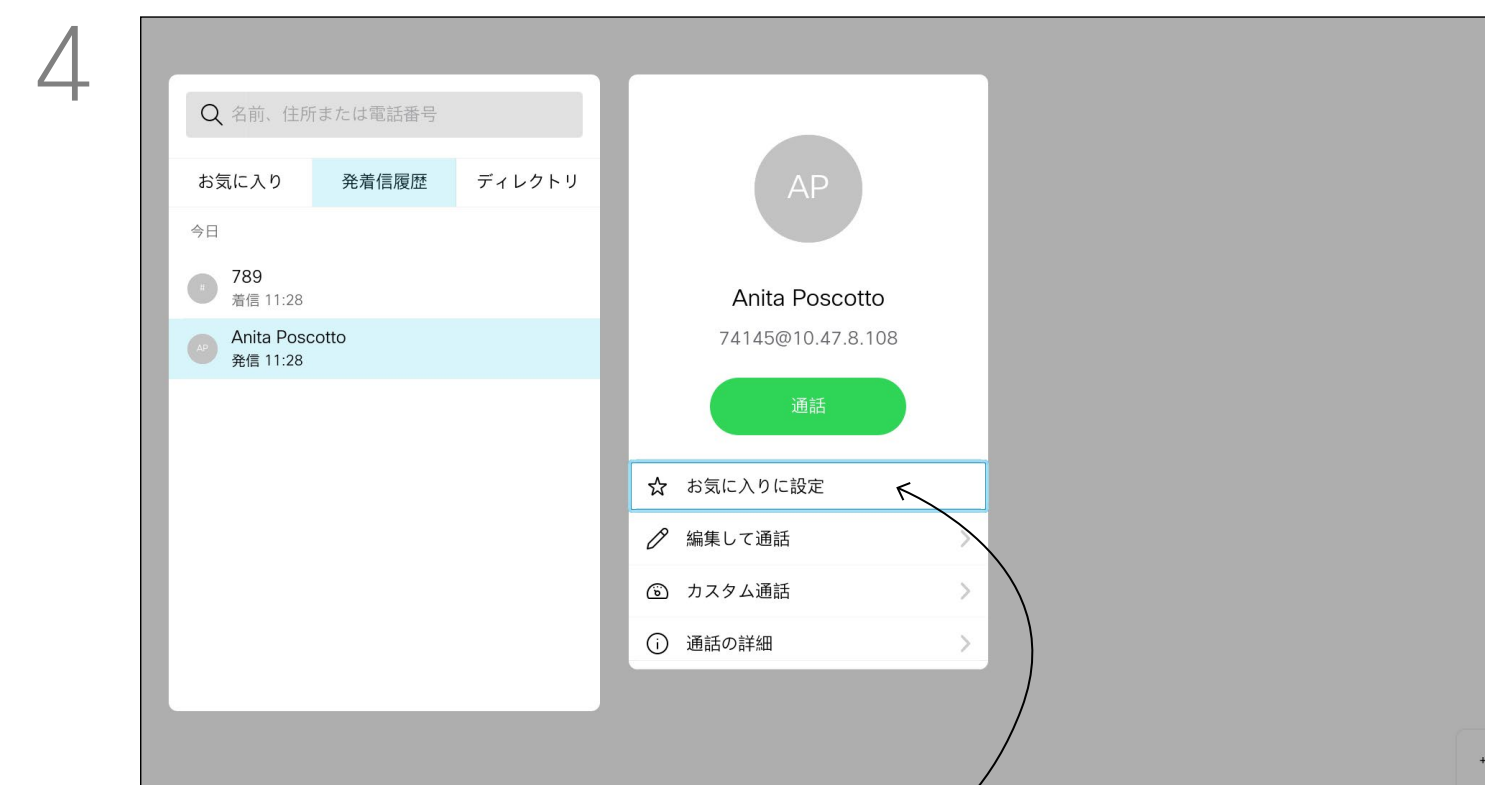
1 通話(画面下部の一番左のフィールド)が選択され、OKが押されているか、またはリモコンの緑色の通話ボタンが押されていることを確認します。



2 通話メニューが開きます。方向キーを使用して、発着信履歴とディレクトリを切り替え(右側の2つ)、いずれかのリストを選択できます。



3 エントリが見つかったら、リモコンの OK を押して 通話メニューを呼び出し、方向キーを使用して、その他(...)に移動します。OKを押します。



4 方向キーを使用して、お気に入りとしてマークに移動します。リモートコントロールの OK を押すと、選択したエントリがお気に入りに追加されます。[お気に入り] リストから誰かを削除するには、この手順を繰り返します。

ディレクトリは、社内電話帳としての役割を果たします。このディレクトリは、ユーザが編集することはできません。お気に入りリストにエントリをコピーして、そこで編集することができます。

コンテンツを表示するフォルダを選択します。必要に応じてスクロールして、フォルダまたはフォルダ内のエントリを検索します。

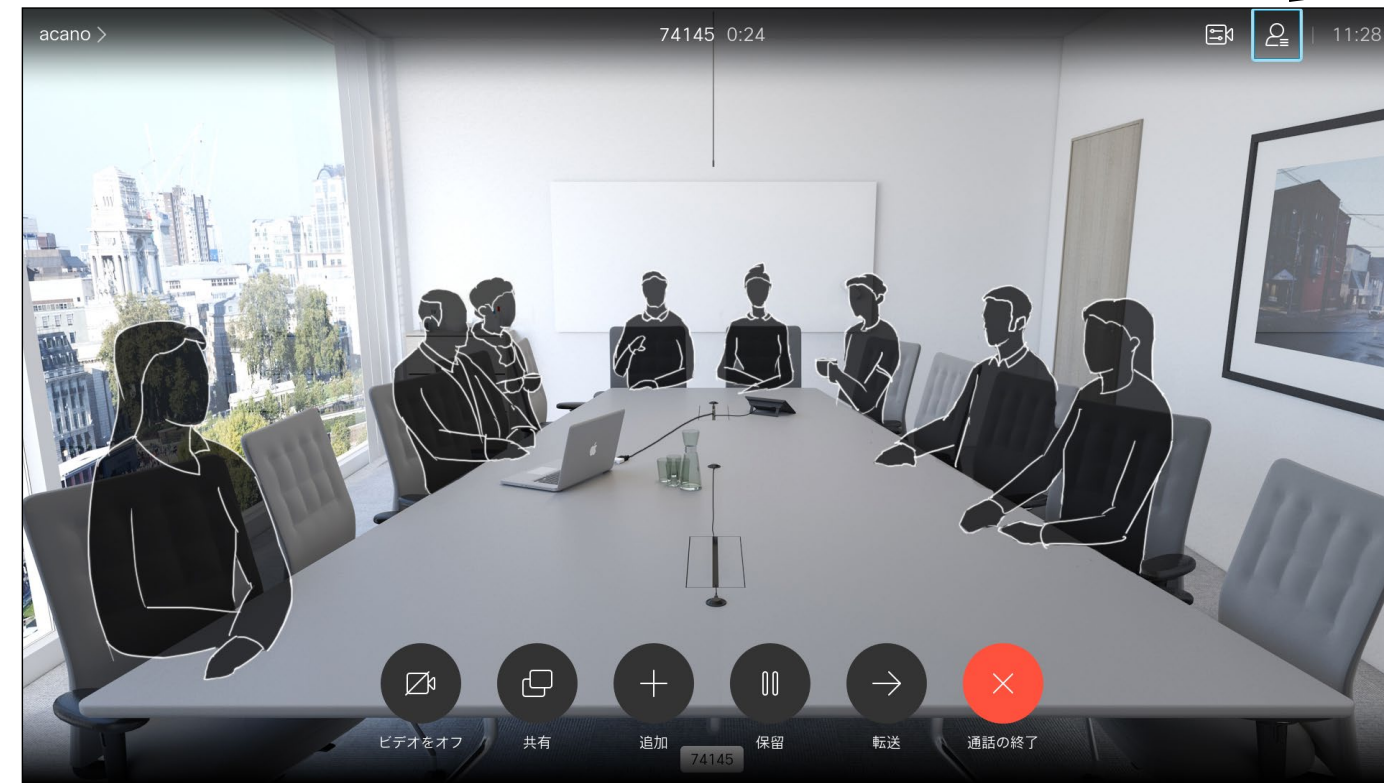
社内ディレクトリ内を検索する場合、検索は現在のディレクトリとそのサブフォルダにのみ適用されます。1つ上のレベルに移動するには、[戻る] を操作します。検索を社内ディレクトリ全体に適用するには、検索する前にフォルダを選択しないでください。

ディレクトリからお気に入りのリストにコピーしたエントリが、その後ディレクトリ内で更新されることがあります。この更新が [お気に入り] リストに反映されていない場合は、[お気に入り] リスト内のエントリを手動で更新する必要があります。手動の更新には、編集して通話を使用します。

コンタクト 通話中に [お気に入り] に追加する

お気に入りについて

1



通話中に、リモートコントロールを使用して右上隅の参加者 アイコンに移動し、リモートコントロールの OK を押します。

2



コールの参加者のリストを表示するメニューが表示されます。方向キーを使用して [お気に入り] に追加する参加者に移動し、リモコンの OK を押します。サブメニューが表示されます。

[お気に入り] は、個人用のディレクトリです。エントリは、社内ディレクトリ (詳細については、前のページを参照してください)、またはコールを発信したユーザから取得できます。

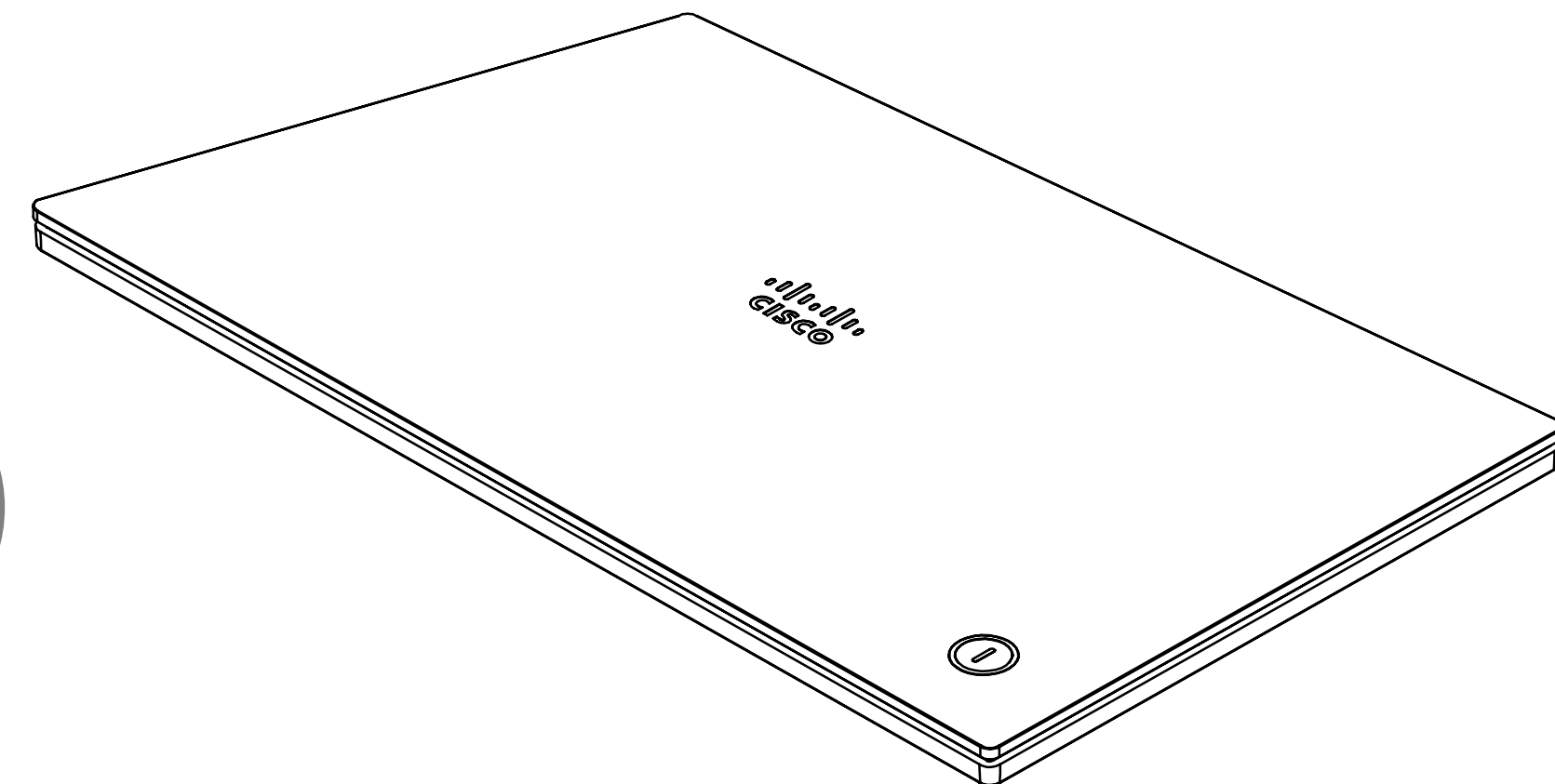
3



次に、このサブメニューの [お気に入り] (一番左) に移動してから、リモートコントロールの OK を押します。選択した参加者が [お気に入り] に追加されます。

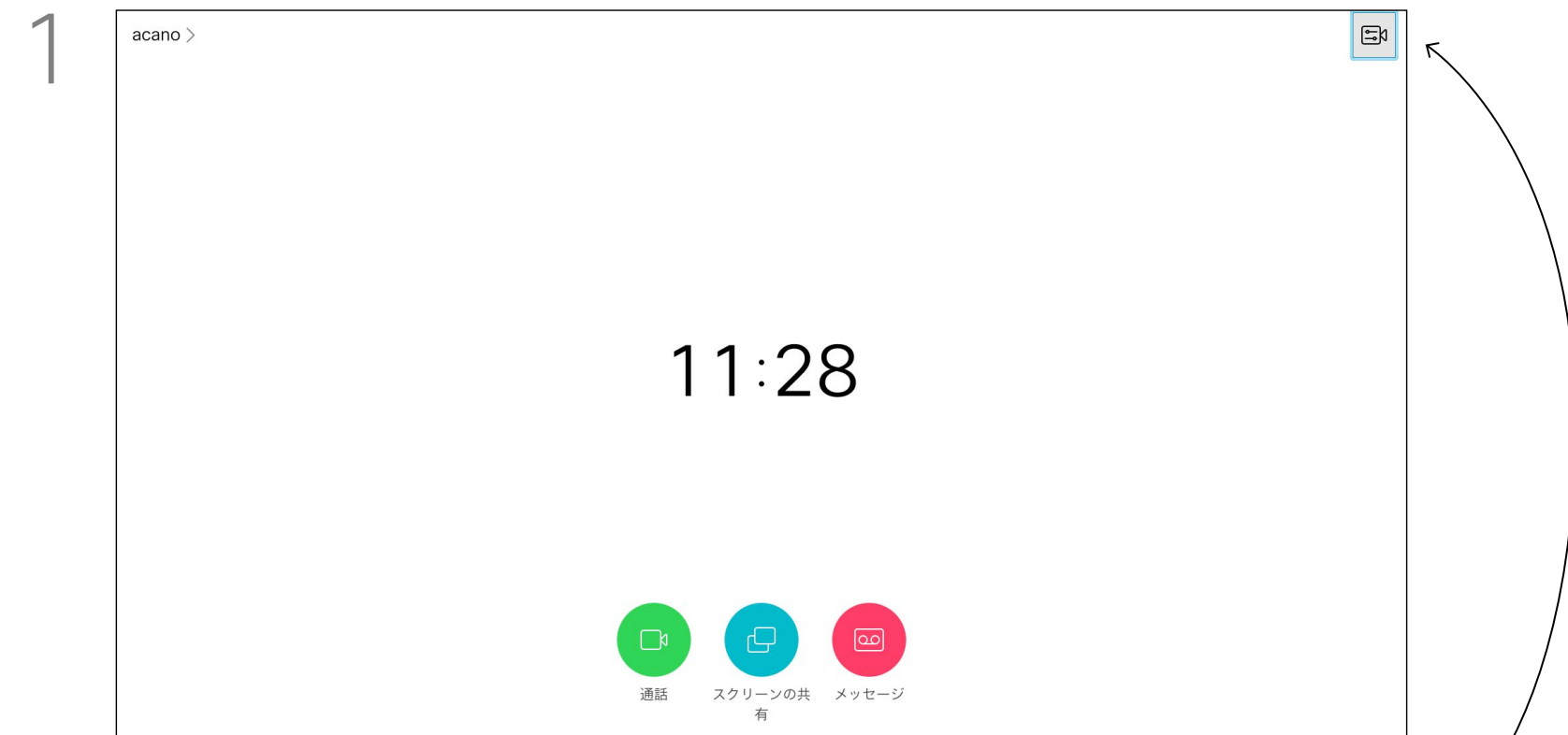
元に戻すには、この手順を繰り返します。

カメラ制御 (Camera Control)



カメラ設定の表示(ローカル カメラ)

カメラ設定について



1 通話中または非通話時に(図を参照)、カーソルを右上のカメラアイコンに置きます。リモートコントロールの OK を押します。



2 カメラのアイコンが表示されます。リモートコントロールの OK をもう一度押します。



3 カメラのパン、ズーム、チルトを調整します。リモコンの増/減コントロールを使用してズームを調整し、方向キーを使用してパンと傾きを調整します。

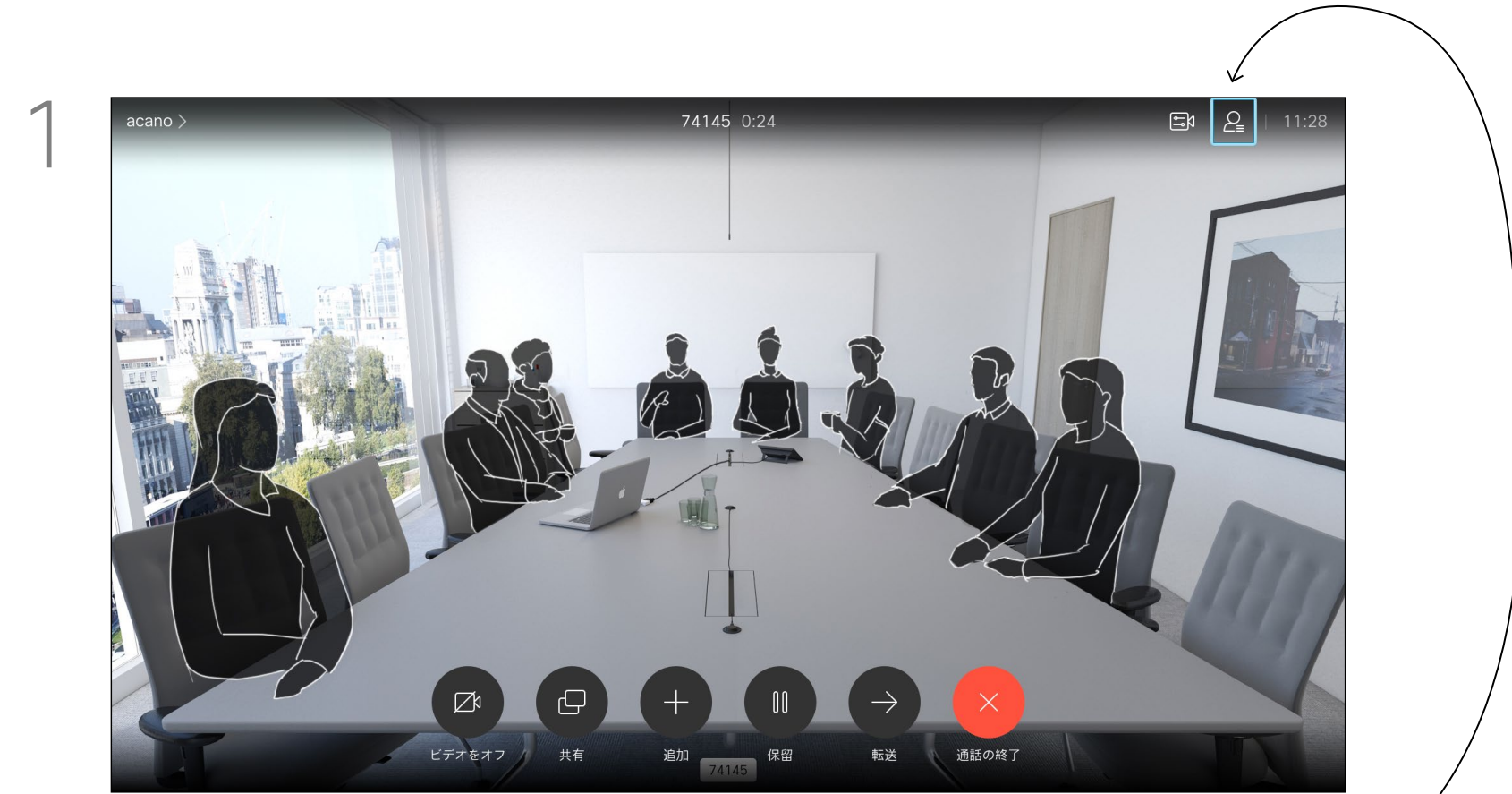


4 このメニューの右上隅にあるアイコンを選択すると、セルフビューイメージを固定 (常に表示) したり、最大化したりすることができます。リモコンの戻るを押してメニューを終了します。

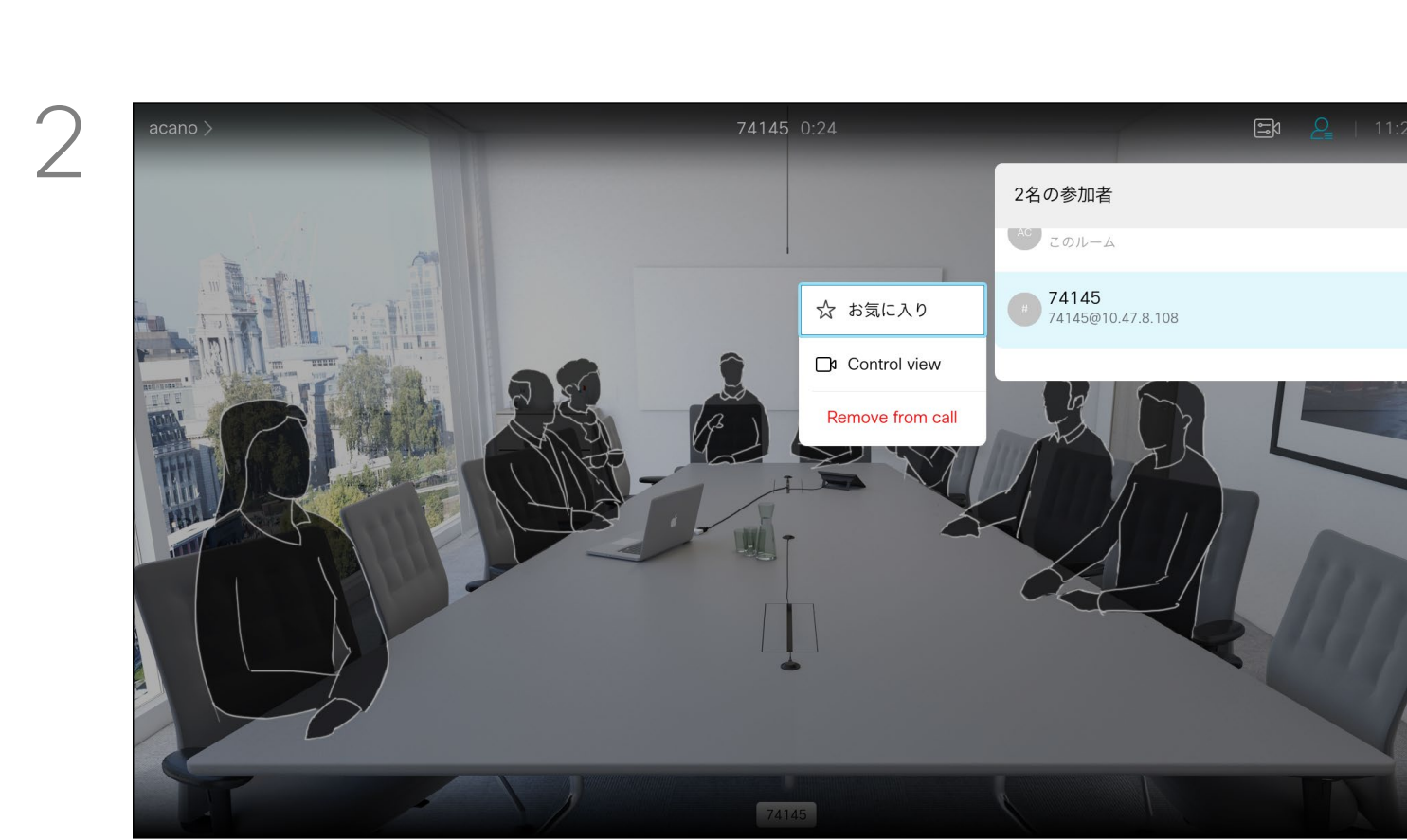
カメラの設定では、自分のカメラのズーム、パン、チルトを制御できます。セルフビュー (デバイスから他のユーザに表示される画像) は、オンまたはオフにしたり、最小化または最大化 (フルスクリーン) 表示することもできます。自画面を常に表示することも可能ですが、この操作をスティッキ(sticky)にするといいます。

カメラ制御 (Camera Control) 遠端カメラ制御

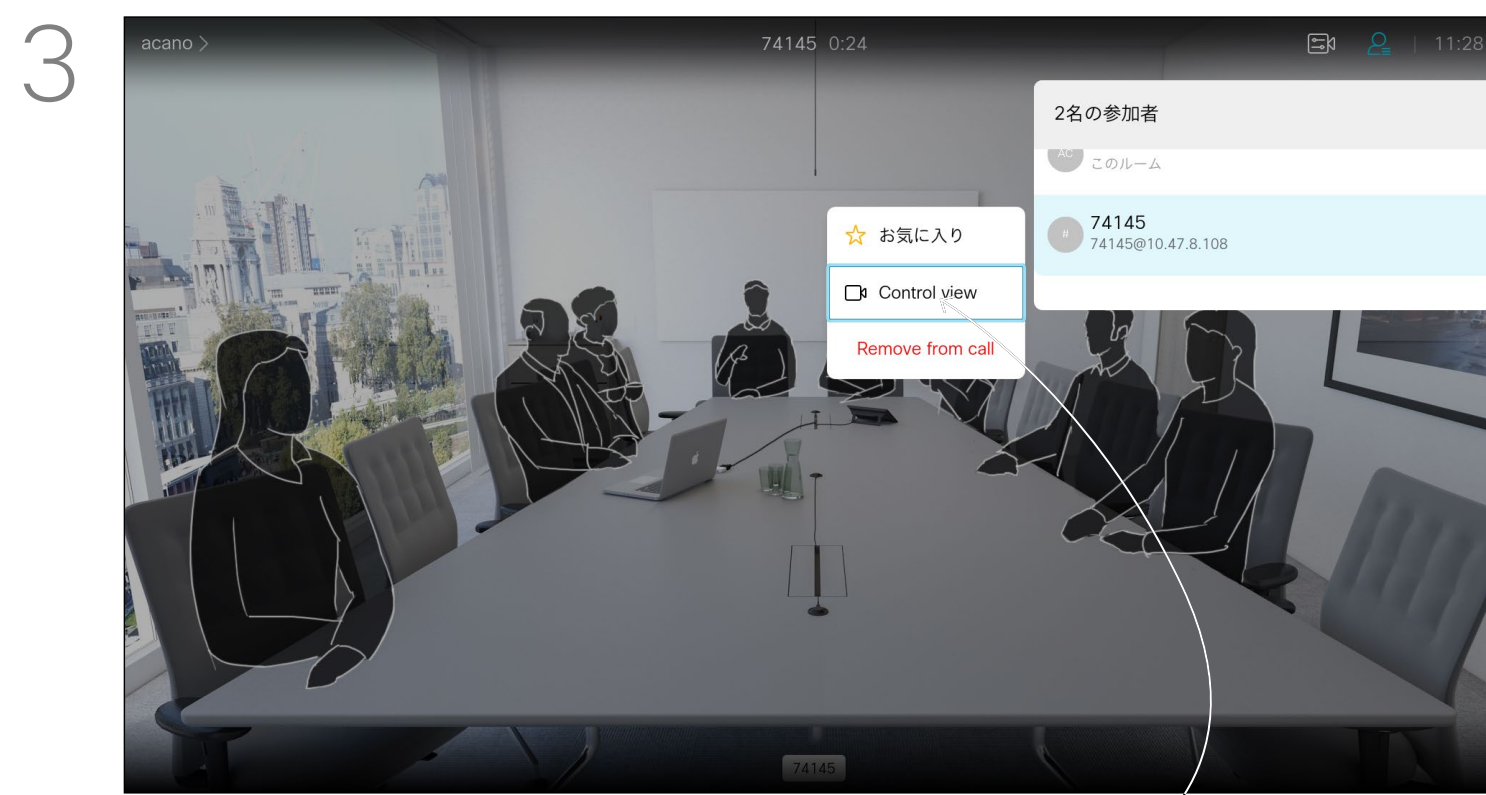
相手先 カメラ操作について



右上隅の参加者に移動し、リモコンのOKを押します。



通話の参加者リストを表示するメニューが表示されます。カメラを制御する参加者に移動し、リモートコントロールのOKを押します。サブメニューが表示されます。



相手先カメラを制御するには、[カメラ(Camera)](右から2番目)に移動してから、リモートコントロールのOKをクリックします。

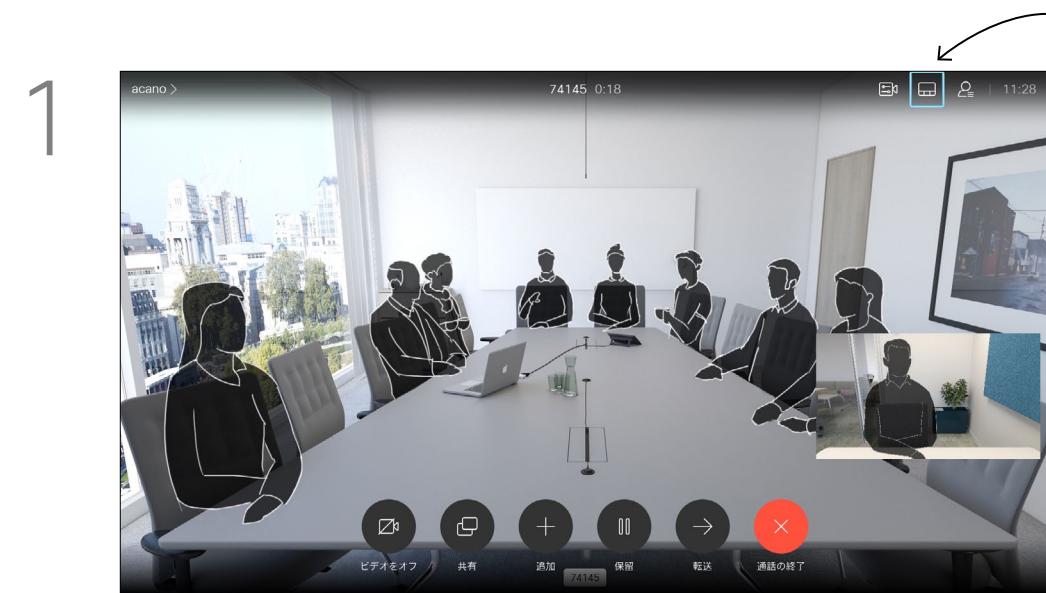


好みに応じて、パン、傾き、およびズームの調整をします。リモートコントロールのOKまたは戻るを使用して終了します。

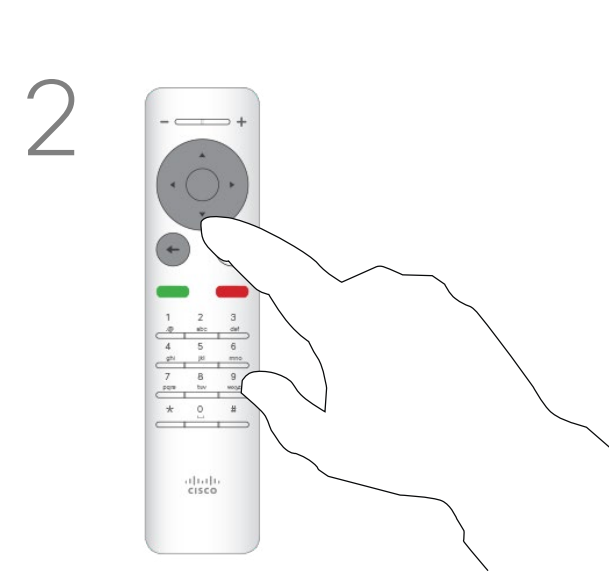
多くのビデオシステムには、リモートで操作できるカメラがあります。このようなシステムでは、リモートコントロールを使用してパン、傾き、およびズームを変更することができます。このようなシステムが相手先(会議の相手)にある場合は、通話中に相手先カメラを制御できます。

自画面 PIP の移動

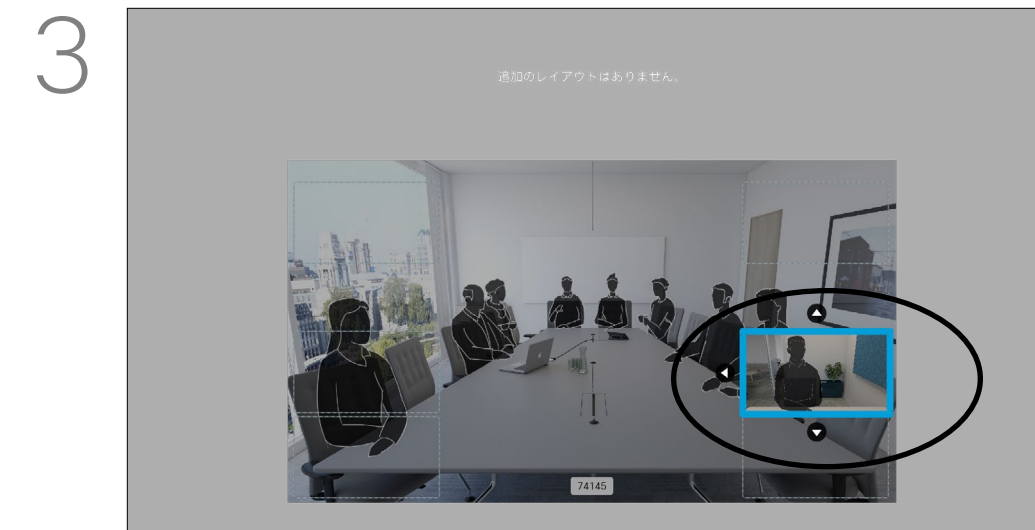
自画面を移動する理由



1 自画面がアクティブである場合、またはピクチャインピクチャが含まれるレイアウトの場合は、右上隅のレイアウトに移動し、リモコンのOKを押します。レイアウトアイコンは、関連がある場合にのみ表示されます。



2 [レイアウト] メニューが開きます。リモコンの方向キーで下矢印を押し、自画面に移動します。



3 自己表示画像は、選択されていると青色に変わります。リモートコントロールのOKを押します。セルフビューの画像を移動できる場合は矢印が表示されます。移動できる新しい場所が示されます。

セルフビューには、ビデオデバイスから他のユーザに見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見えるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

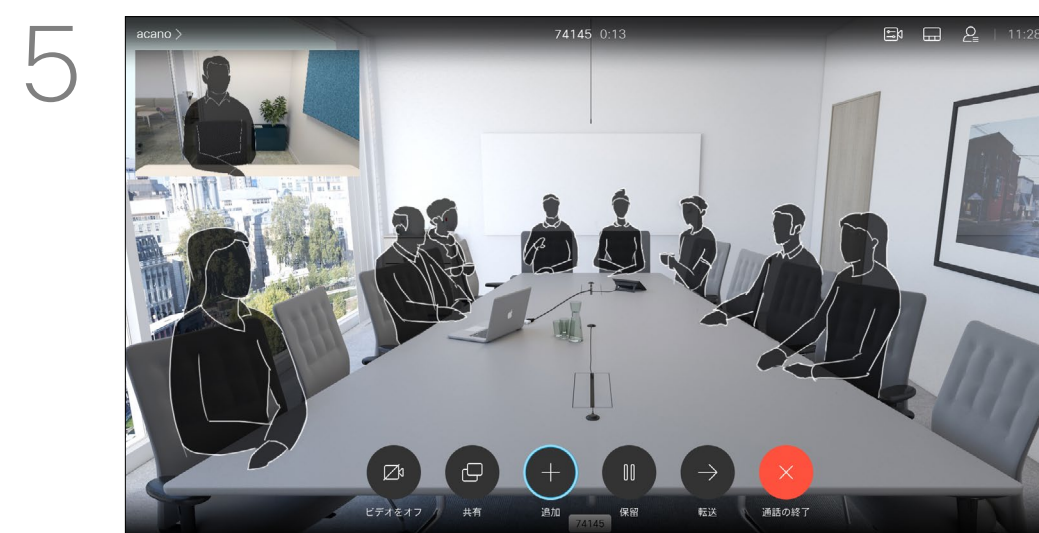
セルフビューは、PiP(ピクチャインピクチャ)として表示されます。

スケジュール中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示し続ける場合です。

セルフビューの現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。重要な部分を表示するようにセルフビューの位置を変更します。



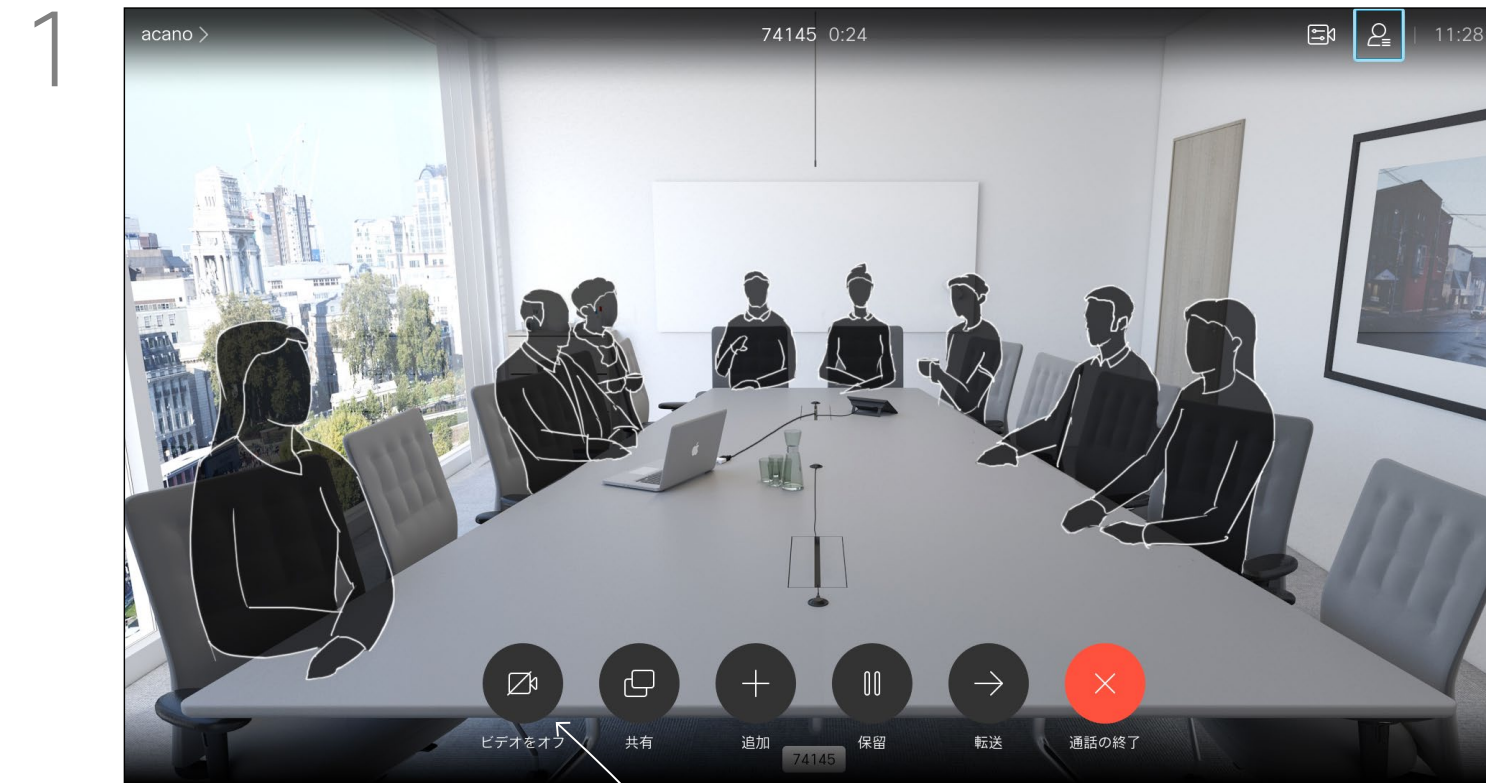
4 リモコンの方向キーを押して、画像を移動します。終わったら、OKを押します。



5 画面上の画像が元のサイズに変更され、セルフビューが新しい位置に表示されます。

カメラ制御 (Camera Control) カメラをオンまたはオフにする

ビデオ オフについて



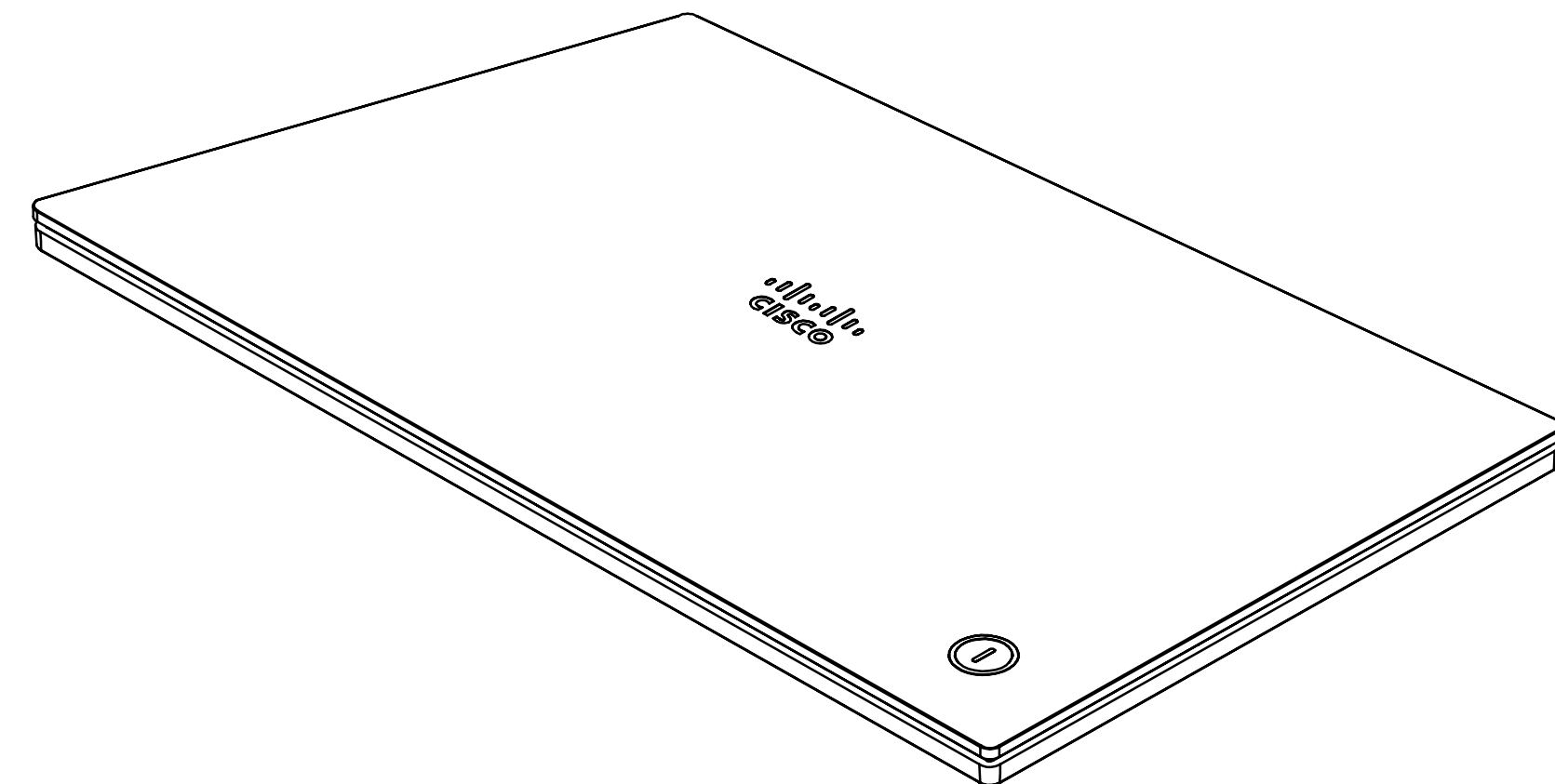
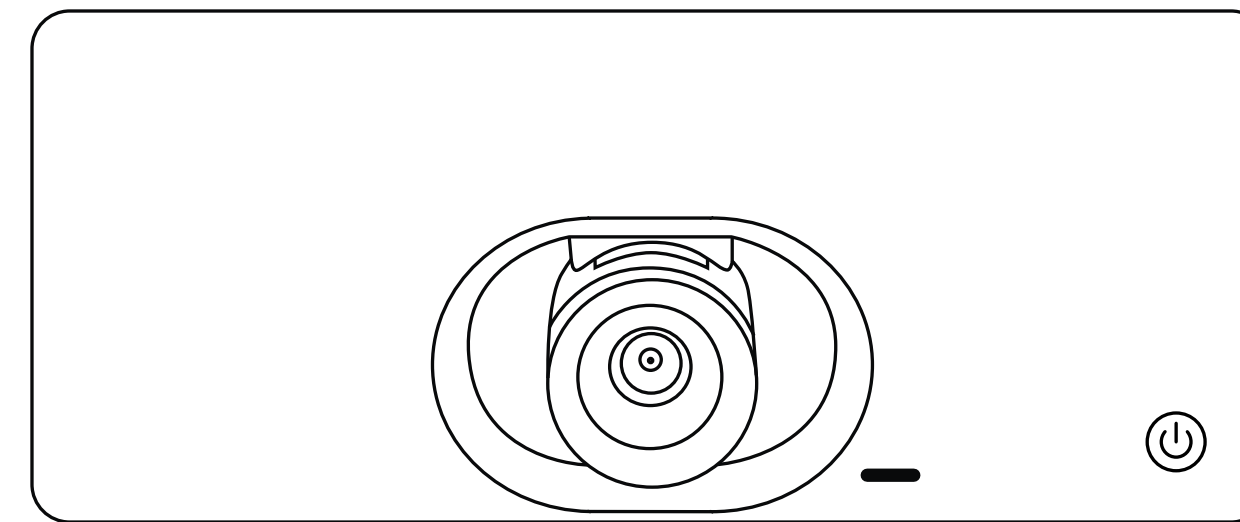
図のように、ビデオをオフにするに移動し、リモコンで、OK を押します。



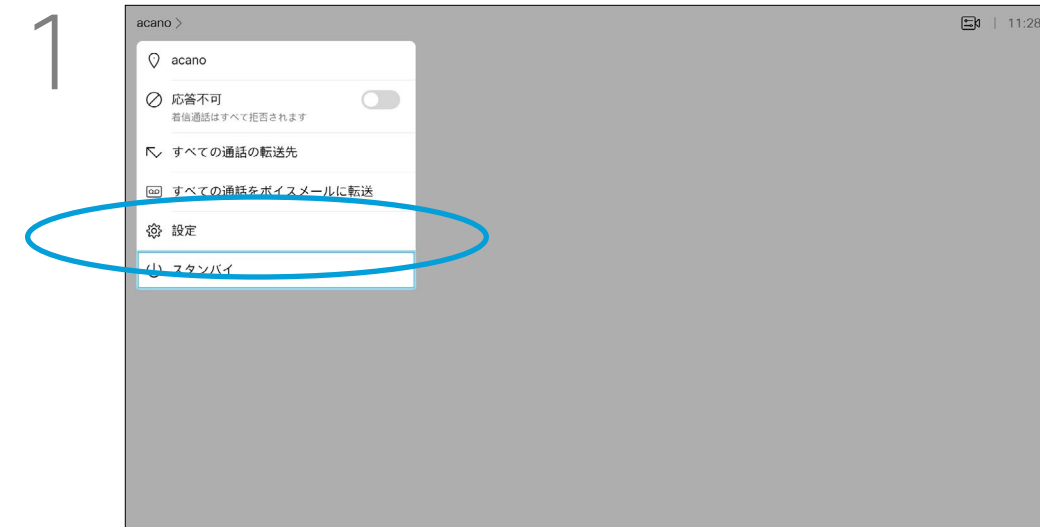
アイコンが赤色に変わり、カメラからビデオが送信されなくなったことを示します。もう一度クリックすると、カメラは再び有効になります。

ビデオの電源オフ機能は、機械的にブロックするオプションがないデバイスで、カメラからのビデオ送信が制御できるように設計されています。

設定



設定 アクセス設定



設定メニューにアクセスするには、画面の左上に移動し、リモートコントロールの **OK** を押します。システム情報(メニューの下から2番目)に移動し、再度 **OK** を押します。



設定メニューから、デバイスの情報を確認したり、設定をいくつか変更することができます。使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。

着信音と音量を変更したり、デバイスを再起動、デバイス情報を確認することができます。

利用可能な設定は、お使いの製品と管理者によって有効にされた機能によって異なります。



北中南米本部
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号はシスコの Web サイト(www.cisco.com/go/offices)をご覧ください。

アジア太平洋本社
Cisco Systems(USA)Pte. Ltd.
シンガポール

ヨーロッパ本社
Cisco Systems International BV Amsterdam,
オランダ

Cisco および Cisco ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)